

一般国道442号八女筑後バイパス

埋蔵文化財調査報告書 V

福岡県八女市亀ノ甲・蒲原・大島・納楚所在遺跡の調査報告書

八女市文化財調査報告書 第87集

2010

八女市教育委員会

一般国道442号八女筑後バイパス

埋蔵文化財調査報告書V

福岡県八女市かめのこう亀ノ甲・かまはら蒲原・おおじま大島・のうそ納楚所在遺跡の調査報告書

平成18年度調査

くすまち楠町 遺跡 3地点 (2次調査) 遺物編

平成19年度調査

くすまち楠町 遺跡 11地点 (3次調査)

ちやのきだ茶ノ木田 遺跡

むただ牟田田 遺跡

やなぎ柳 遺跡 6地点 (3次調査)

かめのこう亀ノ甲・うえぞめ植初 遺跡 (3次調査)

そうず僧都 遺跡

かまはら蒲原・うえぞめ植初 遺跡 (3次調査)

うしろだ後田 遺跡 (5次調査)

平成20年度調査

うしろだ後田 遺跡 (6次調査)

いまやしき今屋敷 遺跡

ふなぞこ船底 遺跡

序

国道442号八女筑後バイパス建設事業に伴い、平成13年度から、当教育委員会では事業地内の埋蔵文化財発掘調査を進めております。平成19・20年度は平成18年度に引き続き、八女市亀ノ甲・蒲原地区の遺跡と、国道3号線より東側の大島・納楚地区を中心として発掘調査を実施いたしました。その結果、弥生時代を中心として貴重な遺跡が発見され、この地域の文化を考える上で重要な成果をあげることができました。

発掘調査にあたりまして、終始ご協力いただきました福岡県、福岡県八女土木事務所、地元町内会、福岡県教育委員会をはじめ、関係各位に深く感謝申し上げます。

平成22年3月31日

八女市教育委員会

教育長 中島 清志

例 言

- 1 一般国道442号八女筑後バイパス建設事業に伴う発掘調査は、福岡県八女土木事務所の依頼を受け、平成13年度を初年度として毎年継続して実施しているが、本書は、平成19・20年度に発掘調査を実施した遺跡の発掘報告書である。なお、平成18年度調査の楠町遺跡3地点(2次調査)から発見された墳墓群の遺物について本年度は遺物編を収録している。
- 2 発掘調査は八女市教育委員会が主体となり実施した。なお、出土遺物の整理は岩戸山歴史資料館で行い、遺物も同所で保管している。
- 3 遺構の実測は、基本的には国土地理院の設定する第Ⅱ座標系を基準としている。
- 4 本書に用いた写真は航空写真企画に委託して製作したものである。なお、各遺跡、遺構、遺物の写真については各担当者が中心となり撮影した。
- 5 各遺跡の担当及び執筆は下記のとおりである。編集は赤崎が行った。

	調査担当	執筆
平成18年度		
楠町遺跡 3地点(2次調査)	赤崎	赤崎
平成19年度		
楠町遺跡 11地点(3次調査)	赤崎	赤崎
茶ノ木田遺跡	赤崎	赤崎
牟田田遺跡	赤崎	赤崎
柳遺跡 6地点(3次調査)	赤崎	赤崎
亀ノ甲・植初遺跡(3次調査)	立石	赤崎
僧都遺跡	立石	赤崎
蒲原・植初遺跡(3次調査)	赤崎	赤崎
後田遺跡(5次調査)	赤崎	赤崎
平成20年度		
後田遺跡(6次調査)	赤崎	赤崎
今屋敷遺跡	赤崎	赤崎
船底遺跡	赤崎	赤崎

本文目次

1	はじめに	1
2	位置と環境	2
3	各遺跡の調査概要	4
平成18年度調査		
1	楠町遺跡3地点(2次調査) 遺物編	4
	(1) 調査の概要	
	(2) 出土遺物(第3地点)	
平成19年度調査		
1	楠町遺跡11地点(3次調査)	13
	(1) 調査の概要	
	(2) 遺構と遺物	
	(3) まとめ	
2	茶ノ木田遺跡	18
	(1) 調査の概要	
	(2) 遺構と遺物	
	(3) まとめ	
3	牟田田遺跡	20
	(1) 調査の概要	
	(2) 遺構と遺物	
	(3) まとめ	
4	柳遺跡6地点(3次調査)	25
	(1) 調査の概要	
	(2) 遺構と遺物	
	(3) まとめ	
5	亀ノ甲・植初遺跡(3次調査)	31
	(1) 調査の概要	
	(2) 遺構と遺物	
	(3) まとめ	
6	僧都遺跡	49
	(1) 調査の概要	
	(2) 遺構と遺物	
	(3) まとめ	
7	蒲原・植初遺跡(3次調査)	53
	(1) 調査の概要	
	(2) 遺構と遺物	
	(3) まとめ	
8	後田遺跡(5次調査)	55
	(1) 調査の概要	
	(2) 遺構と遺物	
	(3) まとめ	
平成20年度調査		
1	後田遺跡(6次調査)	56
	(1) 調査の概要	
	(2) 遺構と遺物	
	(3) まとめ	
2	今屋敷遺跡	59
	(1) 調査の概要	
	(2) 遺構と遺物	
	(3) まとめ	
3	船底遺跡	62
	(1) 調査の概要	
	(2) 遺構と遺物	
	(3) まとめ	

第34回 角

表目次

圖版目次

[illegible]

1 はじめに

一般国道442号八女筑後バイパスは、すでに供用されている八女市都市計画道路室岡平田線と一体となって、八女筑後両市内の交通混雑の解消を目的として事業計画され、現在、部分的に供用されている。

しかし、事業予定地には室岡遺跡群など周知の遺跡のほか、数多くの文化財の包蔵が予想されたため福岡県土木事務所と協議を重ね、平成13年2月14日付けで発掘調査の依頼が提出され、これを受けて八女市教育委員会では事業地内の発掘調査を実施する事とし、平成13年2月14日に委託契約を締結した。平成13年度には八女市の室岡地区に所在する西山ノ上遺跡、四丁堀遺跡。平成14年度には室岡地区に所在する8カ所の遺跡について発掘調査を実施している。

平成15年度には八女市の室岡・亀ノ甲・蒲原地区に所在する5カ所の遺跡約19000㎡について、発掘調査を実施した。平成16年度は前年度に引き続き八女市の室岡・亀ノ甲・蒲原地区に所在する道路建設敷地内5カ所の遺跡約12,000㎡について、発掘調査を実施している。平成17年度は八女市の納楚地区に所在する道路建設敷地内2カ所の遺跡約2,000㎡について発掘調査を実施し、並行して平成13年度に発掘調査を実施した遺跡について、出土遺物等の整理作業を行い報告書作成を行なった。平成18年度は八女市の納楚地区に所在する道路建設敷地内2カ所、亀ノ甲地区の遺跡2カ所、約8,000㎡について発掘調査を実施し、並行して平成14年度に発掘調査を実施した遺跡について、出土遺物等の整理作業を行い報告書作成を行なった。

平成19年度は、発掘調査と並行して平成15・16年度に発掘調査を実施した遺跡について、出土遺物等の整理作業を行い報告書作成を行なった。

平成20年度は、発掘調査と並行して平成15年度に発掘調査を実施した遺跡室岡・亀ノ甲地区の出土遺物と、平成17・18年度に発掘調査を実施した遺跡の整理作業を行い報告書作成を行なった。平成21年度は、発掘調査と並行して平成18年度に発掘調査を実施した納楚地区楠町遺跡の墳墓関係の遺物と平成19・20年度に発掘調査を実施した遺跡の整理作業を行い報告書作成を行なった。

平成18年度・平成19年度・平成20年度及び平成21年度の調査関係者は次のとおりである。

平成18年度（9月まで）

八女市教育委員会

教育長	中島清志
生涯学習課課長	大津山篤
兼学校教育課課長	
生涯学習課課長補佐	古庄龍美
文化財係長	赤崎敏男
同係員	中川寿賀子
	大塚恵治

平成18年度（10月から）

八女市教育委員会

教育長	中島清志
社会教育課課長	飯田せつ子
社会教育課課長補佐	松崎保元
社会教育課文化財係長	赤崎敏男
同係員	中川寿賀子
	大塚恵治

平成19年度

教育長

中島清志

社会教育課課長

飯田せつ子

社会教育課課長補佐

松崎保元

社会教育課文化財係長

赤崎敏男

同係員

中川寿賀子

大塚恵治

同嘱託

立石真治

(10月1日から

平成20年3月31日まで)

平成20年度

教育長

中島清志

社会教育課課長

飯田せつ子

社会教育課参事補佐

松崎保元

〃

江崎邦博

社会教育課文化財係長

赤崎敏男

同係員

中川寿賀子

大塚恵治

平成21年度(1月31日まで)

教育長

中島清志

社会教育課課長

飯田せつ子

社会教育課参事補佐

江崎邦博

社会教育課文化財係長

赤崎敏男

同係員

中川寿賀子

大塚恵治

平成21年度(2月1日から)

八女市教育委員会

教育長

中島清志

教育部長

飯田せつ子

文化課課長

井上富雄

文化課文化財係長

赤崎敏男

同主任

中川寿賀子

同係員

大塚恵治

永田寧

樋口真弓

2 位置と環境

八女丘陵の南側には洪積台地下に沖積地が広がり、広大な平野を形成している。国道3号線と国道442号線の交差する八女市納楚から忠見にかけて、国道南側では矢部川が氾濫を繰り返した痕跡が良く残り、北側では標高36-37mとほぼ平坦な水田がひろがっている。

一般国道442号八女筑後バイパスは、現在の国道の北側にほぼ並行して八女市を東西に横断、国道3号線と交差し八女市納楚付近で現在の442号線と合流する。

平成19年、20年度は、亀ノ甲・蒲原地区、国道3号線との交差付近から442号線と合流する大島・納楚地点を中心に発掘調査を実施した。亀ノ甲・蒲原地区、納楚地区においてはこれまで各所において発掘調査を実施しており、「埋蔵文化財調査報告書 I-IV」に詳細を記している。



1. 柳道跡 2. 楠町道跡 3. 楠道跡2次 4-5. 楠町道跡2次 6. 後田道跡4次 7. 亀ノ甲嶺初道跡2次 8. 志村道跡 9. 折部屋敷道跡 10. 田代道跡2地点 11. 田代道跡1地点 12. 西丁堀道跡2次1・2地点 13. 中道道跡・三反畑道跡 14. 西山ノ上道跡2次 15. 西山ノ上道跡 16. 至岡山ノ上道跡1・2次 17. 亀ノ甲山ノ上道跡 18. 後田道跡 19. 後田道跡2・3次 20. 亀ノ甲嶺初道跡 21. 藤原橋初道跡1・2次 (1~21 一般国道442号八女筑後バイパス) 22. 岩戸山古墳 23. 桑場古墳 24. 西中ノ沢道跡 25. 奥男川道跡 26. 追手道跡 27. 室岡工業団地内道跡 28. 野口道跡 29. 曲田道跡 30. 岡山小学校道跡 31. 岡山公園古墳 32. 一平道跡 33. 稲島中学校校庭道跡 34. 万上田道跡 35. 串氏道跡 36. 鵜野道跡 37. 高島道跡 38. 平田・六反田道跡 39. 楠町道跡3次 40. 茶ノ木田道跡 41. 牟田田道跡 42. 柳道跡3次 43. 亀ノ甲嶺初道跡3次 44. 僧都道跡 45. 藤原橋初道跡3次 46. 後田道跡5次 47. 後田道跡6次 48. 今屋敷道跡 49. 船底道跡

第1図 一般国道442号八女筑後バイパス 楠町道跡 (3次調査)、茶ノ木田道跡、牟田田道跡、柳道跡 (3次調査)、亀ノ甲・楠初道跡 (3次調査)、僧都道跡、藤原・楠初道跡 (3次調査)、後田道跡 (5・6次調査)、今屋敷道跡、船底道跡と周辺の道跡分布図 [1/25,000]

3 各遺跡の調査概要

平成18年度調査

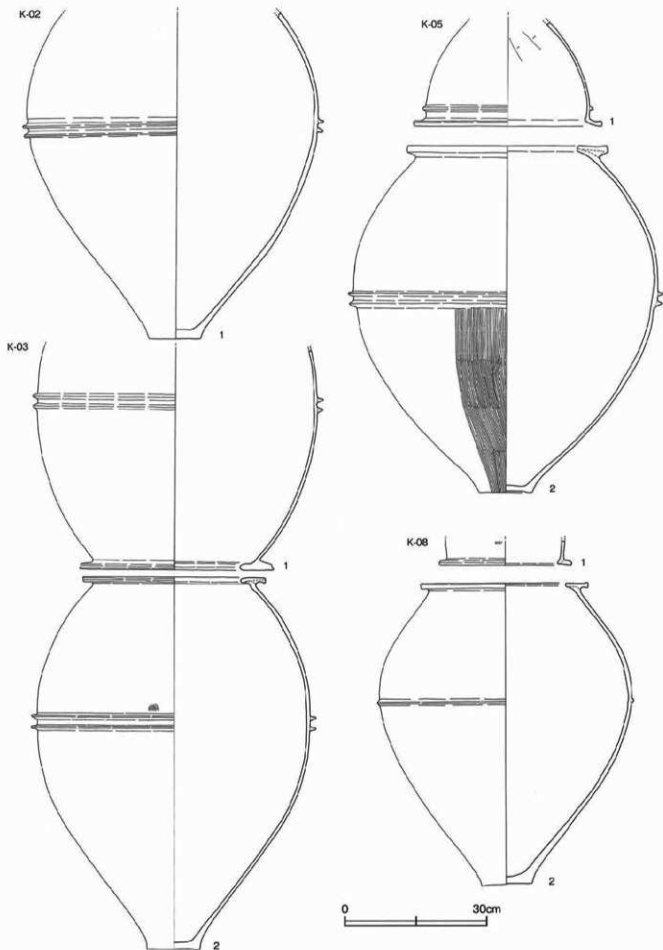
1 楠町遺跡3地点（2次調査）遺物編

（1）調査の概要

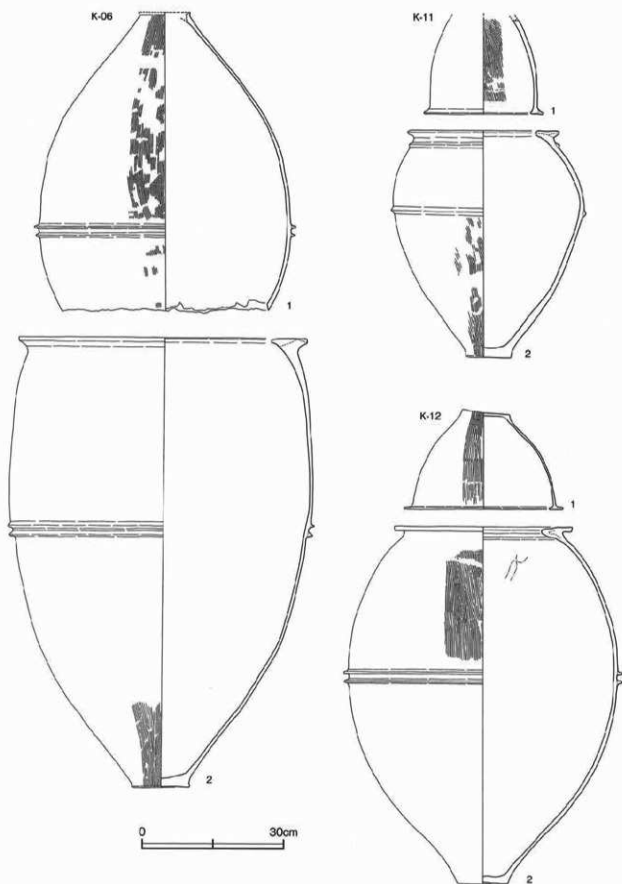
八女市納楚字楠町にあり、平成17年度に調査を開始したが、平成18年度には路線内で買収が終了した納楚納骨堂から東側（6・7・8・9・10地点）及び西側（3・4・5地点）について調査を実施した。調査の結果、縄文時代の落とし穴、弥生時代中期の竪穴住居1軒、溝11条、3地点から同時期の35基の墳墓群、古墳時代竪穴住居1軒、歴史時代の掘立柱建物、土塋、横列、溝が発見されている。遺跡周辺は水田で東側で標高35.1m、最も西側で標高34.4mとはほぼ平坦な地形となる。

（2）出土遺物（第3地点）

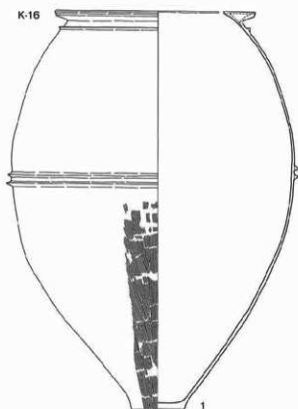
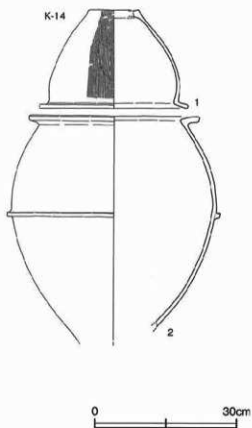
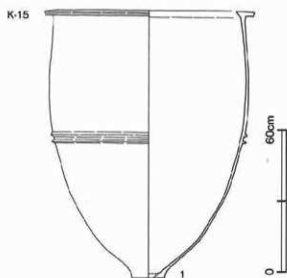
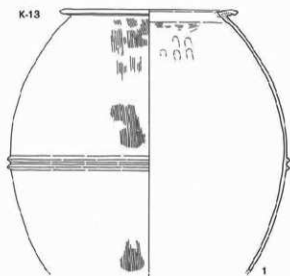
今回発見された遺構は、縄文時代の落とし穴4基、弥生時代中期の甕棺墓25基、木棺墓1基、土塋墓7基、石棺墓2基の計35基の墳墓群が、調査区の東側に南北方向へほぼ規則的に二列をなして検出された。また、墳墓群のほか、墳墓群の周辺から祭祀用土塋2基と時期不明の多数の柱穴が検出された。今回の調査ではこの墳墓群以外から墳墓は発見されていない。



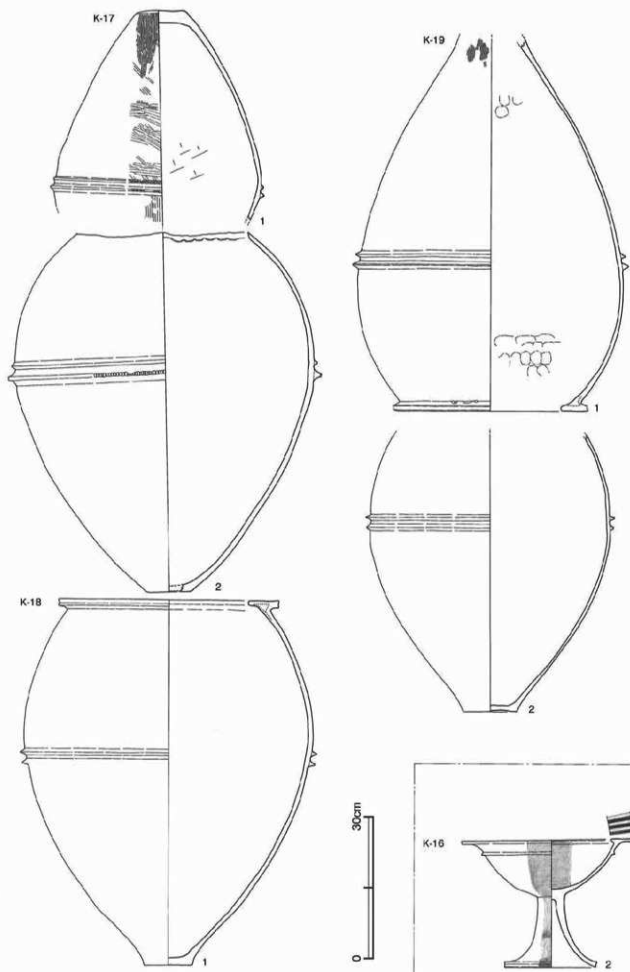
第2図 柿町遺跡2次 甕棺墓 (2.3.5.8号墓) 出土土器実測図 (1/8)



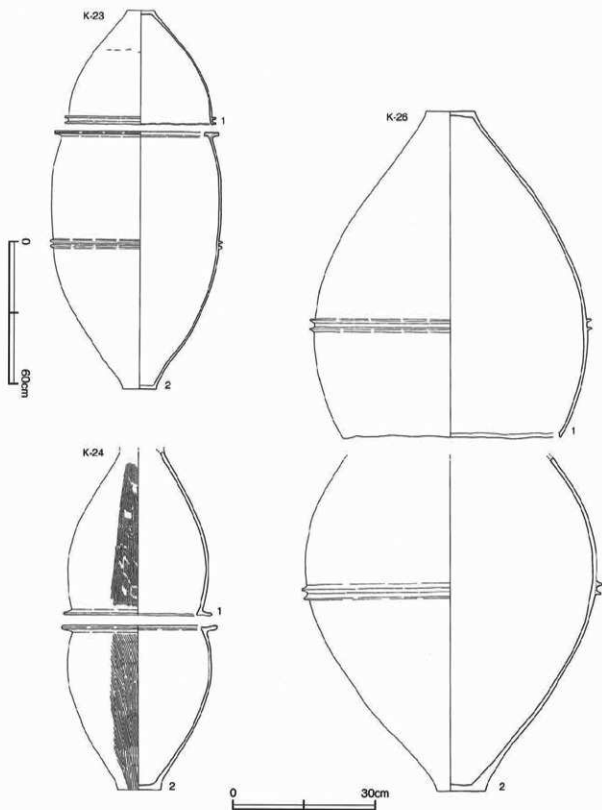
第3図 柿町遺跡2次 甕棺墓(6.11.12号墓)出土土器実測図 [1/8]



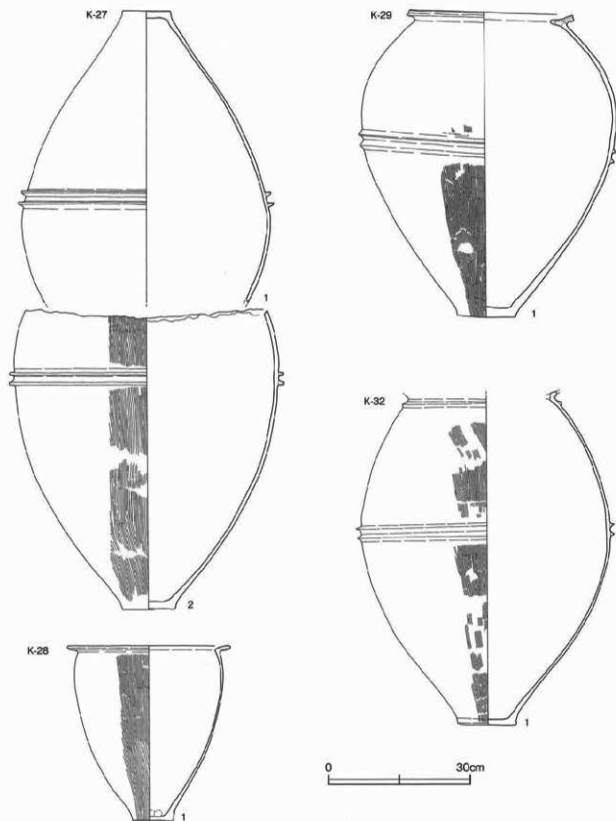
第4図 楠町遺跡2次 甕棺墓 (13~16号墓) 出土土器実測図 [1/8] [1/16]



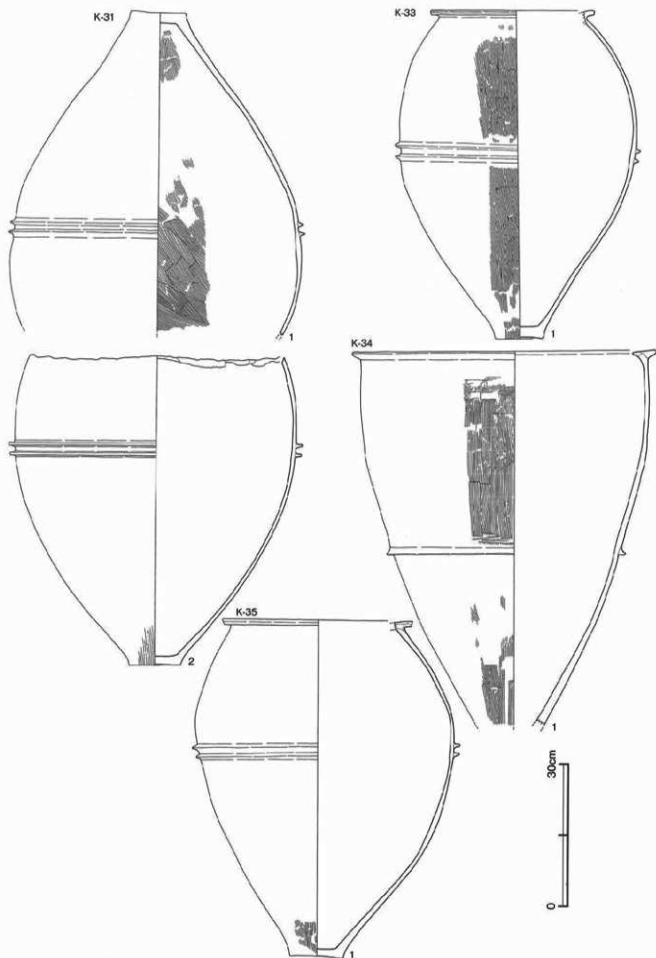
第5図 柿町遺跡2次 甕棺墓 (16~19号墓) 出土土器実測図 (1/8)



第6図 楠町遺跡2次 甕棺墓 (23.24.26号墓) 出土土器実測図 (1/8) [1/16]



第7図 楠町遺跡2次 甕棺墓(27.28.29.32号墓)出土土器実測図〔1/8〕



第8図 柿町遺跡2次 甕棺墓 (31.33.34.35号墓) 出土土器実測図 (1/8)

押出 番号	出土 遺構	遺構 番号	部 種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	土 質	色 調	焼成	面 積	備 考
										外 面	内 面
第2回	K02	1	甕脛(下壁3/4片)		10.8		1~5mm次の小石が混ざる 砂粒を含む(赤色粘土を含む)	淡黄茶褐色(外:黒灰有り)	やや不良	ヨコナデ(やや厚紙) 不明(厚紙)	不明(厚紙)
	* K03	1	甕脛(下壁1/3片)	40			3mm以下の砂粒、角閃石、赤色 粘土を含む	淡黄茶褐色(外:黒灰有り)	やや不良	工具によるナデ(厚 紙)、ヨコナデ	不明(厚紙)、 ヨコナデ
	*	2	甕脛(下壁1/2片)	58.6	11.3	78.9	3mm以下の砂粒、角閃石、赤色 粘土、雲母微粒子を多く含む	淡黄茶褐色(外:黒灰有り)	やや良好	ヨコナデ、 ハケ目(厚紙)	不明(厚紙)、 ヨコナデ
	* K05	1	甕脛(上壁1/3片)	40			小石が混ざる、砂粒を含む	黄褐色(黒灰有り)/黄灰褐色	普通	ヨコナデ(厚紙)、不明 (厚紙)、ナデ、ハケ目	不明(厚紙)、 ヨコナデ
	*	2	甕脛(下壁1/2片)	41	11	73.4	3mm以下の砂粒、角閃石、赤色 粘土を含む	明黄茶褐色(外:黒灰有り)	やや良好	ヨコナデ(厚紙)、不明 (厚紙)、ナデ、ハケ目	不明(厚紙)、 ヨコナデ
	* K08	1	甕脛(上壁口縁部片)	27.6			1~5mm次の小石が混ざる 砂粒を含む	淡黄褐色	やや不良	不明、ハケ目(厚紙)	不明(厚紙)
	*	2	甕脛(下壁3/5片)	25.6	10.6	63.7	1~5mm次の小石が混ざる 砂粒を含む	淡黄褐色(外:黒灰有り)	普通	ヨコナデ、ナデ	不明(厚紙)、 ヨコナデ
第3回	K06	1	甕脛(上壁1/2片)	42.6			0.5mm以下の砂粒、角閃石を 含む	淡黄茶褐色(外:黒灰有り)	やや不良	ヨコナデ、ハケ目、 ハケ目(厚紙)	工具によるナデ (口縁部)
	*	2	甕脛(下壁1/2片)	60.6	12	95.4	0.5mm以下の砂粒、角閃石を 含む	淡黄茶褐色(外:黒灰有り)	やや良好	ヨコナデ、ハケ目、不明 (厚紙)、ヨコナデ(厚紙)	工具によるナデ、 ヨコナデ、ナデ
	* K11	1	甕脛(上壁1/3片)	25.2			1~4mm次の小石が混ざる 砂粒を含む	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ
	*	2	甕脛(下壁3/5片)	32			1~5mm次の小石が混ざる 砂粒を含む	淡黄褐色(外:黒灰有り)	普通	ヨコナデ、ハケ目後ヨ コナデ、ナデ	ナデ
	* K12	1	甕脛(上壁3/4片)	33.7	10	20.5	0.5mm以下の砂粒、石英粒、 赤色粘土を含む	淡黄茶褐色	やや良好	不明、ハケ目(厚紙) ハケ目	ナデ、ヨコナデ
	*	2	甕脛(下壁1/2片)	37.6	10.5	75.7	3mm以下の砂粒、雲母、赤色粘土 を含み、ときに角閃石を多く含む	淡黄茶褐色	やや良好	ハケ目、ヨコ方向の ナデ、不明(厚紙)	指圧痕、ヨコ方向の ナデ、指圧痕、 不明(厚紙)
第4回	K13	1	甕脛(下壁1/2片)	37.4		55.4	3mm以下の砂粒、角閃石を含む	明黄茶褐色/黄茶褐色	やや良好	ヨコナデ、 ハケ目(厚紙)	不明(厚紙)
	* K14	1	甕脛(上壁3/4片)	31.1		20.6	砂粒を含む	黄茶褐色(外:黒灰有り)	普通	ヨコナデ、ナデ、 ハケ目	ナデ、ヨコナデ
	*	2	甕脛(下壁底部欠損)	36			1~2mm次の小石が混ざる 砂粒を含む	黄褐色(外:黒灰有り)	普通	ヨコナデ、ナデ	ナデ
	* K15	1	甕脛(下壁1/2片)	44	7	55.6	0.5mm以下の石英、角閃石、 赤色粘土を多く含む	淡黄茶褐色	やや良好	ヨコナデ(厚紙)、工具 によるナデ、不明(厚紙)	ナデ、不明(厚紙)
	* K16	1	甕脛(下壁1/2片)	11	84.3		1~2mm以下の砂粒を含む わずかに角閃石を含む	淡黄茶褐色(外:黒灰有り)	やや良好	ヨコナデ、工具による ナデ、ナデ、不明(厚紙)、 ハケ目(やや厚紙)	ヨコナデ、工具による ナデ
第5回	K17	1	甕脛(上壁口縁部欠損)	10.3			1~3mm次の小石が混ざる 砂粒を含む	黄褐色/ 淡黄茶褐色(内:黒灰有り)	普通	ハケ目(厚紙)、前ヨ コナデ、ハケ目後 ハケ目(厚紙)	ナデ、 ヘラ磨き後ナデ
	*	2	甕脛(下壁1/2片)	36	9.2	76	3mm以下の砂粒、雲母微粒子を 含む	明黄茶褐色(外:黒灰有り)	やや良好	不定方向の工具による 強いナデ、斜目、ナデ 向の工具によるナデ	不明(厚紙)
	* K18	1	甕脛(下壁1/2片)	46.4	10.5	77.5	3mm以下の石英、砂粒を含む	明黄茶褐色(外:黒灰有り)	やや良好	ヨコナデ、工具による ナデ、不明(厚紙)	ヨコナデ、不定方向 のナデ、ナデ、不明 (厚紙)
	* K19	1	甕脛(上壁1/2片)	41		70.9	3mm以下の砂粒、雲母微粒子を 多く含む、角閃石も少量混入	明黄茶褐色(一部黒褐色)/ 明灰色、明灰色(外:黒灰有り)	やや良好	ナデ方向のナデ、 ヨコ方向のナデ	ヨコ方向のナデ、強い 指圧痕、不定方向 の工具によるナデ
	*	2	甕脛(下壁1/3片)		11.3	58.8	3mm以下の砂粒、金雲母を含 み、ときに角閃石を多く含む	明黄茶褐色/黄白色	やや良好	不定方向のナデ	不明(厚紙)
	* K16	2	高弁(厚底底部欠損)	36.5	19.2	27.1	砂粒を含む	丹塗/淡褐色	普通	丹塗	シガリ、ヨコナデ、 丹塗
第6回	K23	1	甕脛(上壁復原に てはば定形)	23.6	11.5	48.5	3mm以下の砂粒、赤色粘土、 角閃石を多く含む	赤褐色/黄茶褐色	やや良好	ヨコナデ、 工具によるナデ	ヨコナデ、不明、 工具によるナデ
	*	2	甕脛(下壁1/2片)	24.4	7	54.6	0.5mm以下の石英、砂粒を含む	淡黄茶褐色(外:黒灰有り)	やや良好	ヨコナデ、工具による ナデ	不明、 工具によるナデ
	* K24	1	甕脛(上壁底部欠損)	30.9			砂粒を含む	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ、ヨコナデ
	*	2	甕脛(下壁復原は ば定形)	32.4	9	35	1~3mm次の小石が混ざる 砂粒を含む	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目(一 部やや厚紙)	ナデ
	* K26	1	甕脛(上壁1/2片)	45.7	10.4	69	3mm以下の砂粒、石英、角閃石 を多く含む	黄茶褐色(外:黒灰有り)	やや不良	ヨコナデ、工具による ナデ、不明	不明(厚紙)
	*	2	甕脛(下壁下半部 1/2片)	10.1		10.1	1~7mm次の小石が混ざる 砂粒を含む、赤色粘土を含む	淡黄茶褐色(外:黒灰有り)	やや不良	ヨコナデ、 不明(厚紙)	不明(厚紙)
第7回	K27	1	甕脛(上壁下半部 1/2片)	10.2		60.2	3mm以下の砂粒、雲母微粒子 を含み、ときに角閃石を多く含む	明黄茶褐色(外:黒灰有り)/明黄 色	やや良好	不定方向のナデ、 不明(厚紙)	不明(厚紙)、表層
	*	2	甕脛(下壁1/2片)	51.2	11	65.4	3mm以下の砂粒、角閃石を多 く含む	明黄茶褐色(外:黒灰有り)/ 淡黄褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目、 不明(厚紙)	不明(厚紙)、指圧痕
	* K28	1	甕脛(下壁1/2片)	24.6	8.7	37.1	1~3mm次の小石が混ざる 砂粒を含む	淡黄褐色(口縁部一部黒 褐色)、底部黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目(厚 紙)、ナデ、指圧痕	ナデ、ヨコナデ、 指圧痕
	* K29	1	甕脛(下壁3/5片)	34	12.2	64.7	1~5mm次の小石が混ざる 砂粒を含む	淡黄茶褐色(外:黒灰有り)	普通	ヨコナデ、ハケ目、 ナデ	ナデ(厚紙)
	* K32	1	甕脛(下壁2/4片)	12.5			赤色粘土、砂粒を含む	淡黄茶褐色(外:黒灰有り)	やや不良	ヨコナデ、斜めハ ケ目(厚紙)、不明	不明(厚紙)
第8回	K31	1	甕脛(上壁3/4片)	11.4			砂粒を含む	淡黄茶褐色(外:黒灰有り)	普通	ナデ、ヨコナデ	ハケ目後ナデ、 ハケ目(やや厚紙)
	*	2	甕脛(下壁口縁部 一部欠損 厚底は定形)	53.6	10.9	65.5	明赤褐色、黄茶褐色(外:黒灰有 り)/明黄茶褐色	明赤褐色、黄茶褐色(外:黒灰有 り)/明黄茶褐色	やや良好	ナデ、ハケ目、不明 (厚紙)	ナデ、不明(厚紙)
	* K33	1	甕脛(上壁3/5片)	33.4	9.9	65.8	1~5mm次の小石が混ざる 砂粒を含む、赤色粘土を含む	淡黄茶褐色(外:黒灰有り)	普通	ヨコナデ、 ハケ目(厚紙)	不明、ナデ(厚紙)
	* K34	1	甕脛(下壁3/5片)				1~5mm次の小石が混ざる 砂粒を含む	黄茶褐色(外:黒灰有り)	普通	ヨコナデ、 ハケ目(厚紙)	ナデ、ヨコナデ
	* K35	1	甕脛(下壁2/3片)	40.1			1~3mm次の小石が混ざる 砂粒を含む	淡黄茶褐色(外:黒灰有り)	やや不良	ヨコナデ、 ハケ目(厚紙)、ナデ	ナデ、ヨコナデ

表1 柿町遺跡2次 出土土器観察表

平成19年度調査

1 楠町遺跡11地点（3次調査）

（1）調査の概要

楠町遺跡5地点は八女市納楚字楠町に所在する。平成18年度に調査を実施し、35基の墳墓群が発見された3地点の農道を隔てた西側にあたる。発掘調査前は水田で標高約34m、ほぼ平坦である。

（2）遺構と遺物

今回発見された遺構は、落とし穴4基、溝1条と多数の柱穴がある。

土壌（SK）

SK18（第11図・図版2）

SK21と切り合っている。隅丸長方形で長さ1.7m、幅0.7mの土壌、深さ108cm。底の中央と両側に直径6cm、深さ10cmのビットが3個あったと思われる。遺物は出土していない。

SK19（第11図・図版2）

隅丸長方形で長さ1.3m、幅0.6mの土壌で、深さ78cm。底の両側に直径6cm、深さ10cmのビットがあり、落とし穴と思われる。遺物は出土していない。

SK20（第11図・図版2）

隅丸長方形で長さ1.6m、幅0.6mの土壌で、深さ94cm。底の中央と両側に直径6cm、深さ3-10cmのビット3個があり、中央のビットが浅い。落とし穴と思われる。遺物は出土していない。

SK21（第11図・図版2）

SK18と切り合っている。隅丸長方形で長さ1.6m、幅0.8mの土壌で、深さ120cm。底の中央に直径10cm、深さ10-18cmのビットが2個あり、落とし穴と思われる。遺物は出土していない。

溝（SD）

今回の調査では1条の溝が発見された。

SD13（第10図・図版2）

調査区の北から南側に一直線に延びる溝で約15m検出した。が、途中で削平のためか消滅する。

溝の幅は30-50cmで、深さも北側で15cm（底面標高33.92m）、南側で5cm（底面標高34.07m）。遺物として弥生時代中期の丹塗り高坏片、甕片、古墳時代の須恵器坏蓋片、甕片、中世の青磁碗片、瓦質土器片、土師器小皿片、石製品として砂岩製砥石が出土している。

（3）まとめ

今回の発掘調査では縄文時代の落とし穴4基、中世の溝1条が発見された。

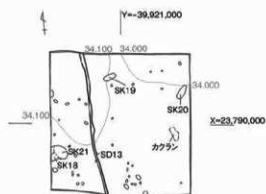
落とし穴は楠町遺跡1次調査1地点から2基、2次調査3地点から4基発見されており、3次調査5地点から発見された4基と合わせて10基となる。調査が道路路線内と限られているが、落とし穴の分布は50m以内と比較的狭い範囲に集中している。また、その構造も床面に2-5個の小ピットを並べており、ほぼ同じ時期に掘削され利用されたものと考えられる。

調査区の東側から南北に延びた一条の溝が発見された。出土遺物から中世の溝で幅30-50cm、深さ15cmと、2次調査4地点で発見されたSD04とほぼ同時期と思われるが両溝の関係は不明である。

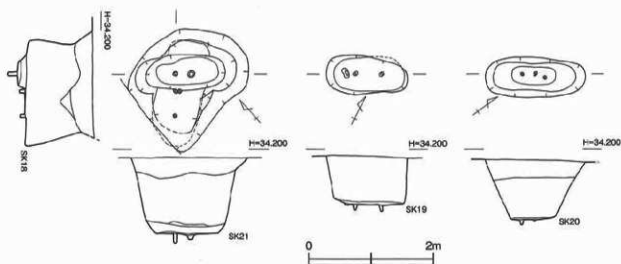


第9図 一般国道442号八女筑後バイパス 調査位置図

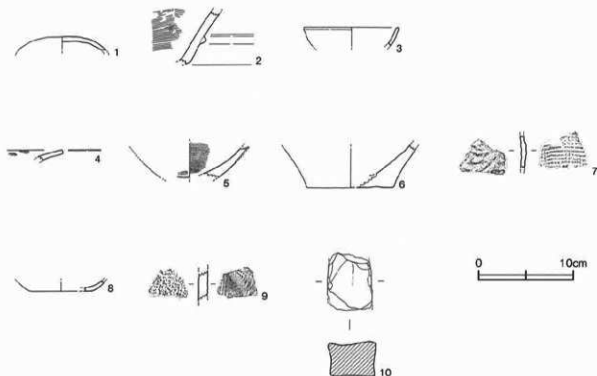
H19年度調査 茶ノ木田遺跡、牟田田遺跡、楠町遺跡 (3次調査)、柳遺跡 (3次調査)
H20年度調査 今屋敷遺跡、船底遺跡



第10図 柿町遺跡3次調査 遺構配置図 [1/ 400]



第11図 柿町遺跡3次 土坑 (SK18~21) 実測図 [1/ 60]



第12図 楠町遺跡3次 土壌 (SK) 溝 (SD) 出土土器・石製品実測図 [1/4]

検出 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 査		備 考
										外 面	内 面	
第12図	SK14	1	須恵器蓋 (口縁部片)				細砂粒を含む	赤灰色	やや不良	磨光へう割り、 不明(摩耗)	ヨコナデ、 不明(摩耗)	※生焼け
"	"	2	瓦質土器火鉢断片 (底面)				細砂粒を含む	暗灰色	やや良好	不明	不明、ハケ目	
"	"	3	陶器碗(口縁部片)	10			灰色、やや硬質	光沢あり、透明度が低く すりーブ色に発色する	良好	磨光	磨光	※磨かい貫入が入る
"	SD06	4	高杯(口縁部断片)				細砂粒を含む	灰青色	やや良好	不明(摩耗)	ヨコナデ	
"	"	5	高杯(片断)				細砂粒を含む	黄灰色(一部丹塗あり)	やや良好	丹塗	磨き	
"	"	6	壺(底面片)		9		細砂粒を含む、赤色粒子を含む	明茶灰色/暗黄灰色	やや良好	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
"	SD11	7	須恵器蓋(断片)				0.5mm以下の微砂粒を含む、 精選されている	灰白色	良好	磨子目叩き	叩き	※銘本有り
"	"	8	土師器皿(底面片)		6.6		細砂粒、赤色粒子を含む	赤茶灰色	やや良好	不明、磨光へう割り (やや摩耗)	不明	
"	"	9	須恵器蓋(断片)				精選されている	灰色	良好	磨子目叩き	叩き磨き	※銘本有り

表2 楠町遺跡3次 出土土器観察表

検出 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	岩 質	備 考
第12図	SD12	10	砥石	6	5	3.6	150	砂岩	

表3 楠町遺跡3次 出土土製品観察表

2 茶ノ木田遺跡

(1) 調査の概要

茶ノ木田遺跡は八女市大島字今屋敷にある。遺跡は国道3号線の東側に隣接しており、店舗などが多く並んでいる地域で調査前には店舗の基礎が残っていた。発掘調査は道路路線の東側と西側の調査を実施した結果、遺構が希薄であったため中間地点は南北にトレンチを設定した。調査の結果、盛土下約1-2mに良好な状態で遺構が残っていた。

(2) 遺構と遺物

今回発見された遺構は、近世の溝2条、畦畔1条、多数の柱穴がある。近世の溝2条、畦畔1条は調査区の西側で、柱穴はほぼ全域で検出されている。

溝 (SD)

調査では南北方向に2条の溝と、溝間に畦畔1条が発見された。いずれも上部を削平されている。

SD01 (第13図・図版5)

調査区の北端から南端に直線に延びる溝で1.8m検出した。溝の幅は2.0m-2.5mで、南側で少し広くなる。深さも北側で3.8cm(底面標高30.82m)、南側で4.4cm(底面標高30.71m)と南側がわずかに低い。溝内の堆積は耕作土が大きく流れ込んできており、短期間に埋没した可能性が高い。溝内からは近世陶器片、土師器片が出土している。

SD02 (第13図・図版5)

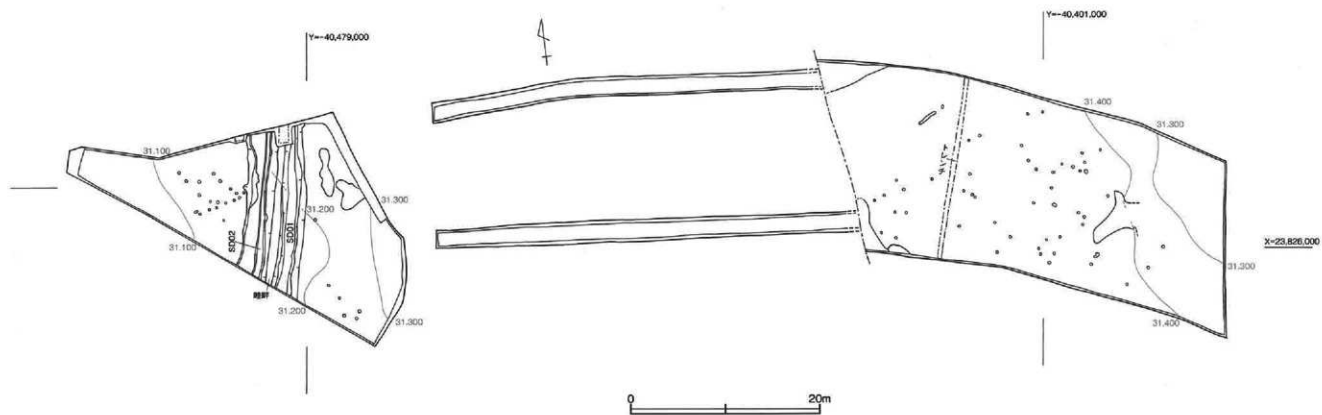
SD01と並行に延びる溝で1.5m検出した。溝の幅は2.0m-2.60mで、南北端がやや広くなる。溝底には中央からやや東寄りにさらに一段低く小溝があり、二段に掘削される。小溝の幅は0.6m-1.0mで、南北端がやや広くなる。深さは溝の北側で4.5cm(底面標高30.71m)、南側で4.5cm(底面標高30.79m)と南側がわずかに低い。小溝内の堆積は溝底に砂質を含み、水の流れた痕跡が見られる。上層の堆積土はSD01と同じで、同時期に拡張された可能性がある。溝内からは近世陶器片、土師器片が出土している。

畦畔

SD01、SD02間で1.6m検出されたが、上部を削平されている。

畦畔 (第13図・図版5)

SD01、SD02間に挟まれ、畦畔上端の幅は0.6m-0.8mで、ほぼ同じ幅で続く。



第13図 茶ノ木田遺跡 遺構配置図〔1/400〕

柱穴

東側地区と西側に多数のピットが検出されたが、いずれも直径10-20cm、深さも10cm程で、建物等のまともは見られない。

(3) まとめ

今回の調査で発見された遺構は、調査区の西側のみで溝2条と溝の間に畦畔が発見された。東側は大きく削平されており遺構は全く発見されなかった。溝内より近世の遺物が出土しており、近世の用水溝と考えられる。

調査地点一帯は昭和初期の地形図を見ると桑畑などが広がる畑地であり、戦後桑畑等が削平され、水田化が図られたものと思われる。

3 牟田田遺跡

(1) 調査の概要

牟田田遺跡は、八女市大島字牟田田に所在する遺跡で、平成17年度に調査を実施した楠町遺跡5地点の水路を挟んだ西側隣接地にあたる。調査以前には民家が建っており、民家撤去後の700㎡について調査を実施した。

(2) 遺構と遺物

発掘調査の結果、奈良時代から平安時代の溝3条、土壇2基と柱穴がわずかに確認された。

溝 (SD)

東側から西側に延びた溝5条を検出した。いずれも緩やかに蛇行しながら流れており、床面には凹凸が多い。

SD01 (第14・16・17・18図・図版7)

調査区の北端から南端に蛇行しながら延びる溝で38m検出した。SD02・04に切られており、溝の幅は東側で2.0m-3m、南側で少し広がる。溝底の中央から北寄りに溝底があり、中央付近では溝底に窪みがある。深さも東側で23cm (底面標高32.72m)、西側で24cm (底面標高32.61m) と西側がわずかに低い。溝内の堆積は溝底に砂質土と粘質土が堆積しており、水が長期間流れていたものと思われる。溝内からは須恵器坏身、埴、甕、土師器坏、埴、高台付埴、埴、黒曜石製石鏃が出土している。

SD02 (第14・18図・図版7)

SD01と並行に延びる溝で13m検出した。溝の幅は1.0m-1.3mで、溝底は中央からやや北寄りにあり、溝底幅は0.25m-0.3mである。深さは溝の東側で32cm (底面標高32.63m)、西側で31cm (底面標高32.64m) とほぼ平坦である。溝内の堆積は溝底に砂や礫を含み、水の流れた痕跡が見られる。上層の堆積土はSD01と同じで、大きく時期が隔たらない可能性がある。溝内からは須恵器坏壺、土師器皿、高台付埴が出土している。

SD03 (第14・18図・図版8)

SD01・02と切り合っているが前後関係は不明。SD01と並行に延びる溝で14m検出した。溝の幅は東側で0.7m-1.1m、南側で少し広がる。溝底の中央に溝底があり、深さも東側で13cm (底面標高32.87m)、西側で10cm (底面標高32.79m) と西側がわずかに低い。溝内の堆積は溝底に砂質土が堆積しており、水が流れていたものと思われる。溝内からは黒色土器の埴が出土している。

SD04 (第14・18図・図版8)

調査区の南側から南東から北西方向に延びる溝でSD01を切っており、18m検出した。溝の

幅は東側で0.8m-1.2m、南側で少し広くなる。深さも南側で10cm(底面標高32.74m)、西側で10cm(底面標高32.71m)と西側がわずかに低い。溝内の堆積は溝底に砂質土が堆積しており、水が流れていたものと思われる。溝内からは須恵器坏身、埴、甕、土師器皿、埴、甕、黒色土器の高台付埴、埴、弥生式土器の高坏片が出土している。

SD05 (第14・18図・図版8)

調査区の北西端で発見された。ほぼ東西方向の溝で5.5m検出した。溝の幅は2.5mm。溝底の中央に溝底があり、深さは東側で10cm(底面標高32.61m)前後と浅い。西側で5cm(底面標高32.65m)と西側がわずかに高い。溝内の堆積は溝底に砂質土が堆積しており、水が流れていたものと思われる。溝内からは近世の陶器片が出土している。

土壌 (SK)

調査区の南東端から2基の土壌が発見された。

SK01

やや楕円形に近い形で長さ1.4m以上、幅0.7mの土壌で、深さ18cm。遺物は出土していない。

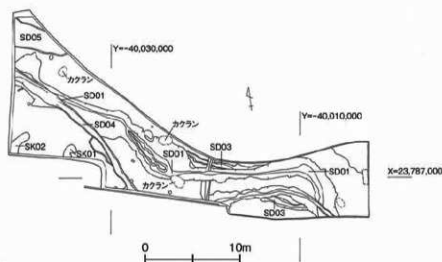
SK02

長方形で長さ2.7m以上、幅0.8mの土壌で、深さ10cm前後。遺物は出土していない。

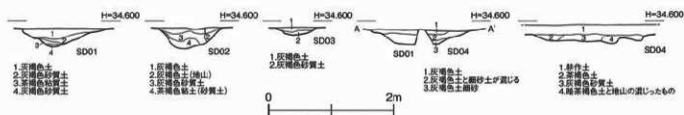
(3) まとめ

今回の調査は、国道路線幅内、また、東側と北側は農業用水路という限られた範囲であったため、十分な調査が行なえなかった。しかし、今回調査を実施した地点は楠町遺跡5地点の用水路を隔てた西側で、5地点で遺跡が希薄であったため遺跡の拡がりは少ないと予想されたが、調査の結果、西側にも遺跡が広がっていることが確認された。調査で発見された遺構は溝が主であるが切り合いからSD01がもっとも早く掘削され、その後掘り直されたものと思われる。

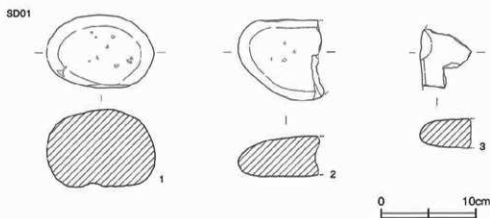
溝から出土した遺物は奈良時代から平安時代のもので、かなり長期間溝が使用されていたものと考えられる。同時期の遺構は溝付近では発見されておらず、今回調査を実施した南側にこの時期の遺構が存在している可能性がある。



第14図 牟田遺跡調査 遺構配置図 [1/400]



第15図 牟田遺跡 溝 (SD01~04) 土層実測図 [1/60]

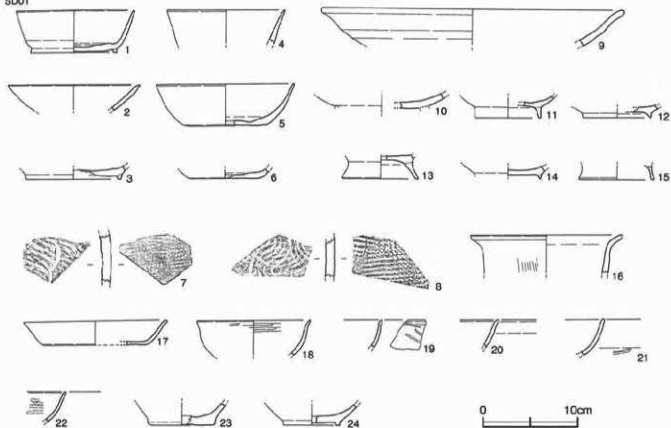


第16図 牟田遺跡 溝 (SD) 出土土製品実測図 [1/4]



第17図 牟田遺跡 出土土製品実測図 [1/2]

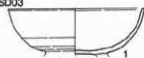
SD01



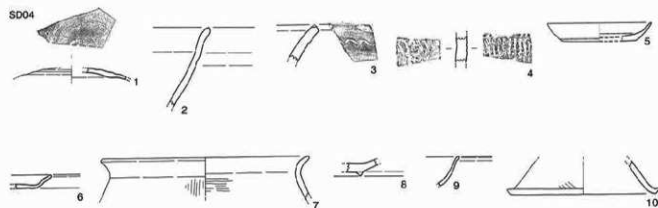
SD02



SD03



SD04



SD05



第18図 牟田田遺跡 溝 (SD) 出土土器実測図 [1/4]

採回 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第16区	SDC1	1	灰土器 杯(1/4部)	12.5	9.2	4.5	砂粒を含む	淡灰色	やや良好	ヨコナデ、不明(厚縁)、 回転ヘラケス	ヨコナデ、ナデ	
		2	灰土器 杯(口縁部)	14			微砂粒を含む	黄灰白色	やや不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
		3	灰土器 杯(杯底)	10			1~2mm大の白色の砂粒が混 ざる。微砂粒を含む	淡灰色	やや不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
		4	灰土器 杯(口縁部)	12.4			微砂粒を含む	淡灰白色	やや不良	不明	ヨコナデ	
		5	土師器 杯(1/4部)	14.4	9.0	4.4	1mm大の砂粒を含む 白色砂粒が混ざる	明赤褐色	やや良好	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
		6	土師器 杯(底面)		7.6		微砂粒を含む	淡黄灰色/淡黄褐色	やや不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
		7	灰土器 碗(胴部)		5.3		やや精選されている 砂粒を含む	淡褐色/淡灰色	不良	格子目印	印	※採否有り
		8	灰土器 碗(口縁部)				砂粒を含む	淡灰白色	やや不良	印	同心円印	※採否有り
		9	灰土器 高台付碗	32			微砂粒、黒色粒子を多く含む やや粗	淡灰白色	不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
		10	黒色土器 甕(底面)B類				微砂粒を含む	黒色	やや良好	回転ヘラケス	不明(厚縁)、ナデ	
		11	土師器 高台付碗(底面)	7.0			微砂粒を含む、白色砂粒が少 混ざる、赤色粒子少し含む	淡黄褐色	やや不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
		12	土師器 高台付碗(底面)	7.2			微砂粒を含む、 赤色粒子が混ざる	淡灰白色	やや不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
		13	土師器 高台付碗(高台部)	8.0			砂粒を含む、赤色粒子が混ざる	淡黄褐色	やや不良	不明	不明、ヨコナデ	
		14	土師器 高台付碗(底面)				微砂粒を含む	黒灰色/淡灰白色	やや良好	不明(厚縁)	ナデ	
		15	土師器 高台付碗(高台部のみ)	8.0			微砂粒を含む、 赤色粒子が混ざる	明黄褐色/淡黄褐色	やや良好	不明	不明(厚縁)	
		16	土師器 高台付碗(底面)	16			1~2mm大の白色の砂粒が少 混ざる。微砂粒を含む	明黄褐色/明灰褐色	やや良好	不明(厚縁)、 ハケ目	不明(厚縁)	
		17	土師器 高台付碗(底面)	15.2	10.8	2.6	微砂粒を含む	明褐色	やや良好	ヨコナデ、 不明(厚縁)	不明(厚縁)	
		18	黒色土器 甕(口縁部)A類	12			微砂粒を含む	淡黄褐色/黒色	やや良好	印	印	
		19	土師器 高台付碗(口縁部)				微砂粒を含む	淡灰白色	やや良好	へら目印	不明(厚縁)	
		20	土師器 高台付碗(口縁部)		2.9		微砂粒を含む	明褐色	やや良好	ヨコナデ	ヨコナデ	
		21	土師器 高台付碗(口縁部)				微砂粒、雲母微粒子を含む	淡褐色、淡黒色/淡黄褐色	やや不良	印	印	
		22	黒色土器 甕(口縁部)A類				雲母微粒子、赤色粒子を含む	明褐色/黒褐色	やや良好	磨きむすに磨る	不明(厚縁)	
		23	土師器 高台付碗(1/2部)	6.8	2.35		3mm以下の砂粒、 赤色粒子を多く含む	淡黄褐色	やや不良	回転ヘラケス	不明(厚縁)、 ヨコナデ	
		24	灰土器 高台付碗(底面)	8.0			黒色粒子を含み、乳白がみられ る。やや黄褐色、明灰色	黄泥色、透明度高く、オリブ 色に発色する	やや良好	磨きむすに磨る	磨入	
SD02		1	灰土器 高台付碗(底面)				1mm以下の白色砂粒を多く含む	淡灰色/明灰色	やや良好	不明(厚縁)	ヨコナデ	
		2	土師器 高台付碗(口縁部)	6.0			微砂粒、赤色粒子を含む	淡黄褐色	やや良好	ヨコナデ、不明	不明(厚縁)	
		3	土師器 高台付碗(1/4部)	12			2mm以下の砂粒、 雲母微粒子を多く含む	淡黄褐色	やや良好	回転ヘラケス、 不明(厚縁)	不明(厚縁)	
SD03		1	黒色土器 高台付碗(底面)	14.4			微砂粒を含む	黒色/明灰黒色	やや良好	回転ヘラケス、 不明(厚縁)	ヨコナデ、磨きむすに 磨る	
		2	灰土器 高台付碗(口縁部)				精選されているわずかに 白色砂粒、雲母微粒子を含む	明灰色	やや良好	回転ヘラケス、 不明(厚縁)	不明(厚縁)	
SD04		1	灰土器 高台付碗(口縁部)				粗い、2mm以下の砂粒、 黒色粒子を含む	淡灰色	やや不良	不明(厚縁)	ヨコナデ	
		2	灰土器 高台付碗(口縁部)				白色砂粒、黒色粒子を含む	明灰白色	やや良好	ヨコナデ、 波状文有り	ヨコナデ	
		3	灰土器 高台付碗(口縁部)				微砂粒、黒色粒子を含む	白灰色	やや良好	格子目印	同心円印	
		4	灰土器 高台付碗(口縁部)				微砂粒、黒色粒子を含む	明黄褐色	やや良好	ヨコナデ、沈 降、不明(厚縁)	沈降、不明(厚縁)	
		5	灰土器 高台付碗(口縁部)	11	7.8	1.95	雲母微粒子、 赤色粒子を多く含む	明黄褐色	やや良好	ヨコナデ、沈 降、不明(厚縁)	沈降、不明(厚縁)	
		6	灰土器 高台付碗(口縁部)				微砂粒、雲母微粒子を含む	黄褐色	やや良好	ヨコナデ、 不明(厚縁)	不明(厚縁)	
		7	灰土器 高台付碗(口縁部)	23.6			角閃石が少量混入、0.5mm以 下の砂粒を含む、赤色粒子を含む	淡黄褐色	やや良好	不明、ハケ目	不明、ハケ目	
		8	黒色土器 甕(底面)B類				微砂粒、雲母微粒子を多く含む	黒色	やや良好	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
		9	黒色土器 甕(口縁部)A類				1.0mm以下の砂粒を多く含む	赤褐色/黒色	やや良好	不明(厚縁)、 波状文有り	不明(厚縁)	
		10	灰土器 高台付碗(口縁部)				微砂粒、雲母微粒子を含む	淡黄褐色	やや良好	不明(厚縁)、ハケ目、 不明(厚縁)	不明(厚縁)	
SD05		1	灰土器 高台付碗(口縁部)				微砂粒を含む	淡灰黄褐色	やや良好	不明(厚縁)	不明(厚縁)	

表4 牟田田遺跡 出土土器観察表

採回 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	岩 質	備 考
第16区	SD01	1	磨石	11.3	7.7	8	1050	安山岩	
		2	磨石	8.5	8.3	4.2	480	安山岩	
		3	磨石	5.7	5.5	2.9	100	安山岩	
第17区		4	石鏃	1	2.3	0.3	0.7	黒曜石	

表5 牟田田遺跡 出土土器観察表

4 柳遺跡6地点(3次調査)

(1) 調査の概要

柳遺跡は、八女市納楚字柳に所在する遺跡で、矢部川によって形成された標高3.6m前後の低位段丘面に所在している。本遺跡の周辺は開発に伴って弥生時代の遺跡が数多く発見され、調査が実施されている。平成8年・11年には国道442号線南側の老人保健施設・病院の建設に伴って発掘調査が行われ、弥生時代中期の竪穴住居7軒、土壇57基、取水土壇19基、溝4条、溝(旧河川)1条が検出され、大量の土器、石器が出土している。平成17年度の1次調査では国道の北側1-3地点を中心に調査を進め、平成18年度には2次調査として1次調査地点西側4・5地点の調査を実施した。その結果、弥生時代中期の竪穴住居13軒、土壇61基、溝1条、中期から後期の溝11条、古墳時代後期の溝1条が検出され、一部の土壇群は南北5間(10m)以上、東西3間(6m)の大型掘立柱建物の存在も考えられており、大量の土器、石器が出土している。

今回の3次調査は4地点と5地点間の220㎡について発掘調査を実施した。

発掘調査の結果、東側の一部を農業用水路によって削平されているが、盛土下約1mに良好な状態で遺構が残っていた。

(2) 遺構と遺物

今回発見された遺構は、弥生時代の竪穴住居3軒(5地点検出の竪穴住居の一部2を含む)、土壇22基、溝2条、多数の柱穴があり、遺構はほぼ全域で検出された。

竪穴住居(SB)

竪穴住居は調査区の南側から方形の竪穴住居1軒が発見され、西側からは5地点で検出されたSB11とSB12の一部が検出された。

SB11(第20図・図版10)

わずかに東側壁のみ検出された、これによって南北の長さ2.7m、東西の長さ3.8m、やや歪な長方形の竪穴住居となる。東壁付近で床面まで壁は25cm程残っている。遺物は出土していない。

SB12(第20図・図版10)

長方形の竪穴住居の東側部分1/3を確認した。これによって東西の長さ5.1m、南北の長さ2.0-2.5mとなる。東壁付近で床面まで壁は30cm程残っており、床面に残る4本の柱穴はやや西寄りとなる。遺物として弥生時代中期の高坏が出土している。

SB14(第20図・図版10)

SB14は南側の1/2が調査区外で西側をSD15によって切られているが、南北の長さ2m以上、東西の長さ約4m、ほぼ方形の竪穴住居と思われる。全体に床面まで壁は25cm残ってお

り、床面はほぼ平坦で柱穴や炉跡は見られない。遺物として弥生時代中期の甕蓋片が出土している。

土壌 (SK)

調査では10基の土壌が発見された。調査区の東側を中心として発見されている。

SK51 (第21図・図版11)

SD15によって切られている。長方形で長さ1.2m、幅0.8mの土壌、深さ48cm、東側が深15cm深くなる。底よりやや上に焼土の塊がある。遺物は出土していない。

SK52 (第21図・図版11)

隅丸長方形で長さ1.6m、幅0.5mの土壌、深さ5cm。遺物は出土していない。

SK53 (第21図・図版11)

長方形で長さ1.2m、幅0.7mの土壌、深さ38cm前後。遺物は出土していない。

SK54 (第21図・図版12)

方形で長さ0.7m、幅0.6mの土壌、深さ70cm。弥生時代中期の甕と丹塗高坏が出土している。

SK55 (第21図・図版10)

SD05によって切られている。方形で長さ1.0m、幅0.8+a mの土壌で、深さ34cm。遺物は出土していない。

SK56 (第21図・図版12)

SD09に切られており、長方形で長さ1.8m、幅0.5+a mの土壌で、深さ15cm。遺物は出土していない。

SK57 (第21図・図版12)

SK54と切り合っており、方形で長さ0.8m、幅0.8mの土壌で、深さ60cm。

SK58 (第21図・図版12)

SK54と切り合っており、楕円形で長さ0.7m、幅0.9mの土壌で、深さ58cm。遺物は出土していない。

SK59 (第21図・図版12)

長方形で長さ0.9m、幅0.4mの土壌で、深さ30cm。遺物は出土していない。

SK60 (第21図・図版12)

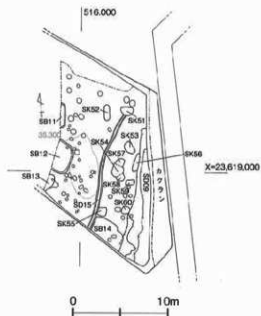
方形で長さ0.9m、幅0.9mの土壌で、深さ30cm。遺物は出土していない。

溝 (SD)

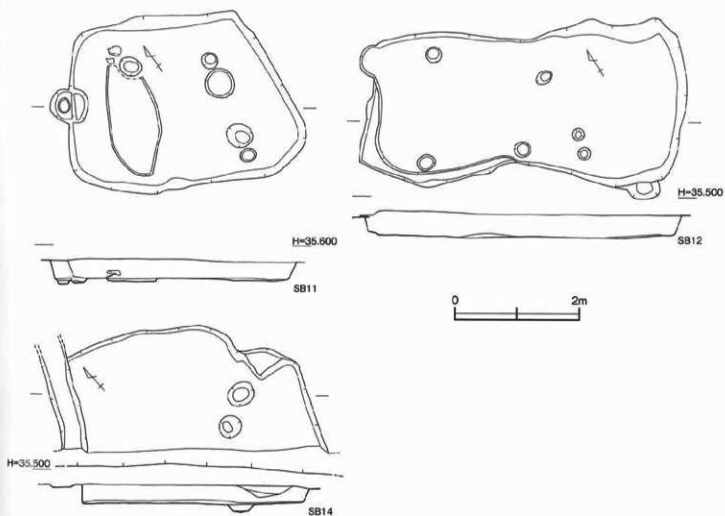
調査では2条の溝が発見された。いずれも南北に延びている。

SD09 (第19図・図版11)

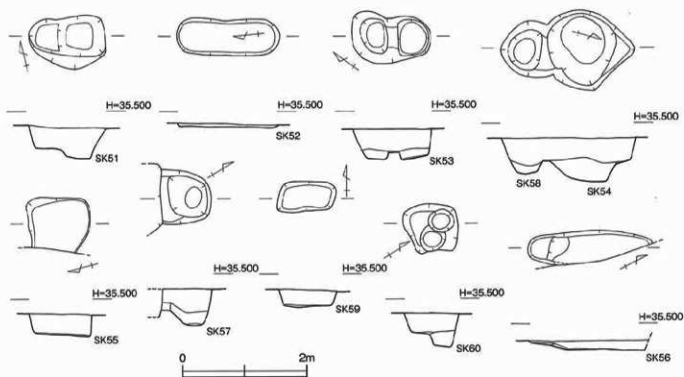
調査区東側で発見され、東側を大きく農業用水路によって削平されているが南北に14m程検出された。2次調査4地点で発見されたSD09の西側端となる。これによって溝の幅は北側で16.5m、深さ北端で64cm (底面標高35.96m)、南側で幅10m、深さ90cm (底面



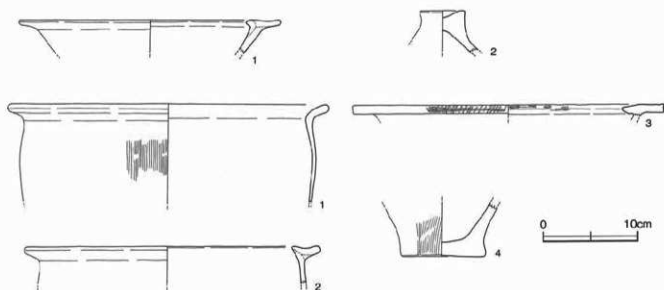
第19図 柳遺跡3次調査 遺構配置図 [1/400]



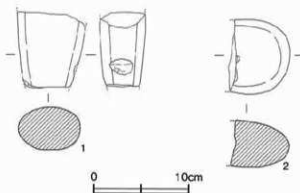
第20図 柳遺跡3次 竪穴住居 (SB11.12.14) 実測図 [1/60]



第21図 柳遺跡3次 土墳 (SK51~60) 実測図 [1/60]



第22図 柳遺跡3次 竪穴住居 (SB) 土墳 (SK) 出土土器実測図 [1/4]



第23図 柳遺跡3次 溝(SD)出土石製品実測図(1/4)

検出 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	磨 整		備 考
										外 面	内 面	
第22回	SB12	1	高坪 (口縁部片)	27.8			砂粒を含む	緑茶褐色	やや不良	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
"	SB14	2	甕(つまみ片)	才域 4.6			1~3mm大の小石が混ざる、 砂粒を含む	淡灰赤茶褐色/陶灰褐色	やや不良	不明(摩耗)	ナデ、不明(摩耗)	
"	SK54	1	甕(口縁部片)	33.4			1~8mm大の小石が混ざる、 砂粒を含む	淡黄褐色/乳褐色	やや不良	不明、ハケ目(摩耗)	不明(摩耗)	
"	"	2	甕(口縁部片)	29.8			砂粒を含む	淡黄灰褐色	やや不良	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
"	"	3	高坪(口縁部片)	33			細砂粒を含む	丹塗	やや不良	淡い割目 (やや摩耗)	丹塗	
"	"	4	甕(底部片)		8.6		1~3mm大の小石が混ざる、 砂粒を含む	淡黄茶褐色/陶灰褐色	やや不良	不明(摩耗)、ハケ目	不明、ナデ	

表6 柳遺跡3次 出土土器観察表

検出 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	岩 質	備 考
第23回	SD09	1	太型輪刃石斧	7.7	4.4	4.6		安山岩	
"	"	2	磨石(1/2片)	6.2	7.7	4.8		安山岩	

表7 柳遺跡3次 出土石製品観察表

標高34.20m)で溝としては緩やかに立ち上がる。溝底には落ち込み等の凹凸がある。溝内からは弥生時代中期の壺片、甕片、石器として太型蛤刃石斧片、磨石が出土している。

SD15

調査区の北側SK51付近から南側にやや蛇行しながら延びる溝で約12m検出した。SD09とは並行しているが南側でSB14を切って造られる。溝の幅は35cm-50cmで、南側で少し広がる。深さも南側で5cm(底面標高35.23m)、北側で10cm(底面標高35.15m)。溝内からは遺物は出土していない。

柱穴(p)

SB11、SB12付近から多くの柱穴が検出されたが建物等まとまるものはない。

(3) まとめ

今回の調査は、柳遺跡第2次調査の4地点と5地点の未調査部分220mという狭い部分の調査であったが新たに発見された堅穴住居1軒、土壇10基、新たに発見された溝1条が確認され、遺構が途切れることなく第5地点に続くことが判明した。なお、調査区の北側に比較的遺構が少なく、削平を受けたものか、希薄になるのかは国道路線幅のみの調査のため不明な部分が残る。SD15を除く遺構の多くは弥生時代中期の遺構と考えられ、弥生時代の遺構がこれまで調査を実施した柳遺跡のほぼ中心となる。

5 亀ノ甲・植初遺跡（3次調査）

（1）調査の概要

亀ノ甲・植初遺跡は、八女市亀ノ甲字植初に所在する。調査地点は八女丘陵と山ノ井川に挟まれた低地に位置する。調査区南側には山ノ井川が南東から南西方向へと流れ、東側には水田地帯が広がり、北側には丘陵地帯が続いている。国道バイパスの路線は丘陵裾の標高22m前後の低地部を東西に走るため、調査時は湿潤な水田であった。これまで、亀ノ甲・植初遺跡は平成16年度と平成18年度と2次の調査を実施しており、平成19年度は3次の調査となる。1次調査では後世に大きく削平されていたがと不明土壌が25基検出され、摩滅した土師器や瓦器、陶磁器の細片が出土している。2次調査は1次調査1地点の北側隣接地で、土壌が2基、溝1条、不明遺構1基が検出され、遺構から須恵器、土師器や黒色土器が出土し、周辺から白磁片、擂鉢片、須恵器、合子蓋片、縄文土器片が採集されている。

今回の調査は1次、2次調査区の西側一帯で、最も西側の3次1地点は後田遺跡と接している。

（2）遺構と遺物

発掘調査は西側から東側にかけて順次5地区設定して調査を実施した。

1 地点

1地点は後田遺跡の道路を隔てた東側であり、北側に流れる農業用水路を境に北側が僧都遺跡となる。標高は22.5mで1地点の調査前は湿潤な水田として利用されていた。

発掘調査の結果、耕作土下約50cmに暗灰色粘土と明灰色粘土があり、この粘土層を切り込んで土壌が造られている。粘土層には縦横に暗渠が掘削されており、北側の大半が攪乱を受けている。かろうじて西側壁下に土壌1基と南側に浅い落ち込みが検出された。

土壌（SK）

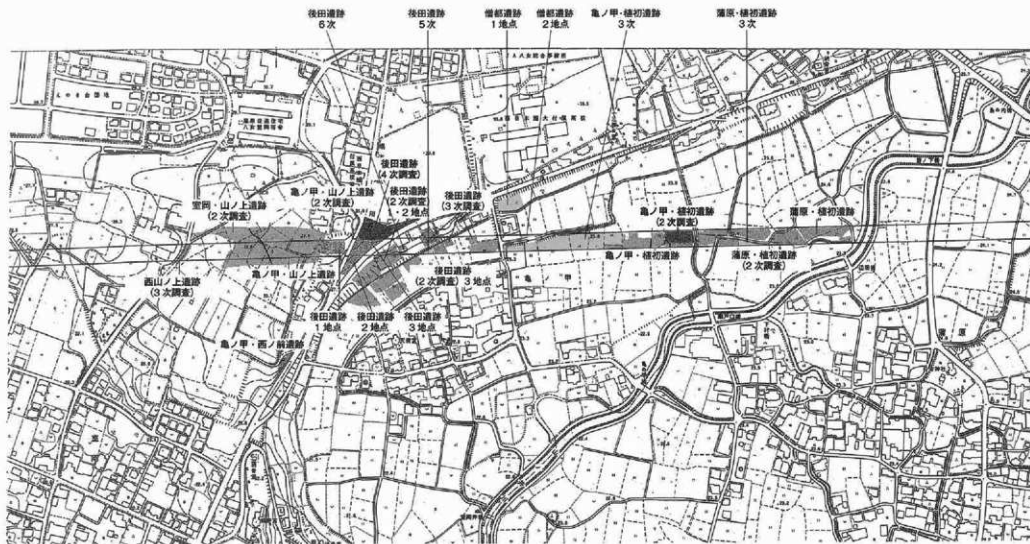
調査では1基の土壌が発見された。

SK01（第27図・図版16）

調査区の西端で発見された。大半は調査区外であるが、長さ0.5+a m、幅0.55 mの方形または長方形の土壌と思われる。深さ10 cm、遺物は出土していない。

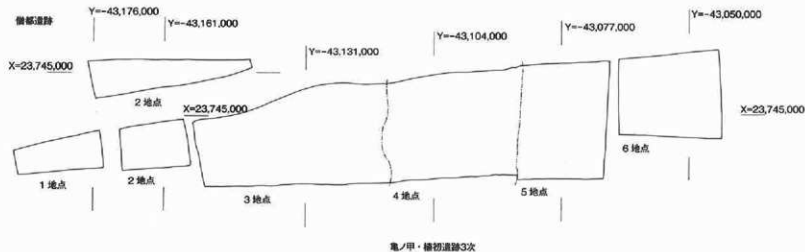
不明遺構（SX）

調査区の南側で検出された。

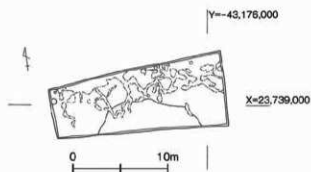


第24図 一般国道442号八女筑後バイパス 調査位置図 [1/ 5,000]

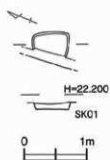
H19年度調査 亀ノ甲・樋初遺跡 (3次調査)、僧部遺跡 (1地点)、僧部遺跡 (2地点)、蒲原・樋初遺跡 (3次調査)、後田遺跡 (5次調査)
H20年度調査 後田遺跡 (6次調査)



第25図 亀ノ甲・櫛初遺跡3次、僧都遺跡 調査地点配置図 [1/ 800]



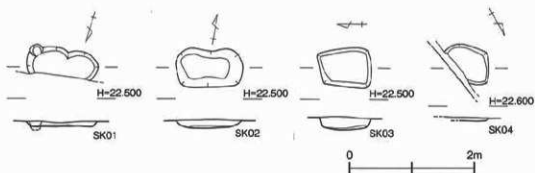
第26図 亀ノ甲・植初遺跡3次1地点 遺構配置図 [1/400]



第27図 亀ノ甲・植初遺跡3次1地点 土壌 (SK01) 実測図 [1/60]



第28図 亀ノ甲・植初遺跡3次2地点 遺構配置図 [1/400]



第29図 亀ノ甲・植初遺跡3次2地点 土壌 (SK01~04) 実測図 [1/60]

SX01

隅丸長方形で長さ11m、幅3.5+a m、深さ10cm程の浅い落ち込みで底面の凹凸は少ない。遺物は遺構検出時上面から平瓦の破片が出土した。

2 地点

2地点は1地点の細い水路を挟んだ東側にあり、標高は22.5mで調査前は湿潤な水田として利用されていた。

発掘調査の結果、耕作土下約50cmに明灰色粘土があり、この粘土層を切り込んで土壌が造られている。攪乱を余り受けていなかったが、調査区の北壁と西側付近に土壌4基が検出された。

土壌 (SK)

調査では4基の土壌が発見された。調査区の北と東側に2基ずつ並んでいる。

SK01 (第29図・図版18)

楕円に近いが長方形で長さ1.1m、幅0.4+a mの土壌、深さは浅く6cmとなる。遺物は出土していない。

SK02 (第29図・図版18)

隅丸長方形で長さ1.0m、幅0.6mの土壌、深さ14cm。遺物は出土していない。

SK03 (第29図・図版18)

長方形で長さ0.8m、幅0.6mの土壌、深さ22cm前後。遺物は出土していない。

SK04 (第29図)

方形で長さ0.5+a m、幅0.6mの土壌、深さ6cm。遺物は出土していない。

3 地点

3地点は2地点の東側で、標高は22.6m。調査前は湿潤な水田として利用されていた。

発掘調査の結果、耕作土下約30cmに暗灰色粘土、明灰色粘土があり、この粘土層を切り込んで、土壌、溝、無数のピットが造られている。攪乱を余り受けていなかったが、調査区の南西隅に土壌1基と東西方向に延びた溝が検出された。ピットは調査区の全域にあり、いずれも深さが10cmから20cm以内と浅く、柱穴とは考え難い。

土壌 (SK)

調査では1基の土壌が発見された。

SK01 (第31図・図版19)

上面は円形に近く直径 1.4 m の土壌であるが、床面は長さ 0.5 m、幅 0.5 m の方形となる。深さは 34 cm。遺物は出土していない。

溝 (SD)

調査では 1 条の溝が発見された。東西方向で東に延びている。

SD01 (第30図・図版19)

調査区南側で発見され、削平を受けたためか途中で消滅するが、東西に 12 m 程検出された。溝の幅は西側で 0.6 m、深さ西端で 10 cm (底面標高 22.19 m)、東側で幅 0.75 m、深さ 14 cm (底面標高 22.19 m) で溝としては削平を受けているためか全体に浅い。遺物として砂岩製砥石が出土している。

4 地点

4 地点は 3 地点の東側で、水田の標高は 22.6 m。調査前は湿潤な水田として利用されていた。

発掘調査の結果、耕作土下約 30 cm に暗灰色粘土、明灰色粘土があり、この粘土層を切り込んで、溝、無数のピットが造られている。一部攪乱を余り受けていたが、調査区の西から東に 3 地点から続く溝 (SD01) を検出した。ピットや凹凸のある落ち込みは調査区の全域にあり、いずれも深さが 10 cm から 20 cm 以内と浅く、柱穴や遺構とは考え難い。

溝 (SD)

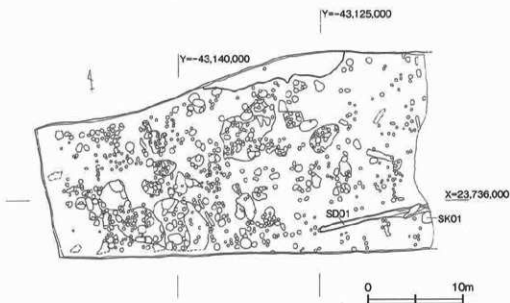
SD01 (第32図)

調査区南側で発見され、削平を受けているためか途中で消滅するが、ほぼ東西に 36 m 程検出されたが、調査区の東端で消滅する。溝の幅は西側で 0.75 m、深さ西端で 10 cm (底面標高 22.22 m)、東側で幅 0.4 m、深さ 5 cm (底面標高 22.37 m) で溝としては削平を受けているためか全体に浅い。遺物として砂岩製砥石が出土している。

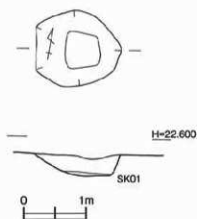
5 地点

5 地点は 4 地点の東側で、水田の標高は 22.8 m。調査前は水田として利用されていた。

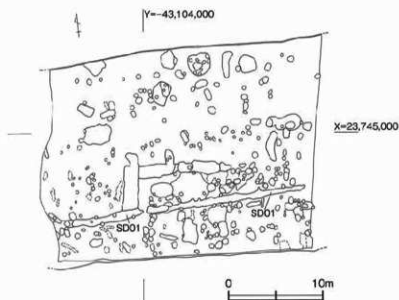
発掘調査の結果、耕作土下約 30 cm に暗灰色粘土、明灰色粘土があり、この粘土層を切り込んで、土壌、溝、ピットが造られている。調査区の北側は削平と攪乱を受けていたが、調査区南側は土壌や溝が残っていた。西から東に 3、4 地点から続く溝 (SD01) と南端に短い溝を検出した。ピットや凹凸のある落ち込みは比較的少ない。



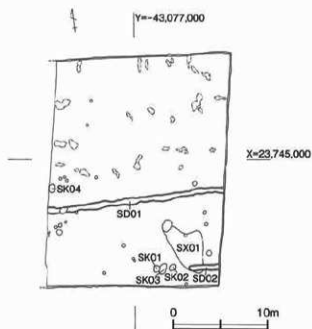
第30図 亀ノ甲・植初遺跡3次3地点 遺構配置図 [1/400]



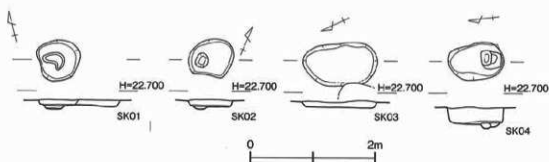
第31図 亀ノ甲・植初遺跡3次3地点 土壇 (SK01) 実測図 [1/60]



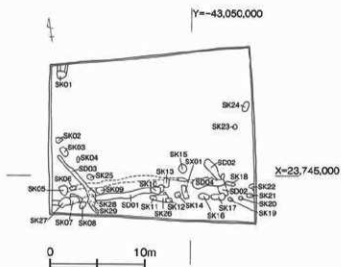
第32図 亀ノ甲・植初遺跡3次4地点 遺構配置図 [1/400]



第33図 龜ノ甲・植初遺跡3次5地点 遺構配置図 (1/400)



第34図 龜ノ甲・植初遺跡3次5地点 土壌 (SK01~04) 実測図 (1/60)



第35図 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 遺構配置図 (1/400)

土壌 (SK)

調査では4基の土壌が発見された。調査区の西側に1基と南側に3基隣接して存在する。

SK01 (第34図)

隅丸方形で長さ0.7m、幅0.7mの土壌、深さは浅く16cmとなる。平坦な底面に30cm程の楕円で深さ5cmの浅いピットがある。遺物は出土していない。

SK02 (第34図)

隅丸方形で長さ0.7m、幅0.6mの土壌、深さ16cm。平坦な底面に西に片寄って直径20cm、深さ5cmの浅いピットがある。遺物は出土していない。

SK03 (第34図)

隅丸長方形で長さ1.2m、幅0.7mの土壌、深さ12cm前後で床面は平坦。遺物は出土していない。

SK04 (第34図)

隅丸長方形で長さ0.9m、幅0.6mの土壌、深さ34cm。床面の南に片寄って直径20cmと30cm、深さ20cmのピットがある。遺物は出土していない。

溝 (SD)

SD01 (第33図)

3地点から断続的に延びた溝(SD01)が調査区のほぼ中央で発見され、さらに東側へ続いている。削平を受けているが、ほぼ東西に19m程検出された。溝の幅は西側で0.6m、深さ西端で6cm(底面標高22.41m)、東側で幅0.5m、深さ6cm(底面標高22.47m)で溝としては削平を受けているためか全体に浅い。遺物として砂岩製砥石が出土している。

SD02 (第33図・図版20)

SD01と並行して延びた溝(SD02)が調査区の南端で発見され、さらに東側へ続いている。西側は削平を受けていると思われ、ほぼ東西に3mだけ検出された。溝の幅は西側で0.6m、深さ西端で14cm(底面標高22.45m)、東側で幅0.6m、深さ13cm(底面標高22.49m)で溝としては削平を受けているためか全体に浅い。遺物として砂岩製砥石が出土している。

6地点

6地点は5地点の東側で、亀ノ甲・植初遺跡1次調査4地点の北側にあたる。この付近の水田の標高は22.8mと西側に比べるとわずかに高くなる。一帯は調査前には水田として利用されていた。

発掘調査の結果、耕作土下約30cmに明灰色粘土があり、この粘土層を切り込んで、土壌、溝、ピットが造られている。調査区の北側は削平と攪乱を受けており、遺構は全く検出されなかった。

しかし、調査区南側は土壌や溝が集中して残っていた。さらに、西から東に3、4地点から続く溝(SD01)と北西から南東方向に短い溝2条を検出した。ピットや凹凸のある落ち込みは比較的少ない。

土壌 (SK)

調査では29基の土壌が発見された。調査区の南側に集中しており、土壌と土壌の切り合いや、溝との切り合いが見られる。

SK01 (第36図・図版23)

隅丸方形で長さ0.8m、幅0.8mの土壌、深さは22cmとなる。遺物は出土していない。

SK02 (第36図・図版23)

やや歪な隅丸方形で長さ0.8m、幅0.6mの土壌、深さ22cmで床面は平坦。遺物は出土していない。

SK03 (第36図・図版23)

隅丸長方形で長さ1.0m、幅0.6mの土壌、深さ20cmで床面は平坦。遺物は出土していない。

SK04 (第36図・図版23)

長方形で長さ0.4m、幅0.5mの小型土壌、深さ24cm。床面の東に片寄って直径15cm、深さ10cmのピットがある。遺物は出土していない。

SK05 (第36図・図版24)

楕円形で長さ0.9m、幅1.0mの土壌、深さは浅く8cmとなる。平坦な底面に50cm程の楕円で深さ3cmの浅いピットがある。遺物は出土していない。

SK06 (第36図・図版24)

隅丸方形で長さ0.7m、幅0.5mの小型土壌、深さ10cm。平坦な底面に東に片寄って直径30cm、深さ5cmの浅いピットがある。遺物は出土していない。

SK07 (第36図・図版24)

隅丸長方形で長さ1.3+αm、幅0.9mの土壌、深さ18cm。遺物は出土していない。

SK08 (第36図・図版24)

楕円形で長さ0.8m、幅0.5mの土壌、深さ16cm。遺物は出土していない。

SK09 (第36図・図版24)

隅丸方形で長さ0.9m、幅0.8mの土壌、深さ18cmで床面は平坦。遺物は出土していない。

SK10 (第36図・図版25)

楕円形で長さ1.0m、幅0.8mの土壌、深さ24cm。遺物は出土していない。

SK11 (第36図・図版25)

隅丸長方形で長さ0.7m、幅0.4mの土壌、深さ38cm。床面の西に片寄って直径25cmの浅いピットがある。遺物は出土していない。

SK12 (第36図・図版25)

隅丸方形で長さ0.6m、幅0.5mの土壌、深さは浅く18cmとなる。遺物は出土していない。

SK13 (第36図・図版25)

隅丸長方形で長さ1.0m、幅0.4mの土壇、深さ22cm。平坦な底面に西に片寄って深さ15cmの浅いビットがある。遺物は出土していない。

SK14 (第36図・図版26)

隅丸方形で長さ0.7m、幅0.5mの土壇、深さ30cm前後で床面は平坦。遺物は出土していない。

SK15 (第36図・図版26)

ほぼ円形で直径0.9mの土壇、深さ8cm。床面は平坦。遺物は出土していない。

SK16 (第36図・図版26)

隅丸方形で長さ1.1m、幅0.6mの土壇、深さは12cmで遺物は出土していない。

SK17 (第36図・図版26)

隅丸長方形で長さ1.4m、幅0.6mの土壇、深さ16cm。遺物は出土していない。

SK18 (第36図・図版27)

隅丸長方形で長さ1.1m、幅0.3mの土壇、深さ16cmで床面の北に片寄って直径20cm、深さ5cmのビットがある。遺物は出土していない。

SK19 (第36図・図版27)

楕円形で長さ0.5m、幅0.3mの土壇、深さ16cm。小ビットが切り合った物か。遺物は出土していない。

SK20 (第36図・図版27)

円形で直径0.4mの土壇、深さは浅く16cmとなる。底面東側に15cm程で深さ10cmの浅いビットがある。遺物は出土していない。

SK21 (第36図・図版27)

隅丸長方形で長さ0.8m、幅0.4mの土壇、深さ16cm。遺物は出土していない。

SK22 (第36図・図版28)

隅丸長方形で長さ0.6m、幅0.3mの土壇、深さ20cmやや深い。遺物は出土していない。

SK23 (第36図・図版28)

円形で直径0.5mの土壇、深さ14cmと浅く、平坦な底面の中央に直径10cm、深さ5cmの浅いビットがある。遺物は出土していない。

SK24 (第36図・図版28)

隅丸長方形で長さ1.0m、幅0.5mの土壇、深さ12cmで床面の東に片寄って直径20cmと25cm、深さ5cmのビットがある。遺物は出土していない。

SK25 (第36図・図版28)

隅丸長方形で長さ0.8m、幅0.6mの土壇、深さ24cm。遺物は出土していない。

SK26 (第36図・図版29)

SK11、12と切り合っている、隅丸長方形で長さ1.0+a m、幅0.7mの土壇、深さ18cm。遺物は出土していない。

SK27 (第36図・図版24)

隅丸長方形で長さ1.1m、幅0.8mの土壇、深さは浅く16cmとなる。

SK28 (第36図・図版29)

隅丸長方形で長さ0.9m、幅0.5mの土壌、深さ22cm。遺物は出土していない。

SK29 (第36図・図版29)

楕円形で長さ0.9m、幅0.6mの土壌、深さ30cmで床面は平坦。遺物は出土していない。

溝 (SD)

西側から続く溝1条と南北方向の溝2条を検出したが、いずれも削平を大きく受けていた。

SD01 (第35図)

5地点から断続的に延びた溝 (SD01) が調査区の南で発見され、さらに東側へ続いている。削平を受けているが、ほぼ東西に21m程検出された。溝の幅は西側で0.5m、深さ西端で10cm (底面標高22.44m)、東側で幅0.8m、深さ3cm (底面標高22.57m) で、東端は削平を受けているためか消滅している。遺物として砂岩製砥石が出土している。

SD02 (第35図・図版30)

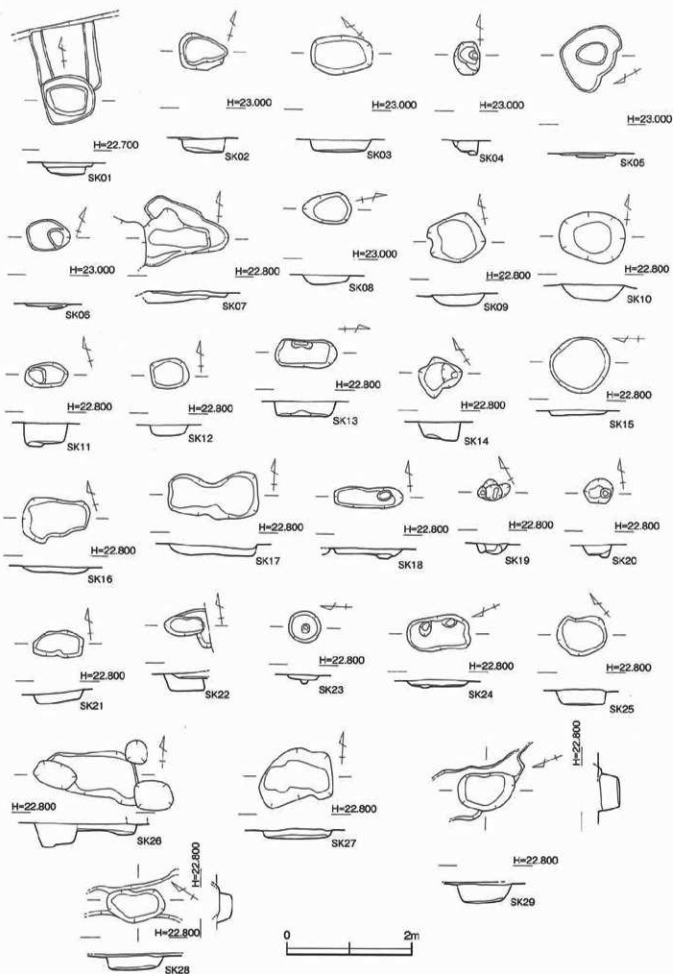
SD01と東端で切り合っている。ほぼ東西に4.5mだけ検出された。溝の幅は北側で0.8m、深さ6cm (底面標高22.57m)、南側で幅0.9m、深さ6cm (底面標高22.54m) で南北には削平されているためか溝の痕跡が残っていない。遺物が出土している。

SD03 (第35図・図版30)

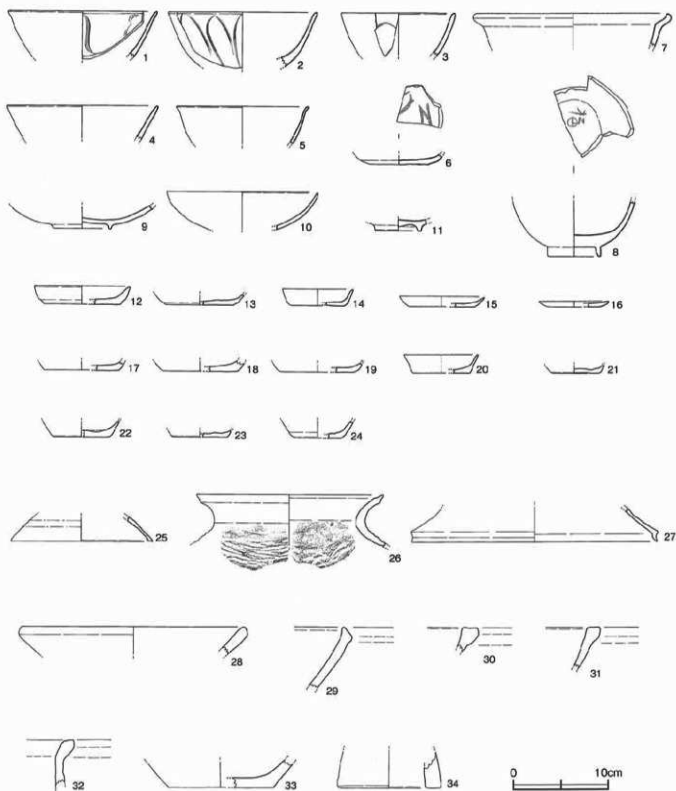
SD01と西端で切り合っている。ほぼ南北に7mだけ検出された。溝の幅は北側で0.35m、深さ2cm (底面標高22.51m)、南側で幅0.2m、深さ6cm (底面標高22.52m) で南側に延びている。北には削平されているためか溝の痕跡が残っていない。遺物としが出土している。

(3) まとめ

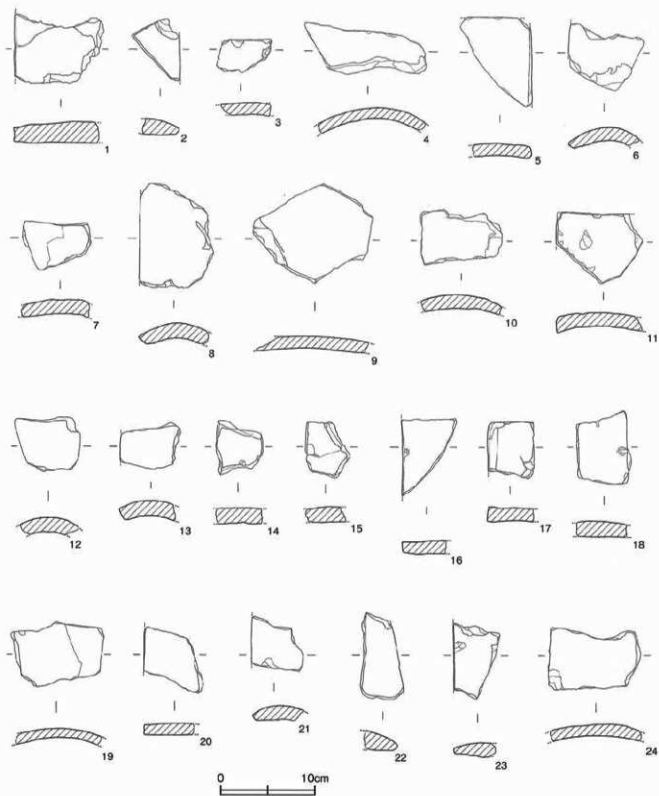
今回の調査は、台地斜面部分から延びた低地部分で1地点から6地点まで長さ約150m、幅25m間の調査を実施した。調査の結果、土壌39基、溝4条、不明遺構1基が発見された。土壌の多くは6地点に集中している。特に3地点から6地点まで80m検出されたSD01は一直線に延びている。出土遺物として青磁片、平瓦が出土しており、中世の遺構であるが性格は不明である。土壌39基の内6地点に29基が集中しているが、いずれも小型の土壌が多く、遺物も出土していないため、時期や性格は不明である。1地点から6地点までほぼ全域、耕作土下で地山面に接しているが、地山面から青磁片、白磁片、瓦器片、黒色土器片、土師器片、須恵器片、須恵質土器片、平瓦片、滑石製石鍋片、砥石、石庖丁未製品が発見されている。特に、平瓦は量が多く、隣接する僧都遺跡でも多く発見されており、この遺跡周辺に鎌倉期の寺院等が存在した可能性が強い。



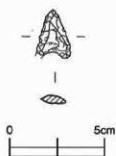
第36図 亀ノ甲・植初遺跡3次6地点 土坑 (SK01~29) 実測図 [1/60]



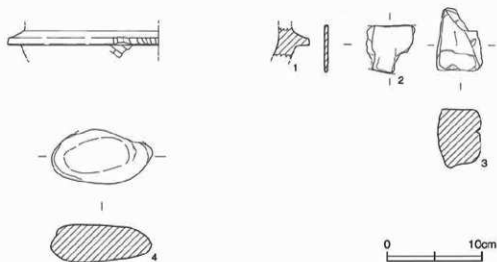
第37図 亀ノ甲・楯初邊跡3次 出土土器実測図〔1/4〕



第38図 亀ノ甲・植初遺跡3次 出土瓦実測図 [1/4]



第39図 龜ノ甲・植初遺跡3次 出土石製品実測図 (1/2)



第40図 龜ノ甲・植初遺跡3次 出土石製品実測図 (1/4)

探検 番号	出土 遺物 番号	遺物 種類	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 査		備 考
									外 面	内 面	
第37区	3地点 地山上	1 青磁版(1/5片)	15.8			横溝されている	灰色の胎に黄緑色の 釉がかかる	良好	施釉	施釉	市内面にヘラ状 工具による文様 有り
	3地点 地山上	2 青磁版(1/4片)	15.8			横溝されている	淡灰色の胎に緑色におびた 黄土を伴う透明な釉がかかる	良好	施釉	施釉	※外面遺文様 有り
	6地点 地山上	3 青磁版(口縁部片)	12			横溝されている	灰色の胎に黒子状のある 緑黄色土の釉がかかる	良好	施釉	施釉	※外面遺文様 有り
	3地点 SD01	4 青磁版(口縁部片)	16			小石を混じり、横溝されている	灰色の胎に黄緑色と灰色の一部沈着 の釉がかかる	良好	施釉、釉をかり取る	施釉	
	2地点 SK02	5 青磁版(口縁部片)	14			2mm以下の砂粒を含む、 横溝されている	淡白灰色の胎に薄い黄緑色の 釉がかかる	良好	施釉	施釉	
	4地点 地山上	6 白磁版(1/4片)	6			横溝されている	乳白色の胎に黄緑色の 釉がかかる	普通	施釉、釉をかり取る	施釉、縦リ文様	市内・外面 黄土有り
	3地点 地山上	7 青磁版(口縁部片)	20.4			横溝されている	淡灰色の胎に黄緑色をおびた緑 色の光沢のある釉がかかる	良好	施釉	施釉	
	6地点 地山上	8 青磁版(口縁部片)	5.6			横溝されている	灰色の胎に黄緑色の釉がかかる、 底部一部茶褐色有り	良好	施釉、四角ヘラ跡	施釉	※内面に(横)文字 (局文字)
	3地点 地山上	9 瓦葺版(直部片)	6.3			砂粒を含む	緑灰褐色	やや不良	ナデ(厚縁)、 ヨコナデ、ナデ	ナデ	
	3地点 地山上	10 黒色土器版 (口縁部片8破)	16			3mm以下の砂粒を含む	黒黄茶褐色/黄黄茶褐色	やや不良	不明(厚縁)	ヨコナデ(厚縁)、 ナデ(厚縁)	
	4地点 地山上	11 白磁版(口縁部片)	5			横溝されている	淡白灰色の胎に淡白色の 釉がかかる	良好	施釉	施釉	市内・外面 黄土有り
	3地点 地山上	12 土師器版 (1/2外片)	10.2	8	1.9	砂粒を含む	淡黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ(厚縁)、 唇部(厚縁)	ナデ(やや厚縁)	
第38区	5地点 地山上	13 土師器版(1/4片)	7.2			砂粒、赤色粒子を含む	淡茶色/淡黄茶褐色	不良	不明	不明	
	1地点 表段	14 土師器版(1/5片)	7.4	5.6	1.7	砂粒を含む	赤茶色	不良	不明、糸切り(厚縁)	不明	
	3地点 地山上	15 土師器版(1/4片)	9	6.8	1.1	砂粒、赤色粒子を含む	淡灰茶色	不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
	6地点 地山上	16 土師器版(1/4片)	7.4	5.6	0.6	赤色粒子を含む	黄赤茶色	不良	不明	不明	
	5地点 地山上	17 土師器版(1/5片)	8			砂粒、赤色粒子を含む	淡黄茶色	不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
	5地点 地山上	18 土師器版	7.6			砂粒、赤色粒子を含む	茶色	不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
	3地点 地山上	19 土師器版(直部片)	7.8			砂粒、赤色粒子を含む	淡茶色	不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
	5地点 地山上	20 土師器版(1/4片)	7.8	6	1.9	砂粒、赤色粒子を含む	茶褐色(黒斑有り)	やや不良	不明(厚縁)	ヨコナデ(厚縁)、 不明(厚縁)	
	3地点 地山上	21 土師器版(3/5片)	6.2			砂粒、赤色粒子を含む	淡黄茶褐色	不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
	3地点 地山上	22 土師器版(直部片)	6.2			砂粒、赤色粒子を含む	淡茶色	やや不良	不明、糸切り	不明	
	3地点 地山上	23 土師器版(直部片)	6			砂粒、赤色粒子を含む	淡茶色	やや不良	不明、糸切り	不明	
	1地点 表段	24 土師器版(直部片)	4.8			砂粒、赤色粒子を含む	淡茶色	不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
第39区	6地点 地山上	25 須恵器版 (口縁部片)	15			3mm以下の砂粒を含む	灰色	やや良好	器底へうろけ(厚縁)、 ヨコナデ(厚縁)	器底ヨコナデ(厚縁)	
	3地点 地山上	26 須恵器版 (口縁部片)	19.8			砂粒を含む	緑灰色/淡灰色	やや不良	ヨコナデ(厚縁)、 口縁部	ヨコナデ(厚縁)、 青黄遺文様	※外面 拓本有り
	3地点 地山上	27 須恵器版 (口縁部片)	26			砂粒を含む	緑灰色/灰色	やや不良	ヨコナデ	ヨコナデ(厚縁)	
	5地点 地山上	28 須恵器版 (口縁部片)	23.6			3mm以下の砂粒を含む	淡黄茶褐色	不良	ヨコナデ(厚縁)、 不明	不明	
	4地点 地山上	29 須恵器版 (口縁部片)				砂粒、赤色粒子を含む	淡黄灰色/灰色	不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
	4地点 地山上	30 須恵器版 (口縁部片)				砂粒を含む	黄赤灰褐色	不良	不明	不明	
	3地点 地山上	31 須恵器版 (口縁部片)				2mm以下の砂粒を含む	緑灰色	不良	押圧痕(厚縁)、不明	口縁(厚縁)	
	4地点 地山上	32 須恵器版 (口縁部片)				3mm以下の砂粒を含む	黄赤灰褐色	不良	不明、ハゲ目(厚縁)	不明	
	3地点 地山上	33 須恵器版 (口縁部片)	11			3mm以下の砂粒を含む	黄赤灰褐色/黄赤茶褐色	不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
	3地点 地山上	34 須恵器版 (口縁部片)	11			砂粒、赤色粒子を含む	赤茶褐色/淡黄茶褐色	やや不良	不明(厚縁)	ヨコナデ(厚縁)	
	3地点 SK02	1 平瓦				3mm以下の砂粒を含む	黒茶灰色	不良			
	5地点 SD01	2 平瓦				砂粒を含む	緑灰色	不良			
第40区	3地点 地山上	3 平瓦				砂粒を含む	緑灰褐色	やや良好			
	3地点 地山上	4 平瓦				砂粒を含む	淡黄灰色	不良			
	3地点 地山上	5 平瓦				砂粒を含む	淡黄茶色/淡灰色	不良			
	3地点 地山上	6 平瓦				砂粒を含む	淡茶褐色	不良			
	5地点 SD01	7 平瓦				砂粒を含む	黄赤茶色	不良			
	5地点 地山上	8 平瓦				砂粒を含む	黄赤灰色/淡灰色	やや不良			
	1地点 表段	9 平瓦				4mm以下の砂粒を含む	緑灰茶褐色/淡茶褐色	やや良好			
	3地点 地山上	10 平瓦				4mm以下の砂粒を含む	黄赤褐色/黄赤茶褐色	やや不良			
	5地点 地山上	11 平瓦				4mm以下の砂粒を含む	緑灰褐色	やや不良			
	4地点 地山上	12 平瓦				砂粒を含む	黄灰色/黄赤灰色	やや良好			

表8 亀ノ甲・権初遺跡3次 出土土器観察表 ①

検出 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 査		備 考
										外 面	内 面	
第38回	5地点 地山上	13	平瓦				砂粒を含む	黄茶灰褐色/淡黄茶褐色	やや不良			
*	6地点 表坪	14	平瓦				2mm以下の砂粒を含む	淡黄茶灰色	不良			
*	1地点 地山上	15	平瓦				3mm以下の砂粒を含む	緑灰茶色	不良			
*	6地点 地山上	16	平瓦				4mm以下の砂粒を含む	緑黒灰褐色	やや不良			
*	1地点 地山上	17	平瓦				2mm以下の砂粒を含む	緑黒灰褐色	やや不良			
*	3地点 地山上	18	平瓦				砂粒を含む	淡灰黄褐色	やや不良			
*	1地点 地山上	19	平瓦				5mm以下の砂粒を含む	淡黄茶灰褐色	やや良好			
*	6地点 地山上	20	平瓦				3mm以下の砂粒を含む	緑灰色	不良			
*	6地点 地山上	21	平瓦				砂粒を含む	緑灰色	やや不良			
*	3地点 地山上	22	平瓦				2mm以下の砂粒を含む	淡黄茶褐色	不良			
*	6地点 地山上	23	平瓦				砂粒を含む	灰色	やや不良			
*	1地点 表瓦	24	平瓦				3mm以下の砂粒を含む	黄茶褐色/緑茶灰褐色	不良			

表9 亀ノ甲・植初遺跡3次 出土土器観察表 ②

検出 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	岩 質	備 考
第40回	3地点 地山上	1	石鍋(鈎部片)					滑石製	銅鑿ノミ痕/腐きがかかる 色調:淡灰白黒色
*	1地点 表坪	2	石泡丁(未製品)	4.8	5	0.5		片岩	
*	3地点 地山上	3	砥石	6.6	4.5	5.7		砂岩	
*	5地点 地山上	4	磨石	10.5	5.7	3.5		安山岩	

表10 亀ノ甲・植初遺跡3次 出土石製品観察表 ①

検出 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	岩 質	備 考
第39回	4地点 地山上	1	石鏃	2.6	1.4	0.4		サヌカイト	

表11 亀ノ甲・植初遺跡3次 出土石製品観察表 ②

6 僧都遺跡

(1) 調査の概要

亀ノ甲・僧都遺跡は、八女市亀ノ甲字僧都に所在する遺跡で、八女丘陵から派生した台地の南端と台地下に広がる沖積地を含んでいる。台地上と沖積地は標高差約10m程あり台地直下の沖積地は湿田となる。今回の調査は台地斜面から沖積地に接する部分であり、平成16年度に調査を実施した後田遺跡（3次調査）斜面部分から発見された、溝とビット群の延長部分発見の可能性があったため調査を実施した。亀ノ甲・植初遺跡1、2地点と農業用水路を隔てた北側にあたる。調査以前斜面は茶畑として利用され沖積地は水田として利用されていた。

(2) 遺構と遺物

発掘調査の結果、1地点で溝2条、2地点で土壌が確認された。

1 地点

1地点は台地からやや下がった緩斜面部分にあたり、調査区の最も高い部分で標高24.8m、低い部分で23.8m、南側は沖積地と接する。

溝 (SD)

SD01 (第41図)

調査区の西側で発見され、北側へ続いているが、南側は沖積地で消滅する。削平を受けているが、ほぼ南北に3.5m程検出された。溝の幅は北側で1.5m、深さ25cm（底面標高24.13m）、南側で幅0.5m、深さ4cm（底面標高23.92m）で、南端は削平を大きく受けている。遺物は出土していない。

SD02 (第41図・図版31)

調査区の東側で発見され、南北へ続いているが、南側は沖積地で消滅すると思われる。削平を受けているが、ほぼ南北に6m程検出された。溝の幅は北側で1.5m、深さ40cm（底面標高24.50m）、南側で幅0.9m、深さ40cm（底面標高24.17m）で、南端は削平を大きく受けている。遺物は近代の磁器が出土している。

2 地点

2 地点は1 地点の東側で、亀ノ甲・植初遺跡3 次調査1、2 地点の北側にあたる。この付近の水田の標高は22.5 mで、一帯は調査前には水田として利用されていた。

発掘調査の結果、耕作土下約30 cmに明灰色粘土があり、この粘土層を切り込んで、土壇3基、無数の小ピット、土壇状遺構4基とが造られている。調査区内は削平や攪乱を受けておらず、よく遺構は残っていた。

土壇 (SK)

調査では3基の土壇が発見された。調査区の中央にあり、いずれも小形の土壇である。

SK01 (第43図・図版33)

隅丸方形で長さ0.7 m、幅0.6 mの土壇、深さは12 cmとなる。遺物は出土していない。

SK02 (第43図・図版33)

隅丸方形で長さ0.7 m、幅0.5 mの土壇、深さ30 cmで床面は平坦。遺物は出土していない。

SK03 (第43図・図版33)

隅丸長方形で長さ0.8 + a m、幅0.9 mの土壇、深さ15 cmで床面は平坦。遺物として軒平瓦片が出土している。

小ピット群

耕作土下に明灰色粘土があり、この粘土層を切り込んで無数のピット群が検出された。ピットは調査区の北東側に集中している。ピットの直径は15-20 cm、深さ5-10 cmで播鉢状の底となる。出土遺物として土師器皿片、陶器播鉢がある。

西側に隣接する後田遺跡からも小ピット群が検出されており、同一のものと思われる。

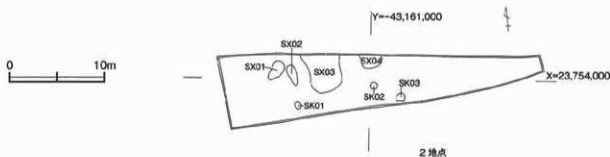
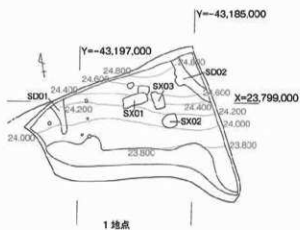
土壇状遺構 (SX)

調査区の西側から4基の土壇状遺構が発見された。いずれも不整形で深さも5 cm前後で遺物も出土していない。

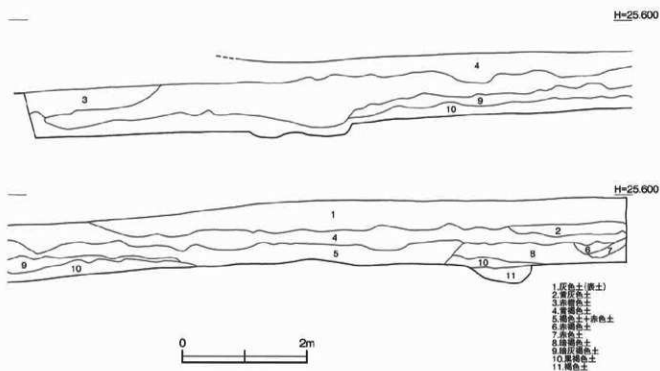
(3) まとめ

今回の調査は、台地斜面部分から沖積地の境部分の調査であったが、後田遺跡から続くと考えていた弥生時代の遺構や遺物は全く検出できなかった。後田遺跡でも東側は遺跡が希薄になっており、今回の僧都遺跡の調査で弥生時代の遺跡の拡がりがこの地区までは拡がらないことが裏付けられた。また、沖積地の調査でも同様に弥生時代の遺構は全く検出されず、遺物もほとんど出土していない。

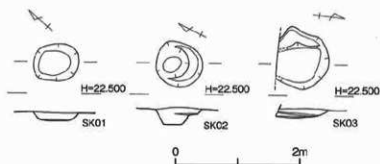
沖積地の調査では大きく削平を受けているためか遺構、遺物も数少ないが、土壇や小ピット群が



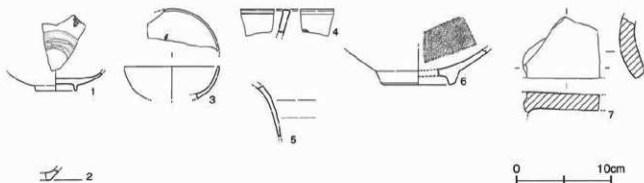
第41図 僧都遺跡 遺構配置図 (1/400)



第42図 僧都遺跡1地点 北側壁土層実測図 (1/60)



第43図 僧都遺跡2地点 土壌 (SK01~03) 実測図 [1/60]



第44図 僧都遺跡 溝 (SD) ビット (P) 土壌 (SK) 出土土器実測図 [1/4]

発見番号	出土遺構	遺物番号	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	調査		備考
										外面	内面	
第44図	SD02	1	磁器 染付皿 (1/4面)		4.5	1.95	白色、きめ細かく硬質	光沢あり透明度高く、うす・黄緑に発色	良好	うすく施釉	うすく施釉	
"	P03	2	土師器 土師器土師片				微砂粒、赤色粒を含む	暗茶色	やや良好	不明(厚鈍)	不明(厚鈍)	
"	SD02	3	陶器 染付皿 (1/4面)	10			黄茶色、やや硬質	光沢あり透明度高く、黄茶色に発色する	良好	うすく施釉	うすく施釉	内・外面に細かい貫入多くみられる
"	"	4	陶器 染付皿 (1/4面)				白色、きめ細かく硬質	光沢あり透明度やや高く、白青色に発色する	良好	うすく施釉	うすく施釉	
"	"	5	陶器 土師器 (厚部破片)				暗灰色、やや硬質、白色砂粒を少量含む	光沢あり透明度やや低く、緑茶色に発色する	良好	うすく施釉	うすく施釉	内・外面に細かい貫入が入る
"	P04	6	陶器 小皿すり鉢 (破片)		8		暗茶褐色、きめ細かく硬質	暗茶褐色	やや良好	器壁へうすく、不明、口ナデ、自然釉がみられる	器壁へうすく、不明、口ナデ、自然釉がみられる	
"	SK03	7	丸瓦 (破片)					淡灰色	不良			

表12 僧都遺跡 出土土器観察表

発見されている。土壌からは軒先平瓦片が出土し、隣接する亀ノ甲・植初遺跡からも青磁や土師器とともに平瓦が多く出土しており、伴出する土師器から鎌倉期に瓦を使用した建物が近辺に存在したものと考えられる。

寛文記・寛延記によると上妻郡亀甲村に亀甲山長福寺があり、創造400余年とされる。客殿・車裏共に二間之三間、草葺との記事が見られ、江戸期は瓦を葺いてはいないが創建時は瓦を使用したものとも思われ、創建は鎌倉期に遡る可能性もある。

多数散見されるビット群は各ビットの形態が楕円状となり、稲株の痕跡とも見ることができ、今後の分析が必要となる。

7 蒲原・植初遺跡（3次調査）

（1）調査の概要

蒲原・植初遺跡6地点は、八女市蒲原字植初に所在する遺跡で、平成15・16年度に調査を実施した1地点、3地点、5地点の隣接地にあたる。今回の調査では3、5地点からの溝の延長部が発見されるものと考えられたが、調査の結果、1地点と5地点間に幅広い自然流路が存在することが確認された。

（2）遺構と遺物

発掘調査の結果、5地点から続く溝2条、自然流路1条が確認された。自然流路は水田下2.3mまで掘り下げたが流路底は確認できず、危険のため調査を打ち切った。

溝（SD）

6地点西端では、植初遺跡5地点で発見されたSD12、SD13の延長部分を検出した。

SD12（第45図・図版35）

調査区の西端から東側へ続いているが、東端は自然流路で消滅するが、ほぼ北西から南東に11m程検出された。溝は幾筋もあり、幅は北西側で4.0m、底は凹凸が著しく最も深いところで90cm（底面標高21.22m）、南東側で幅5.5m、深さ10cm（底面標高21.50m）で、自然流路によって削平を受けている。遺物は出土していない。

SD13（第45図・図版35）

調査区の北西端から南東へ続いているが、南東側は自然流路で消滅すると思われる。ほぼ北西から南東に7m程検出された。溝の幅は北西側で1.2m、深さ21cm（底面標高22.18m）、南側で幅0.5m、深さ7cm（底面標高22.21m）と狭くなる。遺物は出土していない。

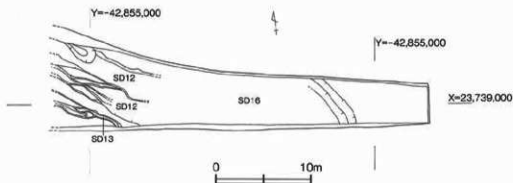
SD16（第45図・図版34）

幅約25mの北西から南西に流れる自然流路であり、河川状の遺構である。水田下約2.3mまで掘り下げを進めたが流路底には到達せず、掘下げを中止した。自然流路はSD12、SD13を削平しており、下層から木の枝や根が多く発見されたが、加工したものは無く、流木と判断した。その下層は砂層に変化するものと思われるが、東西を分かち大きな流路であるので、南側を流れる山ノ井川との関係も考えられる。遺物として上層から土師器碗と磨石が出土している。

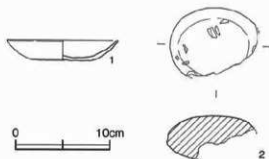
（3）まとめ

蒲原・植初遺跡の発掘調査の結果として、調査区のほぼ中央に幅約25mの自然流路が確認された。道路幅のみの調査であるが、自然流路はわずかに蛇行しながらほぼ南北に流れており、水田下

約2.3mまで掘り下げたが流路底には到達しなかった。流路底付近には木の枝等が厚く堆積しており、長期間にわたって流れていたものと考えられる。自然流路の上層から古墳時代の土師器が出土しており、この時期に流路が埋没し、その後、水田として利用されている。



第45図 蒲原・植初遺跡3次 遺構配置図 (1/400)



第46図 蒲原・植初遺跡3次 溝 (SD) 出土土器・石製品実測図 (1/4)

発掘 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	図 案		備 考
										外 面	内 面	
第46図	SD16	1	土師器 片(4/5片)	11.7	6.3	2.1	微砂粒を含み、焼練されている。 赤色斑子を含む	淡黄白色	やや良好	不明	不明	

表13 蒲原・植初遺跡3次 出土土器観察表

発掘 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	岩 質	備 考
第46図	SD16	2	磨石	9.1	7.2	4.4	245	安山岩	

表14 蒲原・植初遺跡3次 出土石製品観察表

8 後田遺跡（5次調査）

（1）調査の概要

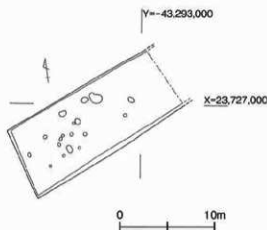
後田遺跡は、八女市亀ノ甲字後田に所在する遺跡で、八女丘陵から派生した台地の南端と台地下に広がる沖積地を含んでいる。台地上と沖積地は標高差約10m程あり台地直下の沖積地は湿田となる。今回の調査は台地斜面から続く沖積地であり、平成16年度に調査を実施した後田遺跡（3次調査）の南側隣接地の湿田にあたり、斜面部分から発見された溝と土壌群、ビット群の延長部分発見の可能性があったため調査を実施した。

（2）遺構と遺物

今回発見された遺構は、直径20～40cmビットが検出されたが、いずれも浅く柱穴とは考え難い。また、遺物も全く出土しなかった。

（3）まとめ

3次調査の南側の沖積地で、湿潤な湿地が広がっており、台地端部からは湧水も見られる。標高は20m前後である。発見された遺構は大小のビットでいずれも浅く、柱穴とは考え難い。遺物の出土もないところから後田遺跡の東端とも考えられる。



第47図 後田遺跡5次 遺構配置図 [1/400]

平成20年度調査

1 後田遺跡（6次調査）

（1）調査の概要

後田遺跡は、八女市亀ノ甲字後田に所在する遺跡で、台地の南端と台地下に広がる沖積地を含んでいる。台地上と沖積地は標高差約10m程あり台地直下の沖積地は湿田となる。今回の調査は台地から続く斜面部分であり、平成15年度に調査を実施した後田遺跡（2次調査）の東側隣接地にあたる。2次調査で斜面部分から発見された溝と土壌群、ピット群の延長部分発見の可能性があったため調査を実施した。

（2）遺構と遺物

発掘調査の結果、台地斜面から沖積地に接する標高22.2m所に並んで3基の土壌と斜面部分には直径15-25cmピットが多数検出されたが、いずれも深さが10-20cmと浅く柱穴とは考え難い。また、調査区の西側、標高24.5m付近で西側から続くSD01の一部を検出した。遺物は斜面表土より弥生時代瓦片と砥石が出土した。

土壌（SK）

調査では3基の土壌が発見された。いずれも小形の土壌である。

SK01（第49図・図版38）

隅丸方形で長さ0.9m、幅0.7mの土壌、深さは20cmで、遺物は出土していない。

SK02（第49図・図版38）

隅丸方形で長さ1.2m、幅0.7mの土壌、深さ10cmで床面は平坦、遺物は出土していない。

SK03（第49図・図版38）

隅丸長方形で長さ1.0m、幅0.6mの土壌、深さ25cmで床面は平坦、遺物は出土していない。

溝（SD）

SD01（第48図）

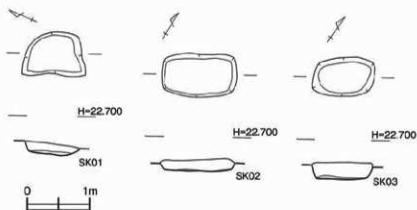
調査区の西側で発見され、東側へ続くが西壁から2m程で消滅する。溝の幅は北側で2.1m、深さ30-40cm（底面標高23.86m）で、溝斜面や溝底に直径20-30cm、深さが20-40cmのピットが多数検出されたが、遺物は出土していない。

(3) まとめ

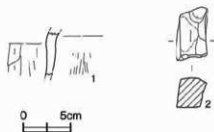
6次調査は3次調査地区の東側隣接地であり、溝と土壌群、ピット群の延長部分が発見されると予想された。調査の結果、溝の東端が検出され、3次調査地区で検出されたと同様、溝斜面や溝底に多数のピットが存在とともに、沖積地との接点付近で3次調査地区から続く土壌群が検出された。しかし、平成19年度の5次調査時には遺構、遺物が全く出土せず、今回の調査でも溝の東端が検出され、また、ピットも調査区の東側では希薄になり、遺物の出土もほとんど無いところから、この付近が後田遺跡の東端の可能性が強く、室岡・山ノ上遺跡、亀ノ甲・山ノ上遺跡から続く弥生時代の遺構の東端とも考えられる。



第48図 後田遺跡6次 遺構配置図 [1/400]



第49図 後田遺跡6次 土壌 (SK01~03) 実測図 [1/60]



第50図 後田遺跡6次 表探出土土器・石製品実測図〔1/4〕

発掘 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	高さ (cm)	器底 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第50図	表探	1	土師器壺(細片)				2mm以下の砂粒を多く含む	黄灰色/赤褐色	やや良好	ヨコ方向のナデ	ナデ、削り	

表15 後田遺跡6次 出土土器観察表

発掘 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	岩 質	備 考
第50図	表探	2	砥石	5.55	3.15	3.1	70	砂岩	

表16 後田遺跡6次 出土石製品観察表

2 今屋敷遺跡

(1) 調査の概要

今屋敷遺跡は八女市大島字今屋敷にある。遺跡は茶ノ木田遺跡の市道を隔てた東側にあり、南側を用水路が流れている。調査前には民家が建っており、民家撤去後に調査を実施した。発掘調査は水路から北側で民家撤去部分の敷地について調査を実施した。調査の結果、攪乱も多かったが盛土下約80cmから歴史時代の溝、近世の溝、井戸、土壇、ピットが発見された。

(2) 遺構と遺物

今回発見された遺構は、歴史時代の溝1条、近世の溝2条、井戸2基、土壇3基、ピットがある。

土壇 (SK)

調査では3基の土壇が発見された。

SK01 (第52図・図版40)

隅丸方形で東側をSD01によって切られている。長さ1.5m、幅1.4+mの土壇、深さは10cmで、遺物は出土していない。

SK02 (第52図・図版40)

調査区の東端で発見された。隅丸長方形と思われ隅丸方形で長さ2.6+m、幅1.8+mの土壇、深さ10cmで床面は平坦、遺物は近世の陶磁器が出土している。

SK03 (第52図・図版41)

隅丸長方形でSD03によって切られている。長さ2.9m、幅1.8+mの土壇、深さ約10cmで床面は平坦、遺物は出土していない。

溝 (SD)

SD01 (第51図・図版40)

調査区の東側で発見され、南北へ延びる。北側は幅1.4m、深さ30cm(底面標高31.23m)で南側は幅1.2m、深さ30cm(底面標高31.25m)。遺物は近世の陶磁器が出土している。

SD02 (第51図・図版41)

調査区の南西端に東西に延びる溝で約7m検出した。溝の大半は用水路によって切られている。溝の幅は2.5+mで、南側に広くなると思われる。深さも西側で1.06m(底面標高30.50m)で、溝中心部分はさらに深くなる。溝内は厚く埋土が堆積しており、長期間流れていた可能性が強い。溝内からは歴史時代の土師器片が出土している。

SD03 (第51図・図版41)

調査区の西側を南北にと延びる溝で途中消滅するが6.5m検出した。溝の幅は北側で1.1m、深さは約20cm(底面標高31.38m)、南側で50cm、深さは約5cm(底面標高31.45m)と狭くなり消滅する。溝内から遺物は出土していない。

井戸 (SE)

調査区の北側に撤去民家使用時の井戸2基が発見された。

SE01 (第51図)

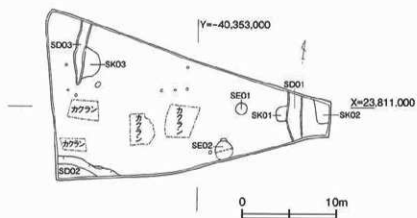
直径1mの円形の井戸で、0.8mほど掘下げたが湧水が著しく調査を中断、井戸内部から近代の陶磁器片が多数出土した。

SE02 (第51図)

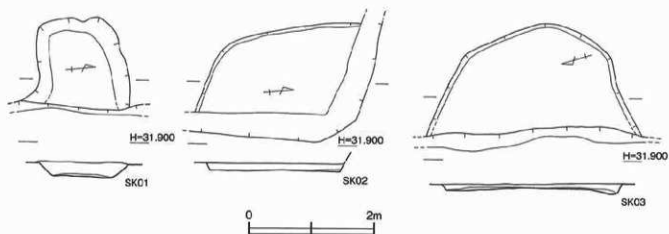
直径1.7mの円形の井戸で、0.5mほど掘下げたが湧水が著しく調査を中断、井戸内部から近代の陶磁器片が多数出土した。

(3) まとめ

今回の調査は、国道路線幅内、また、南側は農業用水路という限られた範囲であったため、十分な調査が行なえなかった。しかし、今回調査を実施した地点は茶ノ木田遺跡から続く微高地が東側に緩く傾斜する地点であり、削平を余り受けていなかった。しかし、旧民家によって一部擾乱を受けていたが、東西に伸びる歴史時代の溝を確認できた。溝から出土した遺物は平安時代以降のもので、かなり長期間溝が使用されていたものと考えられる。同時期の遺構は溝近辺では発見されておらず、今回調査を実施した東側と南側にこの時期の遺構が存在している可能性がある。



第51図 今屋敷遺跡 遺構配置図 [1/400]



第52図 今屋敷遺跡 土壌 (SK01~03) 実測図 [1/60]

3 船底遺跡

(1) 調査の概要

船底遺跡は、八女市納楚字船底に所在する。調査区域は、平成18年度に調査を実施した柳遺跡(2次調査)4・5地点の西側で、平成17年度に調査を行なった楠町(10地点)の東側にあたる。柳遺跡は標高36.1m、楠町遺跡は標高34.9mにあり、両遺跡間には1.2mの比高差がある。さらに楠町遺跡から船底遺跡は現地形ではほとんど差が見られないが、船底遺跡の位置する水田は常時湿田であり、柳、楠町両遺跡間に浅い谷状か沼地状の遺構が予想された。

調査の結果、柳遺跡から続く微高地沿いに旧河川が走り、旧河川上に厚い耕作土が存在することが判明した。

(2) 遺構と遺物

今回発見された遺構は、弥生時代の旧河川跡1条、溝3条、井戸1基、古墳時代から平安時代の溝6条、井戸1基、土壇4基が発見された。

旧河川跡(SD01)

SD01(図版46・48・49)

調査区の東端で発見され、東側の微高地を巡るように南北に延びる。北側は幅1.4m、底面は凹凸が著しく、河川底には幾条もの小溝や溜まり状の窪地が最も深い所で1.0m(底面標高33.65m)で南側は幅1.8mで、最も深い所で深さ1.23m(底面標高33.40m)。

SD01の土層を見ると、北側は東側の微高地の端部から緩やかな溝となる。溝の最深部から60cmに赤褐色の鉄分が沈着した層があり、この間の土層は大小の砂礫が混じる砂礫層で、多量の土器、石器を含んでいる。弥生時代中期の土器が出土し土器の多くは磨耗している。鉄分の沈着部分の上層は35cmの灰色の細砂質土で遺物も少なく、長期間流れていたものと思われる。細砂質土の上層は40-50cmの灰茶褐色土で、浅い溝を整地、平坦にして水田等に利用したもの思われ、整地土中より弥生式土器、須恵器、土師器が出土している。さらに上層の30-60cm間に三枚の耕作土が確認されており、幾度と無く整地を繰り返して耕作が続けられている。

南側土層の東端はSD01の最深部で現耕作面から1.8mの深さとなる。溝の最深部から60cmまで大小の砂礫が混じる砂礫層で、多量の土器、石器を含んでいる。赤褐色の鉄分が沈着した層はないが、上層は20-30cmの灰色の細砂質土があり、遺物も少なく長期間流れていたものと思われる。弥生時代中期の土器が出土し土器の多くは磨耗している。細砂質土の上層は40-50cmの灰茶褐色土で、平坦にして水田等に利用したもの思われ、整地土中より弥生式土器、須恵器、土師器が出土している。さらに上層の60-70cm間に三枚の耕作土が確認されており、SD03は下層から二枚目の耕作土を切り込んでおり、幾度と無く整地を繰り返して耕作が続けら

れている。

出土遺物として下層から弥生時代中期の壺、甕、大型甕、鉢、高杯、器台、筒型器台が、上層から支脚、土師器二重口縁壺、小型丸底壺、ミニチュア土器、須恵器杯、埴、壺、甕、大型壺、瓶、土師器杯、甕が、石器として石剣、石のみ、挟入石斧、太型蛤刃石斧、石庖丁、石庖丁未製品、紡錘車未製品、磨石、白石、くぼみ石、砥石、土製紡錘車出土している。

井戸 (SE)

SD01の底から立ち上がり部分の西側から1基、SD04の溝底から1基が発見された。

SE01 (第54図・図版46)

直径0.9m、深さ100cmの円形の井戸で、SD01の底付近で厚い砂礫層の下から発見された。河川底下の砂礫層を掘削しており、素掘りの井戸となる。内部より弥生時代中期の壺、甕、丹塗の壺片が出土している。

SE02 (第54図・図版46)

直径1.4m、深さ96cmの円形の井戸で、SD04の底から発見された。溝底の砂礫層を掘削しており、素掘りの井戸となる、内部より須恵器杯身、土師器杯が出土している。

土壇 (SK)

調査区の北側に集中して4基の土壇が発見された。

SK01 (第54図・図版47)

隅丸方形で長さ1.7m、幅1.0mの土壇、深さは10cmで、遺物は出土していない。

SK02 (第54図・図版47)

隅丸長方形と思われる隅丸方形で長さ1.5m、幅1.1mの土壇、深さ14cmで床面は平坦、遺物は弥生時代の甕底が出土している。

SK03 (第54図・図版47)

隅丸長方形で1/2は調査区外となる。長さ1.2m、幅0.4+a mの土壇、深さ16cmで床面は平坦、遺物は須恵器杯蓋が出土している。

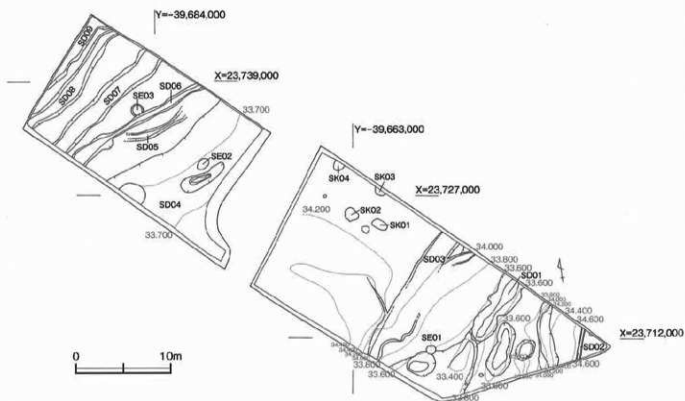
SK04 (第54図・図版47)

隅丸長方形で1/2は調査区外となる。長さ1.1m、幅0.6+a mの土壇、深さ10cmで床面は平坦、遺物は出土していない。

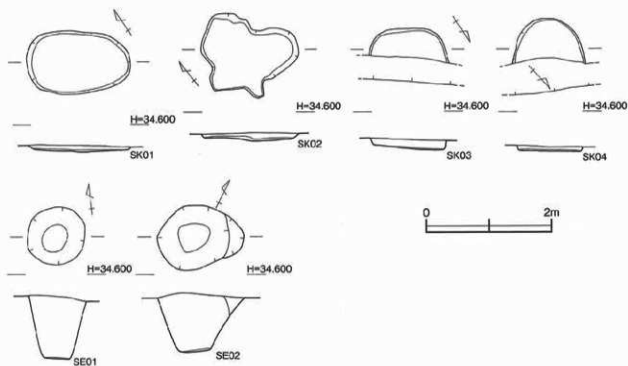
溝 (SD)

SD02 (第53図・図版51)

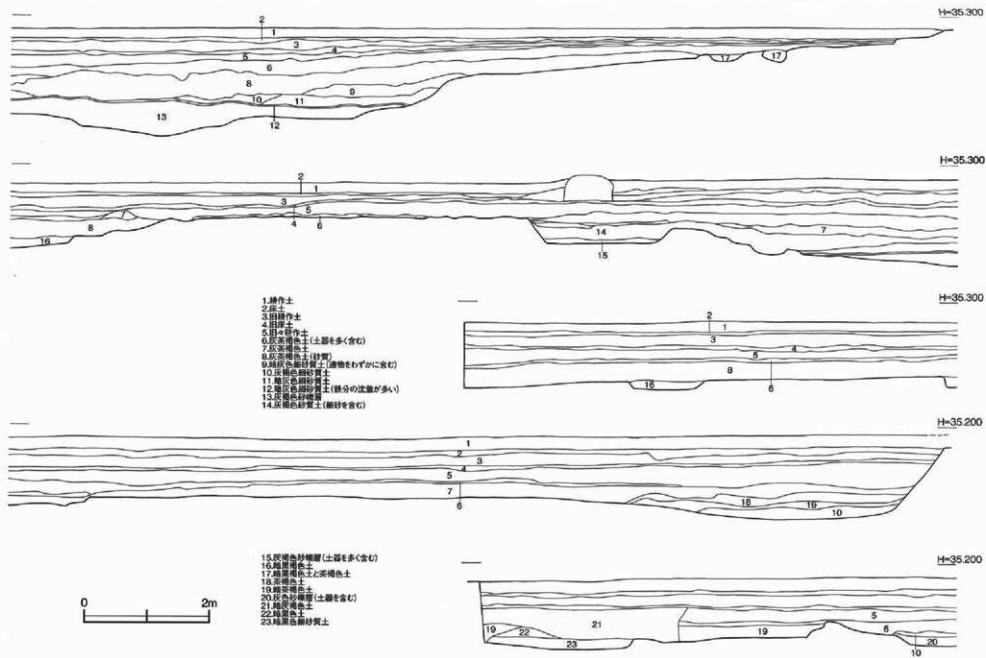
調査区の東端に南北にのびる小溝で約4m検出した。溝は北側で幅0.5m、深さ5cm(底面標高34.60m)で、南側で幅0.6m、深さ20cm(底面標高34.47m)。溝内は黒色土が堆積しており、弥生時代の土器片が出土している。



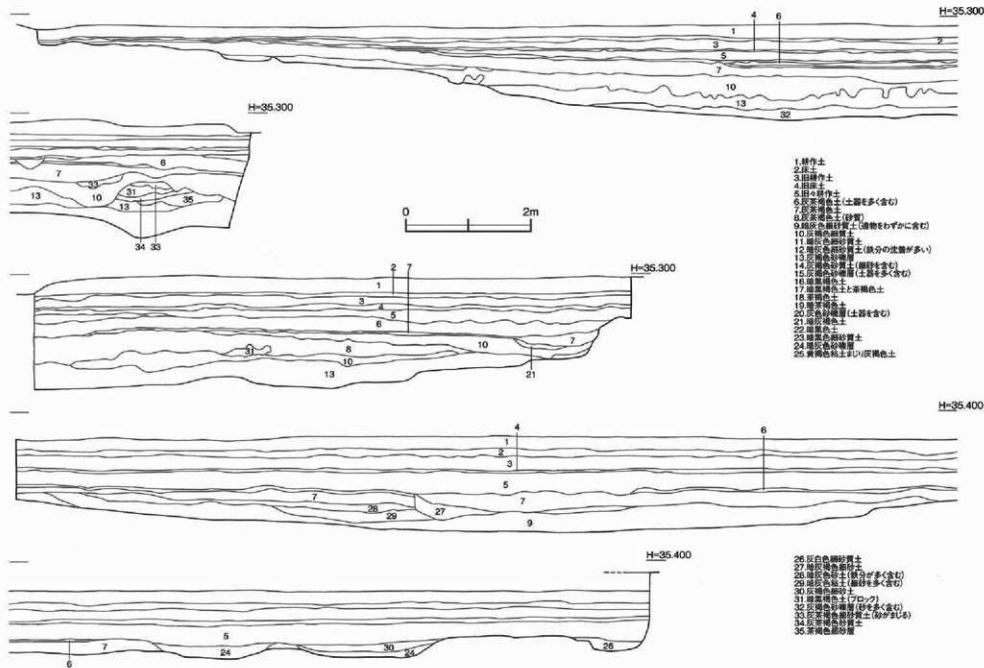
第53図 船底遺跡 遺構配置図 [1/400]



第54図 船底遺跡 土墳 (SK01~04) (SE01.02) 実測図 [1/60]

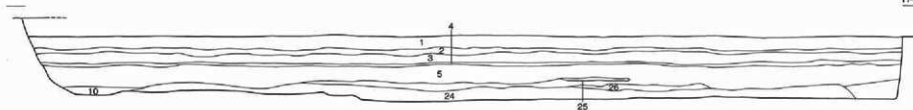


第55図 船底遺跡 北側壁土層実測図 (1/60)



第56図 船底遺跡 南側壁土層実測図 [1/60]

H=35,400



- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 砂作土 | 14. 灰褐色砂質土 (細砂を含む) |
| 2. 灰土 | 15. 灰褐色砂礫層 (土器を多く含む) |
| 3. 田耕作土 | 16. 緑褐色土 |
| 4. 田土 | 17. 緑褐色土と茶褐色土 |
| 5. 田々耕作土 | 18. 茶褐色土 |
| 6. 灰茶褐色土 (土器を多く含む) | 19. 緑茶褐色土 |
| 7. 灰茶褐色土 | 20. 灰色砂礫層 (土器を含む) |
| 8. 灰茶褐色土 (砂質) | 21. 緑茶褐色土 |
| 9. 緑灰色砂質土 (遺物をわずかに含む) | 22. 緑褐色土 |
| 10. 灰褐色砂質土 | 23. 緑褐色砂質土 |
| 11. 緑灰色砂質土 | 24. 緑灰色砂礫層 |
| 12. 緑灰色砂質土 (鉄分の沈澱が多い) | 25. 黄褐色土と灰褐色土 |
| 13. 灰褐色砂礫層 | 26. 灰白色砂質土 |

第57図 船底遺跡 西側壁土層実測図 (1/60)

SD03 (第53図・図版51)

SD01の西側にあり、SD01と並行して南北にと延びる溝で15m検出した。溝の幅は北側で2.6m、深さは30cm(底面標高33.38m)、南側で1.5+ a m、深さは37cm(底面標高33.90m)と東側は大きくSD01により削られている。溝内から須恵器甕、弥生式土器片が出土している。

SD04 (第53図・図版51)

調査区の中央で発見され、南北へ延びる。北側は幅5.5m、深さ37cm(底面標高33.65m)で南側は約幅10m、深さ30cm(底面標高33.52m)で14m検出した。溝中心部はさらに30cm深くなる。遺物として須恵器甕、土師器埴、高杯が出土している。

SD05 (第53図・図版51)

SD04とSD05の間に南北に延びる溝で約7m検出した。溝の両端は消滅する。溝の幅は北側で0.3m、深さ10cm(底面標高33.82m)、南側は幅0.8m、深さ2cm(底面標高33.90m)で、溝内から遺物は出土していない。

SD06 (第53図・図版51)

調査区の西側を南北にと延びる溝で15m検出した。溝の幅は北側で0.9m、深さは約6cm(底面標高33.96m)、南側で1.3m、深さは約10cm(底面標高33.87m)と広がる。溝内から遺物は出土していない。

SD07 (第53図・図版51)

調査区の西側で発見され、南北へ延びる。北側は幅2.5m、深さ20cm(底面標高33.8m)で南側は幅2.0m、底面に幅0.7mの小溝があり、最も深い所で22cm(底面標高33.76m)。遺物は奈良時代の須恵器杯身、甕、土師器甕が出土している。

SD08 (第53図・図版52)

調査区の西端にわずかにカーブをしながら南北に延びる溝で約14m検出した。溝の北側は幅1.3m、深さ5cm(底面標高33.91m)で南側は幅1.3m、深い所で10cm(底面標高33.96m)。遺物は奈良時代の須恵器甕が出土している。

SD09 (第53図・図版52)

調査区の西側をわずかにカーブをしながら南北に延びる溝で1/2程確認できた。溝の幅は北側で1.3+ a m、深さは5-10cm(底面標高33.91m)、南側で0.8+ a m、深さは約10cm(底面標高33.9m)と狭くなり消滅する。奈良時代の須恵器甕が出土している。

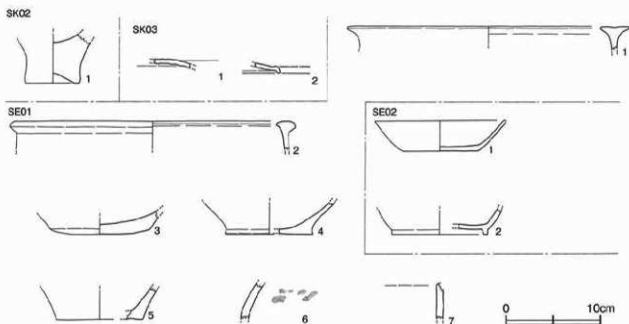
(3) まとめ

今回調査を実施した船底遺跡の東側隣接地は平成17年から平成20年度にかけて調査を実施した柳遺跡であり、柳遺跡では路線幅内と限られた調査範囲であるが弥生時代中期を中心とした堅穴住居、土壇、溝が多数発見されている。また、西側隣接地は平成17年から平成20年度にかけて調査を実施した楠町遺跡であり、1-10地点間約300mの調査の結果、墓地を除きわずかに弥生時代の堅穴住居は1軒と溝1条のみで弥生時代の遺構は西側には拡がっていない事が判明している。さらに、平成8年に調査を実施した高島遺跡では集落の東端と考えられる旧河川(SD01)

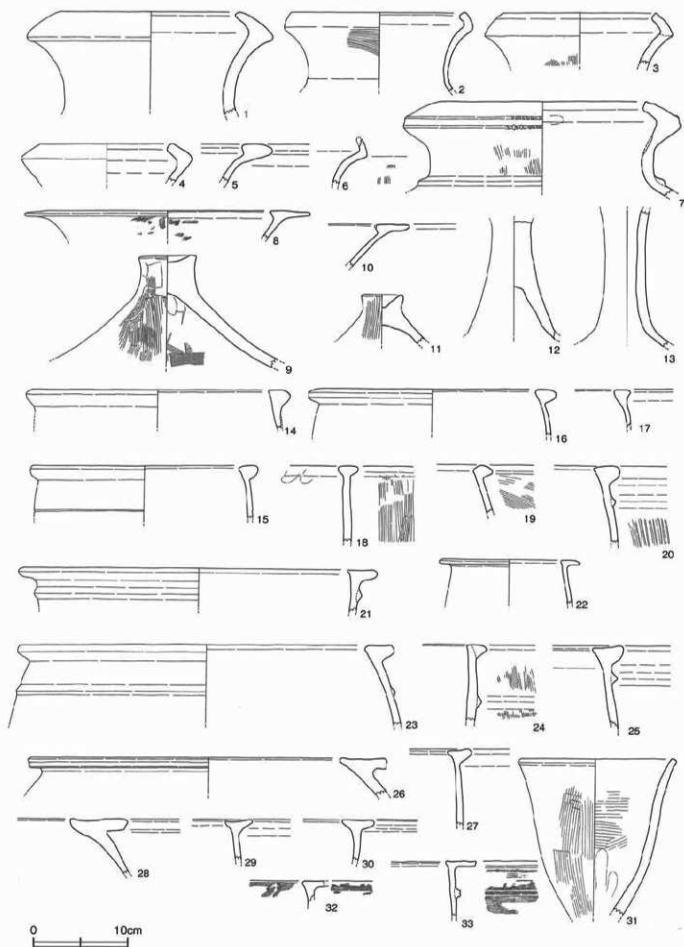
を確認し、高島遺跡の北西側400mにある赤氏遺跡、西側200mにある熊野遺跡を含んだ南北約250m、東西約600mで、面積も約15ヘクタールとなる大規模な集落が想定されている。今回発見されたSD01は柳遺跡から続く微高地の縁を巡っていると思われ、これら集落の北端を巡る旧河川と考えられる。

旧河川(SD01)は溝の堆積状況から、高島遺跡で発見された旧河川(SD01)と異なり粘土の堆積が無く、また、旧河川底から遺物が多量に出土し、西側底から素掘りの井戸1基も発見されており、このため常時水が流れていたとは考え難く、氾濫時や増水時のみ大きく流れていたものと思われる。

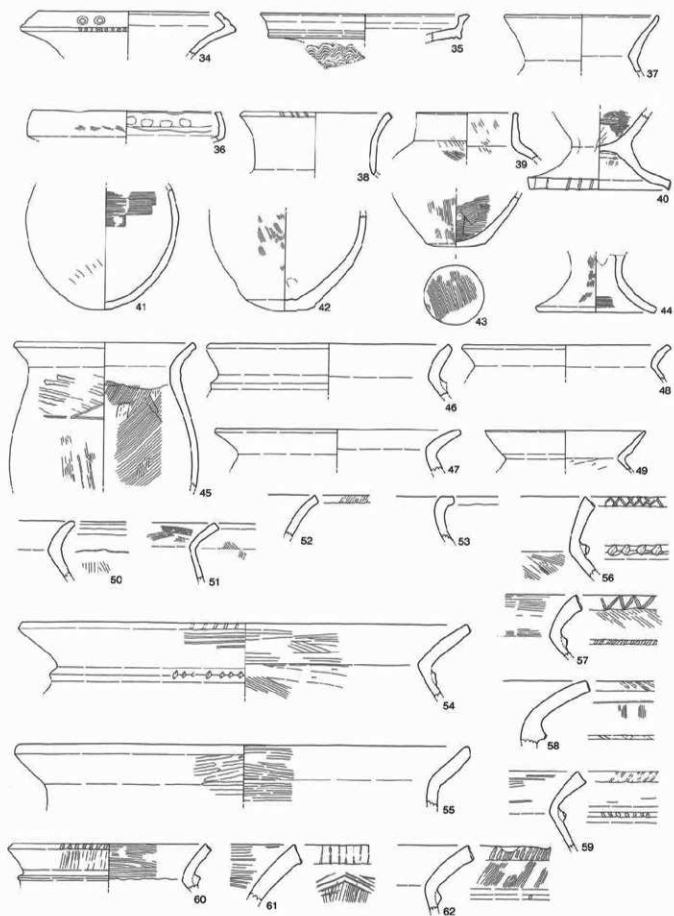
旧河川(SD01)は厚い整地層に覆われているが、出土遺物から古墳時代と歴史時代に大きく開発されている。隣接する楠町遺跡からは古墳時代竪穴住居、歴史時代の掘立柱建物等が発見されており、この時代に旧河川が整地され、耕作地として利用、溝等が掘削されたものと考えられる。



第58図 船底遺跡 土坑 (SK) 井戸 (SE) 出土土器実測図 [1/4]

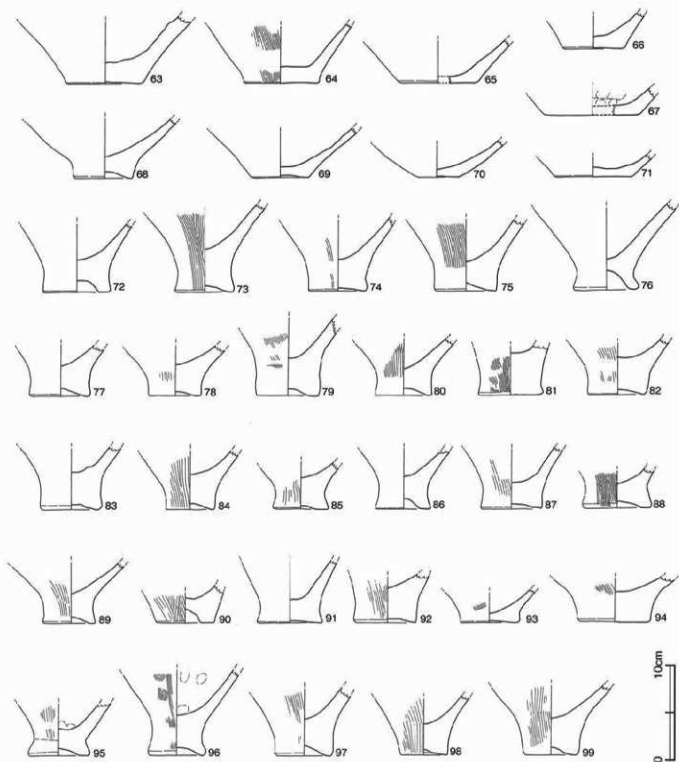


第59図 船底遺跡 溝 (SD01) 出土土器実測図 [1/4]

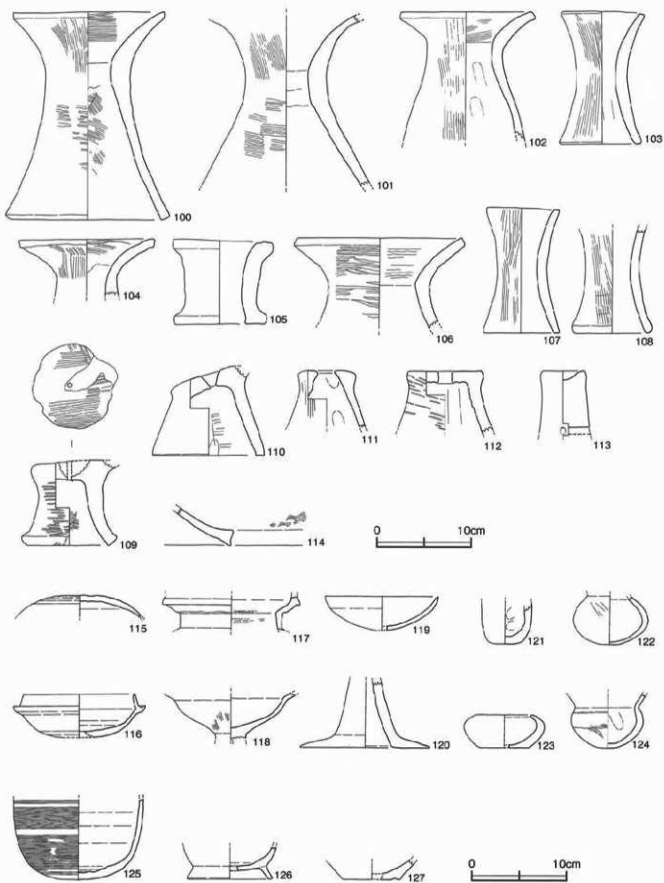


0 10cm

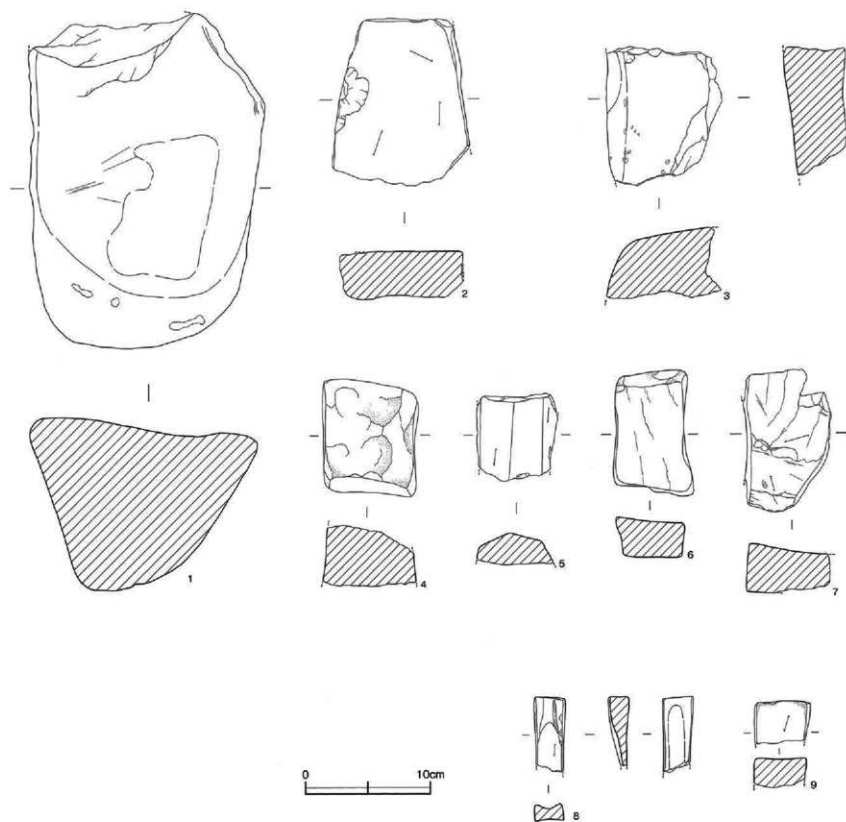
第60圖 船底遺跡 溝 (SD01) 出土土器実測圖 (1/4)



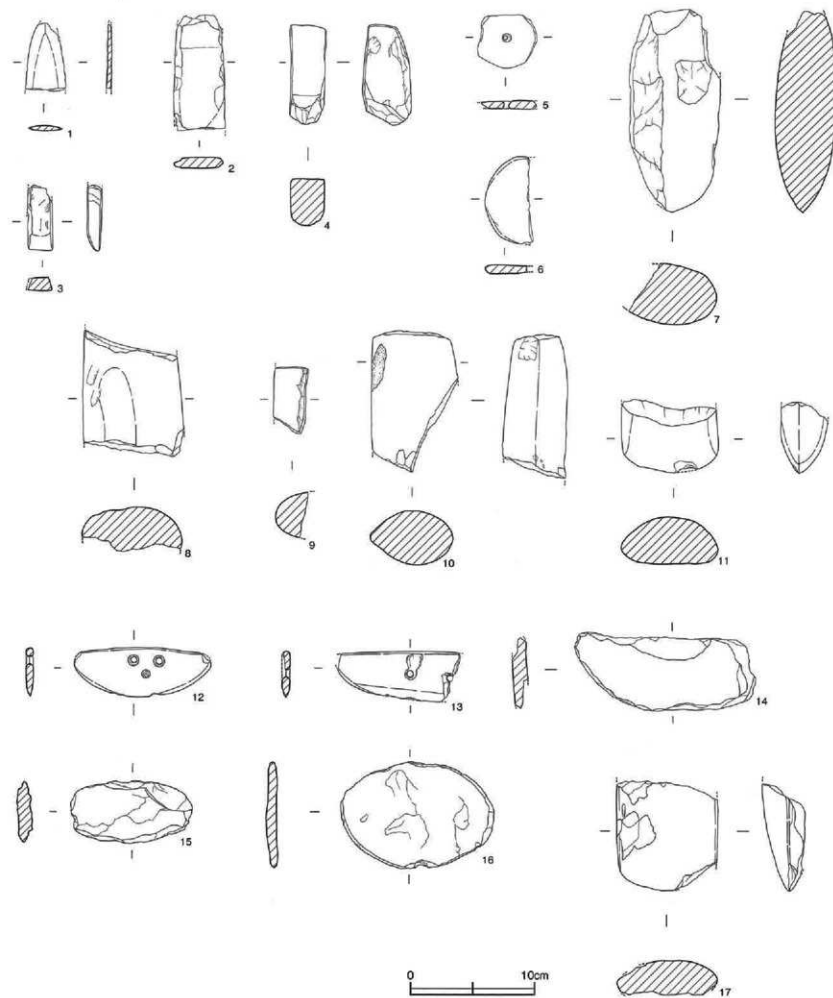
第61圖 船底遺跡 溝 (SD01) 出土土器実測圖 [1/4]



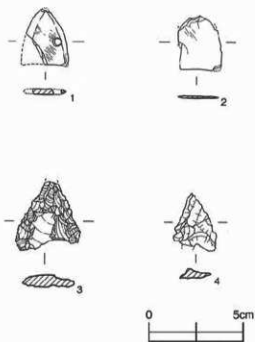
第62図 船底遺跡 溝 (SD01) 出土土器実測図 (1/4)



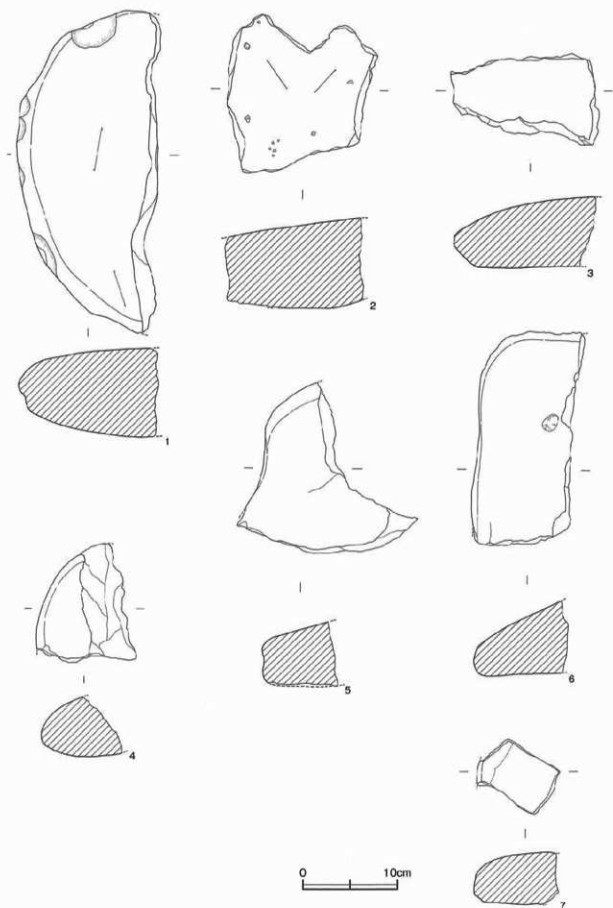
第63図 船底遺跡 溝 (SD01) 出土石製品実測図 (1/3)



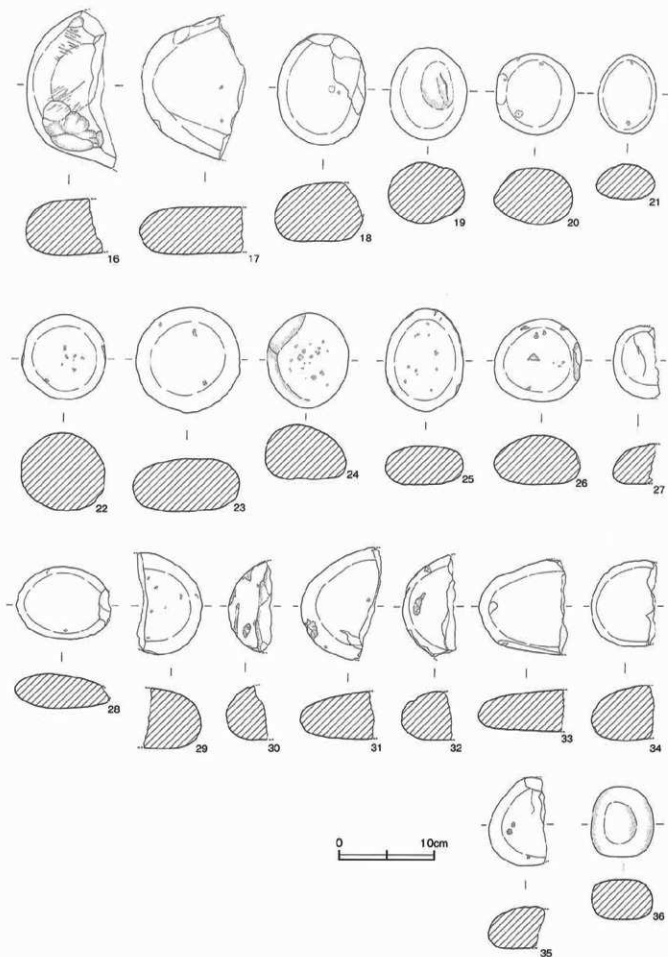
第64図 船底遺跡 溝(SD01)出土石製品実測図〔1/3〕



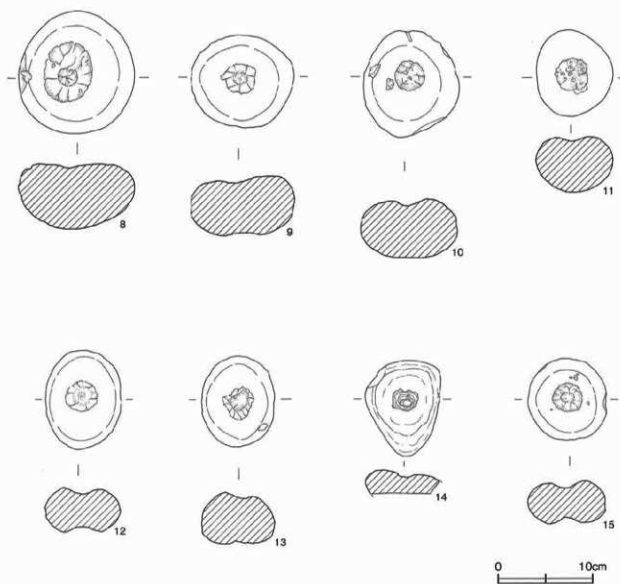
第65図 船底遺跡 溝 (SD01) 出土石製品実測図 [1/2]



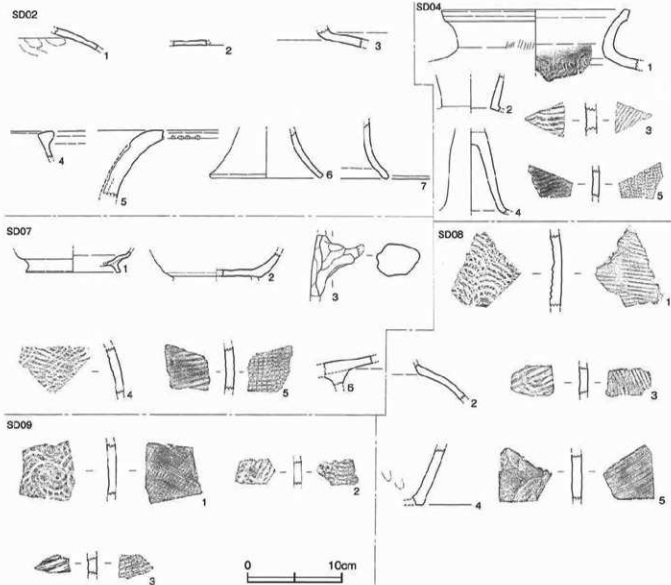
第66図 船底遺跡 溝 (SD01) 出土石製品実測図 [1/4]



第67図 船底遺跡 溝 (SD01) 出土石製品実測図 (1/4)



第68図 船底遺跡 溝 (SD01) 出土石製品実測図 [1/4]



第69图 船底遺跡 溝 (SD02.04.07.08.09) 出土土器実測図 (1/4)

発掘 番号	出土 遺物 番号	遺物 種類	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 査 内 容		備 考
										外 面	内 面	
第50図	SK02	1	甕(底部片)		6.6	5.2	3mm以下の砂粒、 白色砂粒を多く含む	明黄褐色/暗茶色	やや不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
"	SK03	1	須臾蓋 (天井形蓋片)				微砂粒、黒色粒を含む、 焼遺されていず	明灰色/明黄灰色	やや良好	面縁へう割、 ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	
"	"	2	須臾蓋 (底部片)				微砂粒、赤色粒を含む	明褐色	やや不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
"	SE01	1	甕(口縁部片)	30			1~3mm以下の砂粒を 多く含む	淡黄灰色	やや良好	不明(厚縁)、 ヨコナデ(厚縁)	不明(厚縁)	
"	"	2	甕(口縁部片)	29.2			1mm以下の砂粒を多く含む	淡黄灰色/黄褐色	やや良好	不明、ヨコナデ	不明(厚縁)	
"	"	3	甕(底部片)		10.6		1mm以下の砂粒を含む	淡黄灰色/淡茶色	やや良好	不明(厚縁)	不明(厚縁)	工具による微いナデ、 工具痕が検出
"	"	4	甕(底部片)		9.2		2mm以下の砂粒を多く含む	暗黄褐色/暗茶褐色	やや良好	ナデ(厚縁)、 不明(厚縁)	不明(厚縁)	
"	"	5	甕(底部片)		9		1mm以下の砂粒を含む	淡黄灰色	やや良好	不明	不明	
"	"	6	甕(口縁部片)				微砂粒を多く含む、 赤色粒を含む	丹塗/淡黄灰色	やや良好	丹塗	不明	
"	"	7	不明(蓋片)				微砂粒を少し含む	明褐色	やや良好	不明	不明	
"	SE02	1	土師器 杯(口縁部片)	14	8	3.2	微砂粒を多く含む、 赤色粒を含む	淡黄褐色	やや良好	不明(厚縁)、 面縁へう割、 ヨコナデ	不明(厚縁)	
"	"	2	土師器 杯(底部片)		10.2		微砂粒を含む	黄褐色/灰色	やや良好	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
第50図	SD01	1	甕(口縁部片)	19			1~2mm以下の砂粒を含む	淡黄褐色/明黄褐色	やや良好	不明(厚縁)	ナデ	
"	"	2	甕(口縁部片)	18.8			1~2mm以下の砂粒を 多く含む	淡黄褐色	やや良好	不明(厚縁)、ハケ目 (厚縁)、ヨコナデ	不明(厚縁)、 ヨコナデ	
"	"	3	甕(口縁部片) (口縁1/4片)	20			3mm以下の砂粒、金剛砂、 赤色粒を多く含む	灰茶色(黒點有り)/黄褐色	やや良好	不明(厚縁)、 ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ	
"	"	4	甕(口縁部片) (口縁1/4片)	13.8			2mm以下の砂粒、石灰、微砂粒 を含む、赤色粒を多く含む	黄褐色/淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ	ヨコナデ	
"	"	5	甕(口縁部片)				2mm以下の砂粒、微砂粒を 多く含む	明灰黄色/黄褐色	やや良好	ナデ	ナデ	
"	"	6	甕(口縁部片) (口縁部片)				2mm以下の砂粒、金剛砂、 赤色粒を多く含む	明茶色	やや不良	不明(厚縁)、わずかに ハケ目	不明(厚縁)、わずかに ハケ目	
"	"	7	甕(口縁部片)	22			1mm以下の砂粒、長石、 内閃石を含む	明黄褐色	やや良好	ヨコナデ(厚縁)、 刻目、ハケ目(厚縁)	ヨコナデ、一部指圧 痕、不明(厚縁)	
"	"	8	甕(口縁部片)	30.2			1~2mm以下の砂粒を含む	丹塗	やや良好	不明(厚縁)、 丹塗	不明(厚縁)、 丹塗	
"	"	9	甕(上半部のみ)	6.1			3mm以下の砂粒、微砂粒、 赤色粒を多く含む	淡黄褐色/淡茶色	やや良好	ハケ目、指圧痕	ハケ目、指圧痕	
"	"	10	甕(口縁部片)				微砂粒を含む	赤褐色	やや良好	ヨコナデ(厚縁)、不明(厚 縁)、面縁(厚縁)が直ぐ	不明(厚縁)	
"	"	11	甕 (つば部分のみ1/2片)				2mm以下の砂粒、角閃石を 多く含む	灰茶色/暗褐色(黒斑有り)	やや良好	ハケ目、不明(厚縁)	強いナデ	
"	"	12	甕(口縁部片)				1~2mm以下の砂粒、 赤色粒を多く含む	淡黄褐色/暗黄褐色	やや良好	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
"	"	13	甕(口縁部片)				1mm以下の砂粒を少し含む	淡黄褐色/灰黄褐色	やや良好	不明(厚縁)	工具によるナデ	
"	"	14	甕(口縁部片)	20			1~3mm以下の砂粒を含む	暗黄褐色/黄褐色	やや良好	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
"	"	15	甕(口縁部片)	54			1~2mm以下の砂粒を含む	暗黄褐色/明黄褐色	やや良好	ヨコナデ、ナデ、 刻目	ヨコナデ、ナデ	
"	"	16	甕(口縁部片)	26			1~2mm以下の砂粒を 多く含む	明黄褐色/黄褐色	やや良好	ヨコナデ、不明	ナデ	
"	"	17	甕(口縁部片)				1~2mm以下の砂粒を 多く含む	暗黄褐色/淡黄褐色	やや良好	ヨコナデ、ナデ	ナデ	
"	"	18	甕(口縁部片)				1~2mm以下の砂粒を含む	灰黄褐色	やや良好	ヨコナデ、指圧痕、 ハケ目	指圧痕、ナデ	
"	"	19	甕(口縁部片)				3mm以下の砂粒、 金剛砂を多く含む	赤褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
"	"	20	甕(口縁部片)				3mm以下の砂粒、 微砂粒を多く含む	暗黄褐色/黄褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目、 指圧痕	ヨコナデ、ナデ	
"	"	21	甕(口縁部片)				微砂粒を含む	暗黄褐色	やや良好	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
"	"	22	甕(口縁部片)	14.8			微砂粒を少し含む	明黄褐色/赤褐色	やや良好	ヨコナデ、 不明(厚縁)	ヨコナデ	
"	"	23	甕(口縁部片)	39.8			1~2mm以下の砂粒を含む	黄褐色	やや良好	不明(厚縁)、ナデ、 ヨコナデ	不明(厚縁)、ナデ	
"	"	24	甕(口縁部片)				0.5~1mm以下の微砂粒を 含む	暗黄褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
"	"	25	大甕 (口縁部片)				2mm以下の砂粒を含む	淡黄褐色/淡茶色	やや良好	不明(厚縁)、 ヨコナデ	不明(厚縁)	
"	"	26	甕(口縁部片)	38			1~2mm以下の砂粒、赤色粒 を含む、白色粒が少し含む	淡黄色	やや不良	不明(厚縁)、 ヨコナデ(厚縁)	不明(厚縁)	
"	"	27	甕(口縁部片)				1mm以下の砂粒、角閃石、赤色 粒、金剛砂、石灰を多く含む	明黄褐色	やや不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
"	"	28	甕(口縁部片)				0.5以下の微砂粒、 赤色粒を含む	淡黄色/淡黄褐色	やや良好	ヨコナデ、 不明(厚縁)	不明(厚縁)	
"	"	29	甕(口縁部片)				3mm以下の砂粒、微砂粒、 角閃石を多く含む	明茶色/明黄褐色	やや良好	ヨコナデ、 不明(厚縁)	不明(厚縁)	
"	"	30	甕(口縁部片)				2mm以下の砂粒、角閃石、 微砂粒を含む	黄褐色/暗黄褐色	やや良好	不明(厚縁)	不明(厚縁)	
"	"	31	鉢(1/2割)	17.2	16.05		5mm以下の砂粒、角閃石、 赤色粒、石灰を多く含む	明茶色(外、黒斑有り)	やや良好	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目、指圧痕	面縁に数付痕
"	"	32	甕(口縁部片)				微砂粒を含む	丹塗	やや良好	ヨコナデ、 丹塗(一部厚縁)	ヨコナデ、 丹塗(一部厚縁)	
"	"	33	甕(口縁部片)				1mm以下の砂粒、角閃石が少し 含む	淡黄褐色	やや良好	不明(厚縁)、ヨコナ デ、丹塗(一部厚縁)	不明(厚縁)	
第50図	"	34	甕(口縁部片)	19			1~2mm以下の砂粒、 赤色粒を含む	淡黄褐色	やや良好	不明(厚縁)、 竹文様、刻目	不明(厚縁)	
"	"	35	甕(口縁部片)	22.2			焼遺されて、暗色粒を含む	淡黄白色(外、黒斑有り)	良好 焼遺不良	不明、ヨコナデ、指圧痕、又 は、面縁の端に少し付く	ヨコナデ	外、指圧有り
"	"	36	甕(口縁部片)	19.8			5mm以下の砂粒、金剛砂を 多く含む	淡黄白色/淡白色、淡灰色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目、 ナデ	指圧痕	
"	"	37	甕(口縁部片)	16.4			3mm以下の砂粒、白色砂粒を 多く含む	淡黄褐色	やや不良	不明(厚縁)	不明(厚縁)、一部割 り有り	

表17 船底遺跡 出土土器観察表 ①

海図 番号	出土 品目	器物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第60図	S01	38	甕(口縁破片)	16			1~3mm以下の砂粒を多く含む	淡黄褐色/淡茶色	やや良好	割目、不明(摩耗)	不明(摩耗)	
		39	甕(口縁破片)	10.8			1~3mm以下の砂粒を含む	明黄褐色/淡黄褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目、ナデ	
		40	高杯 (下半部1/4損)		14.7		2mm以下の砂粒、金銀母、 角閃石を多く含む	暗茶褐色/黒褐色	やや良好	割目、不明(摩耗)、強い 指痕、ハケ目によるナデ	ハケ目	
		41	丸底の甕(2/4損)				1~2mm以下の砂粒、 赤色粒子を少し含む	淡黄褐色(黒斑有り)/ 黄茶褐色	やや良好	ナデ、不定ヘリ割り	ハケ目、工具による ナデ	
		42	甕(2/4損)		7.9		1~2mm以下の砂粒、 赤色粒子を少し含む	淡黄褐色(外黒斑有り)	やや良好	ハケ目、不明(摩耗)	不明(摩耗)、指痕	
		43	甕(底部1/2損)		6.3		3mm以下の砂粒、 圓筒母粒を多く含む	暗茶色/赤茶色	やや良好	ハケ目、底部にハケ 目、むかひに付着	不明(摩耗)	
		44	高杯(脚破片)		12.9		1~2mm以下の砂粒を含む	暗灰色	やや良好	ハケ目(摩耗)、 ヨコナデ	ナデ、ハケ目、 指痕	
		45	甕(1/4損)		19.4		3mm以下の砂粒を多く含む	暗茶色/赤茶色	やや良好	ヨコナデ、切ぎ、磨り 跡のハケ目、指痕	ハケ目、ヨコナデ	
		46	甕(口縁破片)		26		1~2mm以下の砂粒を含む、 角閃石を少し含む	黄茶褐色	やや良好	ハケ目(摩耗)、 ヨコナデ	ナデ、ハケ目、 指痕	
		47	甕(口縁破片)		26		1~2mm以下の砂粒を含む、 角閃石を少し含む	淡黄褐色/暗茶褐色	やや良好	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
		48	甕(口縁破片)		20.2		1~2mm以下の砂粒を含む	赤黄褐色	やや良好	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
		49	甕(口縁1/4損)		17		3mm以下の砂粒、赤色粒子、 角閃石、金銀母、赤色粒子を多く含む	暗茶色/明黄褐色	やや良好	ヨコナデ、 不明(摩耗)	不明(摩耗)	
		50	甕(口縁部破片)				3mm以下の砂粒、赤色粒子、 角閃石、金銀母、赤色粒子を多く含む	茶褐色/赤茶色	やや良好	ハケ目、ヨコナデ		
		51	甕(口縁部破片)				石炭、金銀母、 赤色粒子を多く含む	黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目、 ハケ目、不明	不明(摩耗)	
		52	甕(口縁部破片)				1~2mm以下の砂粒を含む	淡黄褐色/黄茶褐色	やや良好	強い割目、不明	不明	
		53	甕(口縁部破片)				1~2mm以下の砂粒を含む	暗茶褐色/淡茶色	やや良好	不明	不明	
		54	大甕(口縁部破片)		48		1~2mm以下の砂粒を多く含む	淡黄褐色	やや良好	割目、切ぎ、ハケ目	ハケ目(摩耗)、磨り	
		55	大甕(口縁部破片)		30		1~5mm以下の砂粒を多く含む	淡黄褐色	やや良好	不明、切ぎ	ヨコ方向ハケ目	
		56	大甕 (口縁部破片)				5mm以下の、角閃石、金銀母、 赤色粒子を多く含む	淡黄褐色/淡黄褐色	やや良好	割目、不明(摩耗)、 ヨコナデ	ハケ目、ヨコナデ	
		57	甕(口縁部破片)				1~2mm以下の砂粒を多く含む	暗茶褐色/淡黄褐色	やや良好	割目、ハケ目、ヨコ ナデ、ヨコナデ	ヨコ方向ハケ目(摩 耗)、不明(摩耗)	
		58	甕(口縁部破片)				1~3mm以下の砂粒を多く含む、 赤色粒子を含む	暗茶褐色(黒斑有り)/ 暗黄褐色	やや良好	割目、ハケ目、強い 指痕、ハケ目、ヨコナデ	不明	
		59	甕(口縁部破片)				1~2mm以下の砂粒を多く含む、 赤色粒子を含む	明黄褐色	やや良好	割目、不明(摩耗)、ヨ コナデ、切ぎ(摩耗)	ハケ目(摩耗)、 不明(摩耗)	
		60	甕(口縁1/4損)		20.4		3mm以下の砂粒、金銀母、 赤色粒子を多く含む	明黄褐色	やや良好	割目、ヨコナデ ハケ目、不明(摩耗)	不明(摩耗)	
		61	甕(口縁部破片)				1~2mm以下の砂粒を多く含む	黄茶褐色/淡黄褐色	やや良好	割目、ヨコナデ、 ハケ目	ハケ目	
		62	甕(口縁部破片)				1mm以下の砂粒を多く含む、 赤色粒子を含む	淡黄褐色/暗茶褐色	やや良好	割目、ヨコナデ、ハケ目、 ヨコナデ、強い指痕	不明	
第61図	S01	63	甕(底面片)		8.1		1~2mm以下の砂粒を多く含む	淡黄褐色/淡黄褐色	やや良好	不明(摩耗)	割目による不明	
		64	甕(底面片)		8		1~2mm以下の砂粒を多く含む	淡黄褐色(黒斑有り)/ 淡黄褐色	やや良好	ハケ目、不明(摩耗)	不明(摩耗)	
		65	甕(底面片)		8.6		1~2mm以下の砂粒を多く含む	淡黄褐色/暗茶褐色	やや良好	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
		66	甕(底面片)		6.6		細砂粒を含む	明黄褐色	やや良好	不明(摩耗)	ナデ(摩耗)	
		67	甕(底面1/2片)		10		2mm以下の砂粒、 圓筒母粒を多く含む	黄茶褐色(黒斑有り)/暗茶褐色	やや良好	不明(摩耗)	ナデ(指痕)	
		68	甕(底面片)		6.2		1~2mm以下の砂粒を多く含む、 赤色粒子を含む	淡黄褐色(外黒斑有り)	やや良好	ナデ、 工具によるナデ	ナデ	
		69	甕(底面片)		6.2		細砂粒、赤色粒子を含む	明黄褐色	やや良好	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
		70	甕(底面片)		4.3		1mm以下の砂粒、 赤色粒子を含む	淡黄褐色/黄茶褐色	やや良好	不明(摩耗)	割目による不明	
		71	甕(底面片)		8.3		1~2mm以下の砂粒を少し含む	明黄褐色	やや良好	不明(摩耗)	工具によるナデ	
		72	甕(1/2片損)		7.2		3mm以下の砂粒を多く含む	淡黄褐色/淡茶色	やや不良	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
		73	甕(底面片)		6.3		1~2mm以下の砂粒を多く含む	淡黄褐色(内黒斑有り)	やや良好	ハケ目、不明(摩耗)	工具によるナデ	
		74	甕(底面片)		6.1		1~2mm以下の砂粒を多く含む	明黄褐色/暗茶褐色	やや良好	ハケ目(摩耗)、不明	工具によるナデ	
		75	甕(底面片)		6.6		1~2mm以下の砂粒を含む	明黄褐色	やや良好	ハケ目、ナデ	ナデ	
		76	甕(底面片)		6.9		1~5mm以下の砂粒を含む、 赤色粒子を含む	淡黄褐色/淡黄褐色	やや良好	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
		77	甕(底面片)				2mm以下の砂粒、 白色粒子を多く含む	赤茶褐色/暗茶褐色	やや不良	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
		78	甕(底面片)		5.6		3mm以下の砂粒、 赤色粒子を多く含む	明黄褐色/淡黄褐色	やや不良	わずかにハケ目	不明(摩耗)	
		79	甕(底面1/2片損)		6		3mm以下の砂粒、 圓筒母粒を多く含む	明黄褐色/茶褐色	やや良好	ハケ目、工具によるヨ コ方向のナデ、ナデ	工具による不定方向 のナデ	
		80	甕(底面片)		5.6		2mm以下の白色砂粒、 圓筒母粒を多く含む	明黄褐色/暗茶褐色	やや良好	ハケ目、 不明(摩耗)、ナデ	ナデ	
		81	甕(底面片)		6.8		3mm以下の砂粒を多く含む	明黄褐色	やや良好	ハケ目、 強いナデ(指痕)	ナデ	
		82	甕(底面片)		6.2		1~2mm以下の砂粒を含む	明黄褐色/淡黄褐色	やや良好	ハケ目(摩耗)、不明	不明(摩耗)	
		83	甕(底面片)		5.5		1~3mm以下の砂粒を多く含む	明黄褐色/淡黄褐色	やや良好	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
		84	甕(底面片)		5.1		2mm以下の砂粒を多く含む	黄茶褐色/暗茶褐色	やや良好	ハケ目、不明(摩耗)	強いナデ、指痕	
		85	甕(底面片)		5.8		3mm以下の砂粒、 圓筒母粒を多く含む	茶褐色/明黄褐色	やや良好	ハケ目、不明(摩耗)	不明(摩耗)	
		86	甕(底面片)		5.8		1~2mm以下の砂粒を含む	暗茶褐色	やや良好	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
		87	甕(底面片)		6.4		1~2mm以下の砂粒を多く含む	淡黄褐色	やや良好	ハケ目(摩耗)、ナデ	不明(摩耗)	

表18 船底遺跡 出土土器観察表 ②

船内 番号	出土 番号	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	国 産		備 考
										外 面	内 面	
第61回	SD01	88	甕(底面片)		7.2		1~2mm以下の砂粒を含む	暗黄灰褐色/明黄灰褐色	やや良好	ハク目、不明、 指痕(厚)	不明(厚)	
	"	89	甕(底面片)		5.5		微砂粒を含む	暗黄灰褐色/暗黄灰褐色	やや良好	ハク目(厚)、 不明(厚)	不明(厚)	
	"	90	甕(底面片)		6.2		2~3mm以下の砂粒を多く含む	明黄灰褐色/暗黄灰褐色	やや良好	ハク目、不明、 指痕(厚)	不明(厚)	
	"	91	甕(底面片)		6.8		2mm以下の砂粒、石英、 角閃石を多く含む	淡赤黄色/淡黒色	不良	不明(厚)	指痕(厚)	
	"	92	甕(底面片)		6.2		1~2mm以下の砂粒を含む	黄灰色/暗灰茶褐色	やや良好	ハク目、不明	不明(厚)	
	"	93	甕(底面片)		6.6		1~2mm以下の砂粒を含む	暗黄灰褐色/暗黄灰褐色	やや良好	ハク目(厚)、不明	不明(厚)	
	"	94	甕(底面片)		7.7		1~2mm以下の砂粒を多く含む	赤黄灰褐色	やや良好	ハク目、不明	不明(厚)	
	"	95	甕(底面片)				2mm以下の砂粒、金雲母を 多く含む	淡黄白色(黒斑有り)/淡黄色	やや良好	ハク目、ヨコナデ、 ナデ	不定方向の強いナ デ、指痕(厚)	
	"	96	甕(底面片)		5.55		2mm以下の砂粒、微砂粒を 多く含む	黄茶褐色/灰茶褐色	やや良好	タテ方向ハク目、 ハク目、不明(厚)	工具によるナ、指痕(厚) くも一般磨きのみ不明	
	"	97	甕(底面片)		6		1~2mm以下の砂粒を多く含む	黄灰褐色/黄灰色	やや良好	ハク目(厚)	不明(厚)	
第62回	"	98	甕(底面片)		4.95		1mm以下の砂粒、 微砂粒を含む	淡灰茶色	やや良好	タテ方向ハク目、 不明(厚)	不明(厚)	
	"	99	甕(底面片)		5.4		1mm以下の砂粒、微砂粒を 多く含む	明黄灰色/淡黄灰色	やや良好	ハク目(厚)、 不明(厚)	不明(厚)	
	"	100	甕台(1/2片)	16	17.2	17	3mm以下の砂粒を多く含む	淡黄灰色	やや良好	ハク目、不明、 ハク目後向き	ハク目、不明	
	"	101	甕台 (断面1/2片)			18.2	3mm以下の砂粒、赤色砂子、 石英粒を多く含む	淡褐色/明茶色	やや不良	タテ方向ハク目、 不定方向の向き	不明(厚)	
	"	102	甕台 (上半部1/2片)	14.4			1mm以下の砂粒、赤色砂子を 多く含む	茶褐色/明茶色	やや良好	ハク目、 黒いササゲ目	ナデ(指痕)	
	"	103	甕台(3/4片)	8.8	8.7	14.1	2mm以下の砂粒を多く含む	淡黄灰褐色	やや良好	ハク目、ヨコナデ	ヨコナデ、工具による 丁寧なナデ	
	"	104	甕台(口縁1/4片)	14.4			3mm以下の砂粒、金雲母、 角閃石を多く含む	明茶色	やや良好	ハク目(強い)、ナ デ	ハク目(強い)、 工具によるナデ	
	"	105	甕台 (上半部欠損)	10.5	9.7	8.8	3mm以下の砂粒、赤色砂子を 多く含む	淡黄灰褐色	やや良好	不明(厚)	不明(厚)	
	"	106	甕台(口縁1/4片)	18			3mm以下の砂粒、赤色砂子を 多く含む	明茶色/暗茶色	やや良好	割目(厚)、 ヨコ方向の向き	不明(厚)	
	"	107	甕台(3/4片)	7.7	8	13.3	2mm以下の砂粒、赤色砂子、 角閃石を多く含む	明黄灰色/淡赤黄色	やや良好	ハク目	タテ方向のナデ	
第63回	"	108	甕台(3/4片)		8.4		2mm以下の砂粒を多く含む	黄茶褐色	やや良好	ハク目、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	
	"	109	支脚(3/4片)		10	9	2mm以下の砂粒を多く含む	淡黄灰色	やや良好	割目(やや厚)、 向き	ナデ、ハク目	
	"	110	支脚(3/4片)		12	9.5	2mm以下の砂粒を少し含む	淡黄灰褐色	やや良好	不明(厚)	不明(厚)、 ハク目、指痕(厚)	
	"	111	支脚(上部分)		6		4mm以下の砂粒を含む	淡黄灰褐色	やや良好	ハク目(厚)、 不明(厚)	指痕(厚)	
	"	112	支脚(口縁部分)		8.2		1mm以下の砂粒を多く含む	淡黄灰色/暗黄灰色	やや不良	不明(厚)、向き	ナデ、 工具によるナデ	
	"	113	支脚 (上部のみ残る)	4.35	7		2mm以下の砂粒、微砂粒を 含む	暗黄灰色/残存のみ	やや良好	ヨコナデ、タテ方向の ナデ、厚(厚)	不明(厚)	
	"	114	陶師器 (断面部分)				1mm以下の砂粒を少し含む	丹塗、黄灰色/黄灰茶色	やや良好	丹塗(ほぼ厚)	不明	
	"	115	陶師器 (天部1/4片)				指痕が、白色砂粒を 少量含む	暗灰色/明灰色	良好 厚、 ヨコナデ	悪い指痕(上向き)、 ヨコナデ	不定方向のナデ、 ヨコナデ	
	"	116	陶師器 (口縁部分)	11.8	4.55		指痕が、白色砂粒を 少量含む	淡黄白色	良好 厚、 ヨコナデ	悪い指痕(上向き)、 ヨコナデ	悪い指痕(上向き)、 ヨコナデ	
	"	117	土師器 (口縁部分)				1mm以下の砂粒、赤色砂子を 多く含む	淡茶色	やや不良	悪い指痕(上向き)、 ヨコナデ	悪い指痕(上向き)、 ヨコナデ	
第64回	"	118	土師器 (口縁部分)				3mm以下の砂粒、赤色砂子を 含む	褐色	やや不良	不明(厚)	不明(厚)	
	"	119	土師器 (口縁部分)	12			2mm以下の砂粒を多く含む	淡黄灰色/明黄灰色	やや良好	不明(厚)	不明(厚)	
	"	120	高杯(断面片)		13.8		微砂粒、赤色砂子を少し含む	明黄灰色	やや不良	不明(厚)	ナデ	
	"	121	土師器 (口縁部分)		3.9		微砂粒を少し含む	淡黄灰色/淡黄灰色	やや良好	ナデ	指痕(厚)	
	"	122	土師器 (口縁部分)		2.2	5.7	微砂粒を含む、赤色砂子を 含む	淡黄灰色(外、裏面有り)	やや良好	工具が残り、 工具によるナデ	ナデ	
	"	123	土師器 (口縁部分)	5.8	5	3.5	2mm以下の砂粒を含む	淡黄灰褐色(外、裏面有り)/ 明茶色	やや良好	不明(厚)	不明(厚)	
	"	124	土師器 (口縁部分)		1.6		2mm以下の砂粒を含む	明黄灰褐色(裏面有り)/ 明茶色	やや良好	ヨコナデ、強い指痕、 ハク目(厚)	ヨコナデ、工具による ナデ、指痕(厚)	
	"	125	土師器 (口縁部分)				白色の砂粒を少し含む	褐色/淡黄灰色	やや良好	ナデ	ヨコナデ	
	"	126	土師器 (口縁部分)		9	3.4	微砂粒、赤色砂子を 含む	淡灰白色	不良	不明(厚)	不明(厚)	
	"	127	土師器 (口縁部分)		6		2mm以下の砂粒を少し含む	明黄灰色	やや良好	不明(厚)	不明(厚)	
第65回	SDG2	1	陶師器 (断面片)				やや精選されている、 微砂粒を含む	明黄灰色/明灰色	やや良好	うすく平らな指痕	ヨコナデ、ナデ、 指痕(厚)	※指痕無し、 透き透かぬ色
	"	2	陶師器 (断面片)				白色の砂粒を多く含む	明灰色	やや良好	指痕(上向き)	ナデ	
	"	3	陶師器 (断面片)				白色砂粒、赤色砂子を多く含む	暗黄灰色/黒褐色	良好	ヨコナデ、カギ目	ヨコナデ、中心状の 指痕(厚)	※指痕有り
	"	4	甕(口縁部分)				3mm以下の砂粒、石英粒を 多く含む	暗灰色/黄灰色	やや不良	不明(厚)	不明(厚)	
	"	5	大甕 (口縁部分)				5mm以下の砂粒、微砂粒を 含む	淡黄灰色/明茶褐色	不良	割目、不明(厚)、 ヨコナデ、割目	不明(厚)	
	"	6	甕台 (断面1/4片)		12		金雲母、石英、角閃石を 多く含む	淡黄白色	不良	不明(厚)	不明(厚)	
	"	7	甕台 (断面1/4片)				2mm以下の砂粒を多く含む	淡黄灰色	やや不良	不明(厚)	不明(厚)	
	"	8	土師器 (口縁部分)				白色砂粒を多く含む	淡灰褐色	やや良好	ヨコナデ、ハク目の 上向きヨコナデ	ヨコナデ、指痕(厚)、 指痕(厚)	※指痕有り

表19 船底遺跡 出土土器観察表 ③

検出 番号	出土 遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第66回	SD04	2 須恵器類 (口縁部)				微砂粒を含む	明黄褐色	不良	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
"	"	3 須恵器類(口縁部)				微砂粒を含む	暗灰褐色/灰色	やや良好	格子目印	同心円印	※底本有り
"	"	4 土師器(口縁部)			8.5	4mm以下の砂粒を含む	明黄褐色	やや良好	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
"	"	5 須恵器類(口縁部)				精選され、微砂粒を少量含む	淡灰色/灰褐色	やや良好	格子目印	印	
"	SD07	1 須恵器類 (底面)				白色砂粒、黒色砂子を多く含む	明白灰色	やや不良 還元不良	高倉倉庫時の ヨコナデ	不明(摩耗)	
"	"	2 須恵器類 (底面)				精選され、白色砂粒を含む	明灰色/明黄褐色	やや良好	ヨコナデ、高倉倉庫、工 具痕跡が確認に入る	ヨコナデ、 不定方向ナデ	
"	"	3 土師器類 (把手のみ)				3mm以下の砂粒、石炭灰、赤色砂 子、角閃石、雲母微粒子を多く含む	明褐色	やや不良	強い粗度	不明(摩耗)	
"	"	4 須恵器類(口縁部)				黒色砂子を含む	灰褐色/灰色	良好	格子目印、上から 自然剥がれ	重なり同心円印 に入る	※底本有り
"	"	5 須恵器類(口縁部)				白色砂粒を多く含む	暗灰色/黄褐色	やや良好	格子目印の上から 剥がれハイク	平行印	※底本有り
"	"	6 高坏(口縁と脚部の 接合部)				よく精選されている、赤色砂子を 少量含む	淡褐色	やや不良	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
"	SD08	1 須恵器類(口縁部)				精選されている、白色砂子を 少量含む	暗赤茶褐色/暗灰褐色	やや良好	平行印	同心円印	※底本有り
"	"	2 須恵器類(口縁部)				白色砂子を少量含む	暗灰褐色/暗灰色	やや良好	ヨコナデ	ヨコナデ	
"	"	3 須恵器類(口縁部)				精選されている、白色砂子を 少量含む	暗赤茶褐色/灰茶褐色	やや良好	平行印	印	※底本有り
"	"	4 須恵器類 (底面)				2mm以下の砂粒を多く含む	淡黄茶褐色/灰色	やや良好	強いヨコナデ	ヨコナデ後ナデ、 還元痕	
"	"	5 須恵器類(口縁部)				白色砂粒を多く含む	暗灰色/灰色	やや良好	印	同心円印	※底本有り
"	SD09	1 須恵器類(口縁部)				3mm白色砂粒を少し含む	暗赤茶褐色	やや良好	印	同心円印	※底本有り
"	"	2 須恵器類(口縁部)				3mm以下の砂粒を多く含む	暗黄褐色/黄褐色	やや良好	格子目印	印	※底本有り
"	"	3 須恵器類(口縁部)				精選されている	暗黄褐色/黄褐色	やや良好	格子目印	印	※底本有り

表20 船底遺跡 出土土器観察表 ④

検出 番号	出土 遺物 番号	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	岩 質	備 考
第66回	SD01	1 台石	34	14.8	9.35		安山岩	
		2 台石	16.7	14.2	10.1		安山岩	
		3 台石	8.3	14.9	6.9		安山岩	※全体摩耗している
		4 台石	11.2	8.6	6.5		安山岩	
		5 台石	17.8	8	6.4		安山岩	
		6 台石	22.4	10.1	7.3		安山岩	
		7 台石	5.9	8.7	5.3		安山岩	
第68回	"	8 くぼみ石	12.9	12.2	6.4	1.46	安山岩	
		9 くぼみ石	9.8	11	6.1		安山岩	
		10 くぼみ石	11.3	10.4	6.1	860	安山岩	
		11 くぼみ石	9.1	8.1	5.8	610	安山岩	
		12 くぼみ石	10.4	8	4.6		安山岩	
		13 くぼみ石	9.6	7.75	5.4		安山岩	
		14 くぼみ石	10.05	7.9	2.5	260	片岩	
第67回	"	15 くぼみ石	8.6	8.1	4.4	430	安山岩	
		16 磨石	16.7	8.15	5.8		安山岩	
		17 磨石	15.2	10.8	5	1.17	安山岩	
		18 磨石	11.8	9.3	6.3	1	安山岩	
		19 磨石	9.8	8.1	6.4	670	安山岩	
		20 磨石	8.6	8.3	5.9		安山岩	
		21 磨石	8.3	6.2	3.7		安山岩	
		22 磨石	9	8.9	8.2	880	安山岩	
		23 磨石	11.2	11.2	5.6	760	安山岩	※風化進む、火を受けたか?
		24 磨石	10	8.7	5.75	650	安山岩	
		25 磨石	10.9	8.2	4	490	安山岩	
		26 磨石	8.8	5.1	9.1	550	安山岩	
		27 磨石	7.8	5	4	180	安山岩	
		28 磨石	7.6	9.9	3.6		安山岩	
		29 磨石	10.6	5.5	6.3	640	安山岩	
		30 磨石	9.6	4.2	5.2	270	安山岩	
		31 磨石	11.2	7.8	4.9		安山岩	
		32 磨石	10.1	5.4	5.1	380	安山岩	
		33 磨石	9	9	4.2		安山岩	
		34 磨石	8.8	6.7	5.6		安山岩	
		35 磨石	9.3	5.6	4.4	310	安山岩	
		36 磨石	7.4	6.6	4.2	340	安山岩	

表21 船底遺跡 出土土器観察表 ①

採回 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	岩 質	備 考
第64回	SD01	1	石刻	5.4	2.7	0.4	11.4	片岩	
＊	＊	2	石刻	9.3	4.1	0.9	68	片岩	未製品
＊	＊	3	石のみ	5.3	1.8	1.1	22.6	粘板岩	※全体摩耗している
＊	＊	4	挟入柱状片刃石斧					粘板岩	未製品
＊	＊	5	紡錘車(土製品)	(最大径) 4.5	(孔径) 0.8	0.7			色:黄茶褐色 胎土:砂粒を多く含む
＊	＊	6	紡錘車(未製品)	7	3.6	0.8	32.4	粘板岩	
＊	＊	7	大型蛤刃石斧	16.1	6.6	4.9	800	結晶片岩	
＊	＊	8	大型蛤刃石斧	8.3	7.9	3.4		安山岩	
＊	＊	9	大型蛤刃石斧	5.4	2.3	3.6	80	安山岩	
＊	＊	10	大型蛤刃石斧	11.2	6.7	4.3		安山岩	
＊	＊	11	大型蛤刃石斧	5.1	7.8	3.8		安山岩	
＊	＊	12	石廬丁	11	4	0.6		安山岩	未穿孔
＊	＊	13	石廬丁	9.6	3.7	0.7		粘板岩	
＊	＊	14	石廬丁(未製品)	13.8	5.8	1.2		片岩	
＊	＊	15	石廬丁(未製品)	9.7	4.9	1.1		片岩	
＊	＊	16	石廬丁(未製品)	12.3	8.5	0.95		片岩	
＊	＊	17	大型蛤刃石斧	8.6	8	2.8	320	蛇文岩	※風化が進む

表22 船底遺跡 出土石製品観察表 ②

採回 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	岩 質	備 考
第65回	SD01	1	磨製石鏃	3	2	0.3	1.9	輝緑凝灰岩	(穿孔あり)
＊	＊	2	磨製石鏃(未製品)	2.9	2.25	0.2	2.4	片岩	
＊	＊	3	石鏃(未製品)	3.55	3.4	0.6	6.2	黒曜石(阿蘇産)	
＊	＊	4	石鏃	3.05	2.25	0.55	2.5	サヌカイト	色:灰色

表23 船底遺跡 出土石製品観察表 ③

採回 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	岩 質	備 考
第63回	SD01	1	礫石	25.8	16.8	13.6		砂岩	
＊	＊	2	礫石	13.3	9.9	3.6		砂岩	※鉄錆有り
＊	＊	3	礫石	11.2	9.2	5.4	730	安山岩	
＊	＊	4	礫石	9.5	7.7	4.9	550	砂岩	
＊	＊	5	礫石	6.5	6.2	2.6		砂岩	※全体摩耗している
＊	＊	6	礫石	10.2	6.4	3.3	310	砂岩	
＊	＊	7	礫石	11.2	6.5	3.3		砂岩	
＊	＊	8	礫石	5.9	2.2	1.3	34.4	砂岩	
＊	＊	9	礫石	3.4	4.5	2.4	60	砂岩	

表24 船底遺跡 出土石製品観察表 ④

圖 版



(1) 楠町遺跡3次11地点 全景



(2) 楠町遺跡3次11地点 全景



(1) 楠町遺跡3次11地点 SK18-SK21



(3) 楠町遺跡3次11地点 SK20



(2) 楠町遺跡3次11地点 SK19



(4) 楠町遺跡3次11地点 SD13



(1) 茶ノ木田遺跡 発掘前



(2) 茶ノ木田遺跡 全景



(1) 茶ノ木田遺跡 全景



(2) 茶ノ木田遺跡 全景



(1) 茶ノ木田遺跡 SK01



(3) 茶ノ木田遺跡 SD01土層



(2) 茶ノ木田遺跡 SD01・SD02



(4) 茶ノ木田遺跡 SD02土層



(1) 牟田田遺跡 全景



(2) 牟田田遺跡 全景



(1) 牟田田遺跡 作業風景



(3) 牟田田遺跡 SD01・SD04



(2) 牟田田遺跡 SK02



(4) 牟田田遺跡 SD01土層



(1) 牟田田遺跡 SD02・SD03



(3) 牟田田遺跡 SD04



(2) 牟田田遺跡 SD02



(4) 牟田田遺跡 SD05



(1) 柳遺跡3次6地点 全景



(2) 柳遺跡3次6地点 全景



(1) 柳遺跡3次6地点 SB11



(3) 柳遺跡3次6地点 SB13



(2) 柳遺跡3次6地点 SB12



(4) 柳遺跡3次6地点 SB14・SK55



(1) 柳遺跡3次6地点 SK52



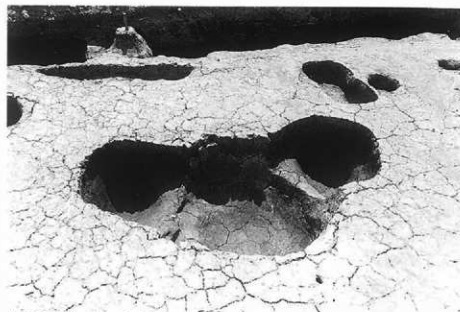
(2) 柳遺跡3次6地点 SK53



(3) 柳遺跡3次6地点
SK51・SD15

(4) 柳遺跡3次6地点
SD09

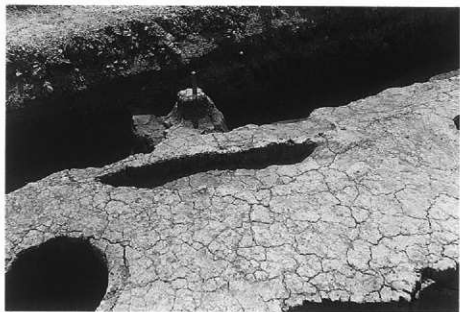




(1) 柳遺跡3次6地点 SK57・SK54・SK58



(3) 柳遺跡3次6地点 SK59



(2) 柳遺跡3次6地点 SK56



(4) 柳遺跡3次6地点 SK60



(1) 亀ノ甲・植初遺跡 発掘前



(2) 亀ノ甲・植初遺跡 発掘前



(1) 亀ノ甲・植初遺跡3次3・4地点 航空写真



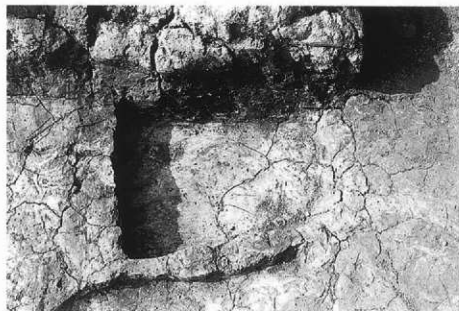
(2) 亀ノ甲・植初遺跡3次3・4地点 航空写真



(1) 亀ノ甲・植初遺跡3次1地点 全景



(2) 亀ノ甲・植初遺跡3次1地点 全景



(1) 亀ノ甲・植初遺跡3次1地点 SK01



(3) 亀ノ甲・植初遺跡3次1地点 全景



(2) 亀ノ甲・植初遺跡3次1地点 西部分



(4) 亀ノ甲・植初遺跡3次1地点 東部分



(1) 亀ノ甲・植初遺跡3次2地点 全景



(2) 亀ノ甲・植初遺跡3次2地点 全景



(1) 龜ノ甲・植初遺跡3次2地点 SK01



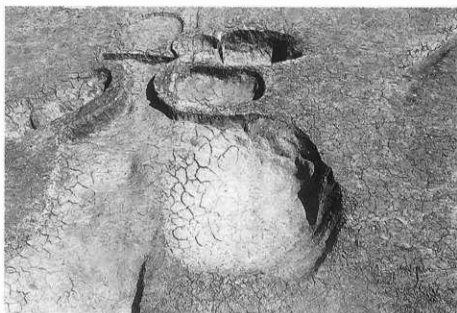
(3) 龜ノ甲・植初遺跡3次2地点 SK03



(2) 龜ノ甲・植初遺跡3次2地点 SK02



(1) 亀ノ甲・植初遺跡3次3地点 SD01



(2) 亀ノ甲・植初遺跡3次3地点 SK01



(1) 亀ノ甲・植初遺跡3次4地点 SD01



(2) 亀ノ甲・植初遺跡3次5地点 SD02



(1) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 全景



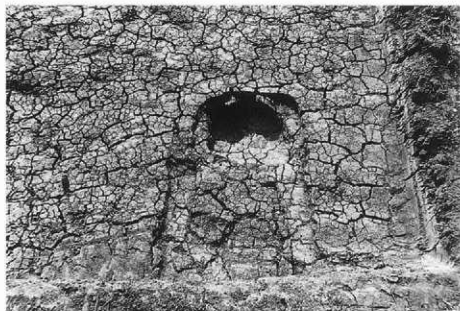
(2) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 全景



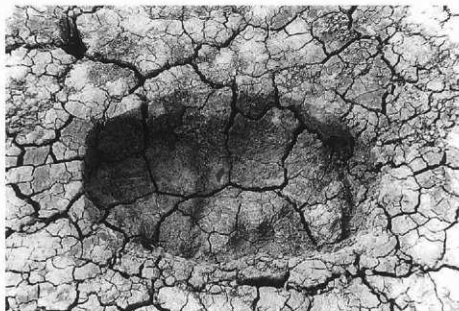
(1) 亀ノ甲・植初遺跡3次6地点 SD01・SD04



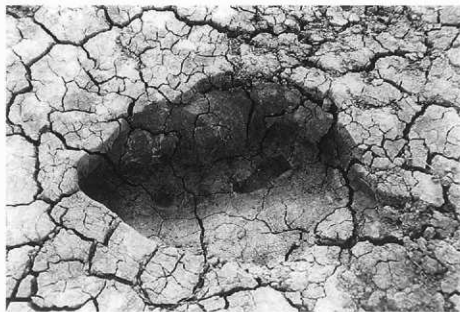
(2) 亀ノ甲・植初遺跡3次6地点 SD01・SD04



(1) 亀ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK01



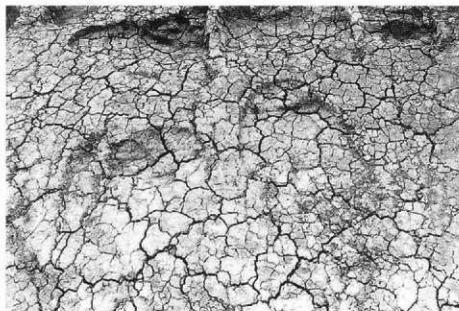
(3) 亀ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK03



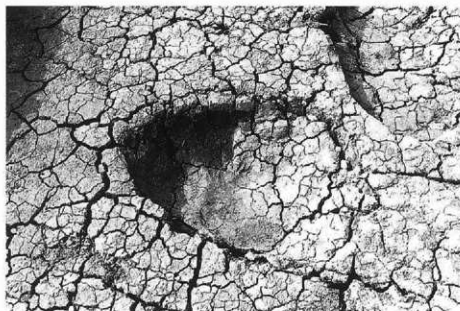
(2) 亀ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK02



(4) 亀ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK04



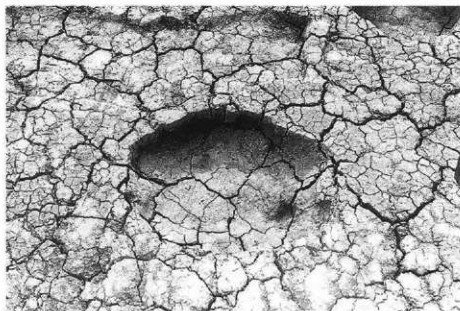
(1) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK05・SK06



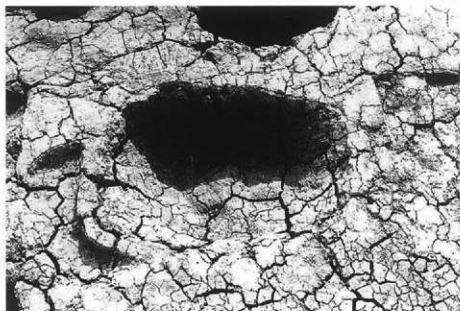
(3) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK08



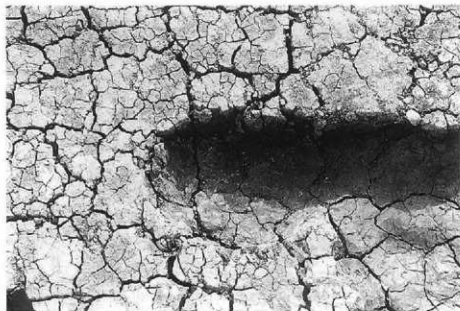
(2) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK07・SK27



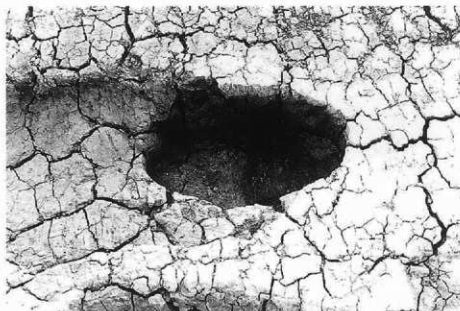
(4) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK09



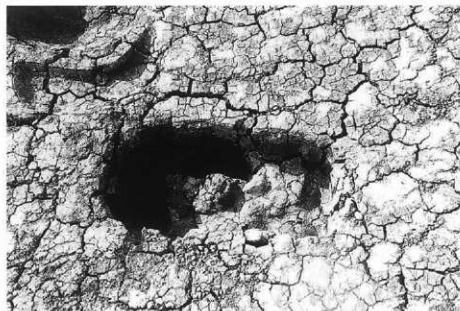
(1) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK10



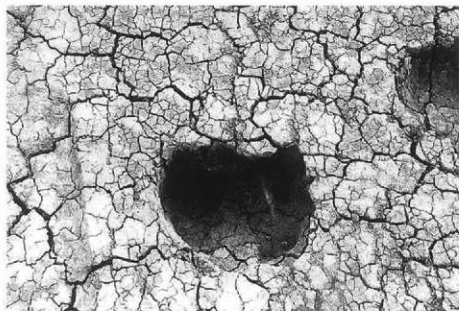
(3) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK12



(2) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK11



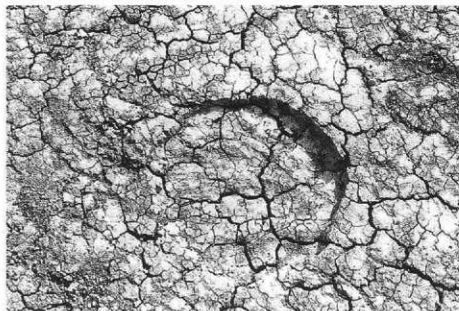
(4) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK13



(1) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK14



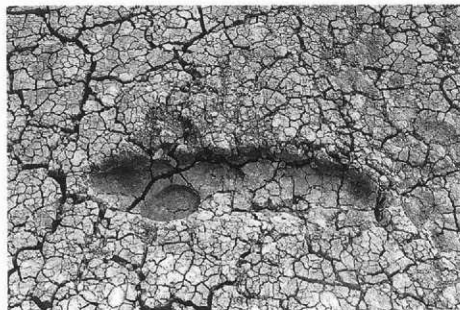
(3) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK16



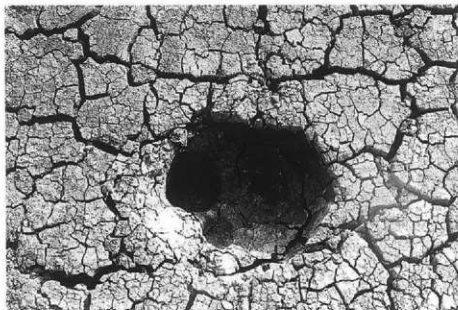
(2) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK15



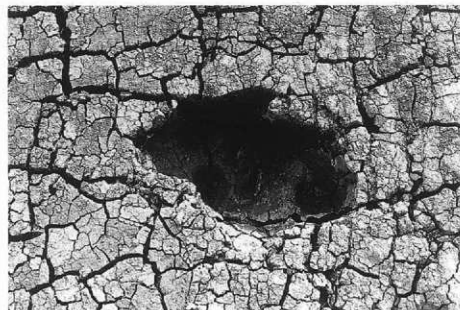
(4) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK17



(1) 亀ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK18



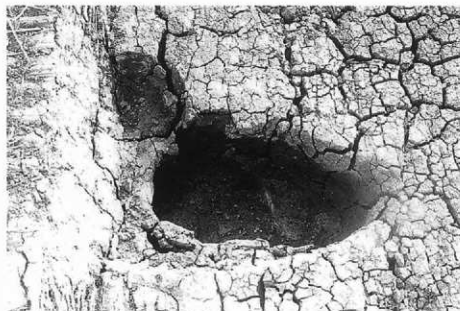
(3) 亀ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK20



(2) 亀ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK19



(4) 亀ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK21



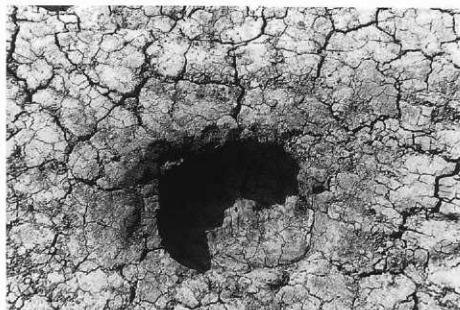
(1) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK22



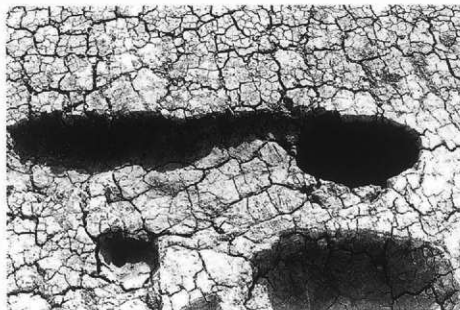
(3) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK24



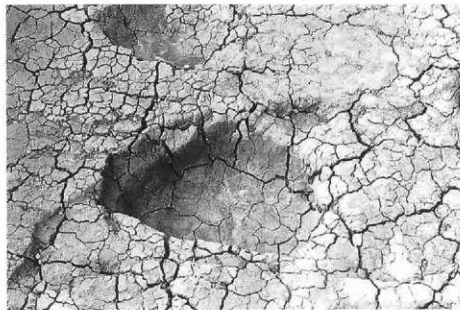
(2) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK23



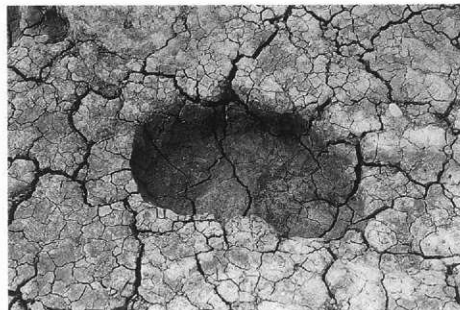
(4) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK25



(1) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK26



(3) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK29



(2) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SK28



(4) 龜ノ甲・植初遺跡3次6地点 SX01



(1) 亀ノ甲・植初遺跡3次6地点 SD02



(2) 亀ノ甲・植初遺跡3次6地点 SD03



(1)僧都遺跡1地点 全景



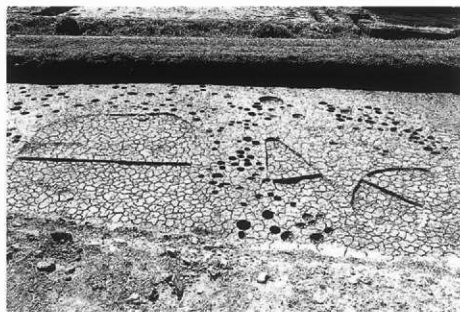
(2)僧都遺跡1地点 SD02



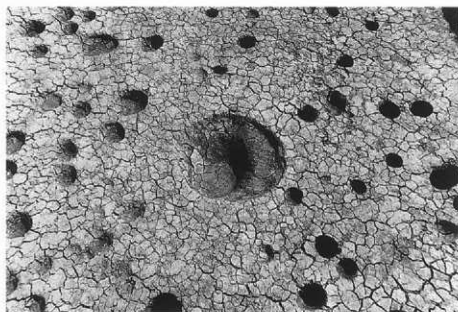
(1) 僧都遺跡2地点 全景



(2) 僧都遺跡2地点 全景



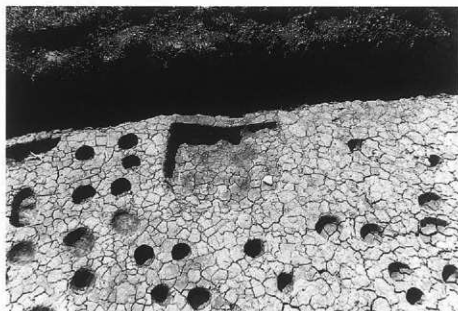
(1) 僧都遺跡2地点 SX01・SX02・SX03



(3) 僧都遺跡2地点 SK02



(2) 僧都遺跡2地点 SK01



(4) 僧都遺跡2地点 SK03



(1) 蒲原・植初遺跡3次 航空写真



(2) 蒲原・植初遺跡3次 全景



(1) 蒲原・植初遺跡3次 全景



(3) 蒲原・植初遺跡3次 SD12



(2) 蒲原・植初遺跡3次 SD12・SD13



(4) 蒲原・植初遺跡3次 SD13



(1) 後田遺跡5次 全景



(2) 後田遺跡5次 全景



(1) 後田遺跡6次 全景



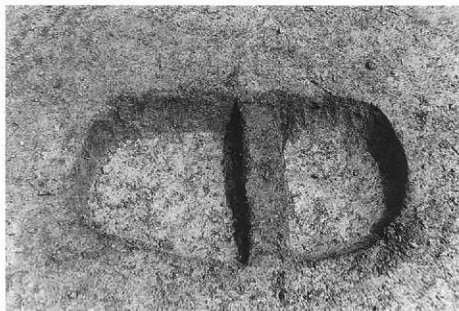
(2) 後田遺跡6次 全景



(1) 後田遺跡6次 SK01



(3) 後田遺跡6次 SK03



(2) 後田遺跡6次 SK02



(1) 今屋敷遺跡 全景



(2) 今屋敷遺跡 全景



(1) 今屋敷遺跡 SD01・SK01



(3) 今屋敷遺跡 SE01



(2) 今屋敷遺跡 SK02



(4) 今屋敷遺跡 SE02



(1) 今屋敷遺跡 SD03-SK03



(2) 今屋敷遺跡 SD02



(1) 船底遺跡 発掘前



(2) 船底遺跡 発掘前



(1) 船底遺跡 航空写真



(2) 船底遺跡 航空写真



(1) 船底遺跡 航空写真



(2) 船底遺跡 航空写真



(1) 船底遺跡 全景



(2) 船底遺跡 全景



(1) 船底遺跡 SD01・SE01



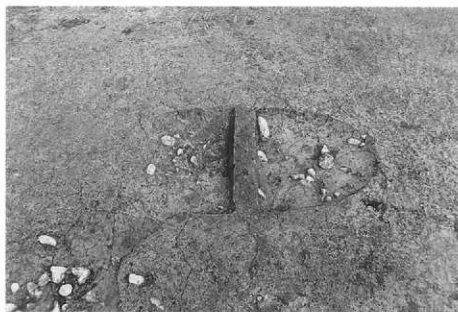
(3) 船底遺跡 SE02



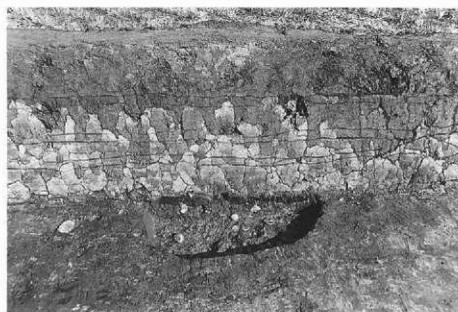
(2) 船底遺跡 SE01



(4) 船底遺跡 出土土器



(1) 船底遺跡 SK01



(3) 船底遺跡 SK03



(2) 船底遺跡 SK02



(4) 船底遺跡 SK04



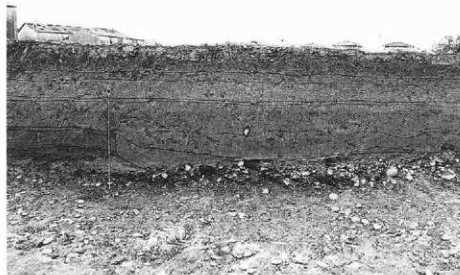
(1) 船底遺跡 SD01



(3) 船底遺跡 南側壁土層



(2) 船底遺跡 SD01



(4) 船底遺跡 南側壁土層



(1) 船底遺跡 SD01



(3) 船底遺跡 SD01



(2) 船底遺跡 SD01



(4) 船底遺跡 南側壁土層



(1) 船底遺跡 全景



(2) 船底遺跡 全景



(1) 船底遺跡 SD02



(3) 船底遺跡 SD04



(2) 船底遺跡 SD03



(4) 船底遺跡 SD05-SD06-SD07



(1) 船底遺跡 SD08・SD09



(3) 船底遺跡 作業風景



(2) 船底遺跡 全景・作業風景

報告書抄録

ふりがな	いっぽんこくどう442ごうやめちくごはいばすまいぞうふんかぎいちょうびょうこくしよ							
書名	一般国道442号八女筑後バイパス埋蔵文化財調査報告書							
副書名	福岡県八女市竜ノ甲・蒲原・大島・納楚所在遺跡の調査報告書							
巻次	V							
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第87集							
編著者名	赤崎敏男							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	834-8585 福岡県八女市本町647 TEL0943-23-1982							
発行年月日	西暦 2010年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ...	東経 ...	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平成18年度調査 楠町遺跡 (2次調査)	福岡県 八女市納楚	402109		33°13'15"	130°34'25"	060408~070323	4,000 m ²	遺物のみ
平成19年度調査 楠町遺跡 (3次調査)	・			33°13'00"	130°42'20"	070419~070508	330 m ²	
茶ノ木田遺跡	八女市大島			33°12'50"	130°33'55"	070425~070808	2,500 m ²	
牟田田遺跡	八女市納楚			33°12'50"	130°34'20"	070507~070626	700 m ²	
柳遺跡 (3次調査)	・			33°12'50"	130°34'20"	070528~070810	220 m ²	
竜ノ甲・植初遺跡 (3次調査)	八女市竜ノ甲			33°12'45"	130°32'10"	070920~070328	4,000 m ²	
僧都遺跡	・			33°12'50"	130°32'10"	070828~07.01.19	1,000 m ²	
蒲原・植初遺跡 (3次調査)	八女市蒲原			33°12'45"	130°32'20"	080104~080324	300 m ²	
後田遺跡 (5次調査)	八女市竜ノ甲			33°12'45"	130°32'10"	080304~080324	170 m ²	
平成20年度調査 後田遺跡 (6次調査)	八女市竜ノ甲					080516~080703	340 m ²	
今屋敷遺跡	八女市大島			33°12'50"	130°34'00"	080606~080829	550 m ²	
船底遺跡	八女市納楚			33°12'45"	130°34'30"	081016~090319	200 m ²	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
平成18年度調査 楠町遺跡 (2次調査)	集落・墓地	縄文~近世	住居跡・溝・土壇・妻棺墓 石棺墓・木棺墓・祭祀・土壇 溝利・落し穴・土壇		弥生式土器・石器 大型妻棺・須恵器・土師器		遺物編	
平成19年度調査 楠町遺跡 (3次調査)	集落	縄文~歴史	落し穴・土壇・溝・柱穴		須恵器・土師器・陶磁器			
茶ノ木田遺跡	集落	近世	溝・柱穴		陶器・磁器・土師器			
牟田田遺跡	集落	奈良~平安	溝・柱穴		須恵器・土師器			
柳遺跡 (3次調査)	集落	弥生時代	住居跡・土壇・溝		弥生式土器・石器			
竜ノ甲・植初遺跡 (3次調査)	集落	歴史時代	溝・土壇		土師器・須恵器・青磁・瓦			
僧都遺跡	集落	歴史時代	溝・土壇		土師器・須恵器・青磁・瓦			
蒲原・植初遺跡 (3次調査)	集落	縄文・古墳~歴史	溝・土壇・溝		須恵器・土師器			
後田遺跡 (5次調査)	集落	弥生時代	土壇		なし			
平成20年度調査 後田遺跡 (6次調査)	集落	弥生時代	土壇		弥生式土器			
今屋敷遺跡	集落	歴史・近世	溝・土壇・井戸		須恵器・土師器・陶磁器			
船底遺跡	集落	弥生・古墳~歴史	旧河川・溝・井戸・土壇		弥生式土器・石器・須恵器・土師器			

埋藏文化財調査報告書 V

八女市文化財調査報告書

第 87 集

平成22年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647

印刷 橋爪印刷
八女市吉田1899-1